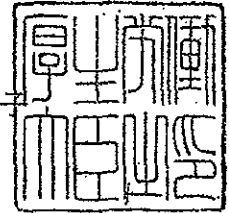


厚生労働省発食安0613第8号
平成24年6月13日

薬事・食品衛生審議会
会長 望月 正隆 殿

厚生労働大臣 小宮山 洋子



諮問書

食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づき、
下記の事項について、貴会の意見を求めます。

記

次に掲げる農薬の食品中の残留基準設定について

アゾキシストロビン

平成24年7月12日

薬事・食品衛生審議会
食品衛生分科会長 岸 玲子 殿

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会長 大野 泰雄

薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会
農薬・動物用医薬品部会報告について

平成24年6月13日付け厚生労働省発食安0613第8号をもって諮問された、食品衛生法（昭和22年法律第233号）第11条第1項の規定に基づくアゾキシストロビンに係る食品規格（食品中の農薬の残留基準）の設定について、当部会で審議を行った結果を別添のとおり取りまとめたので、これを報告する。

アゾキシストロビン

今般の残留基準の検討については、農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定依頼が農林水産省からなされたことに伴い、食品安全委員会において食品健康影響評価がなされたことを踏まえ、農薬・動物用医薬品部会において審議を行い、以下の報告を取りまとめるものである。

1. 概要

(1) 品目名：アゾキシストロビン [Azoxystrobin (ISO)]

(2) 用途：殺菌剤

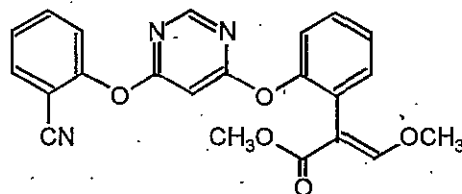
ストロビルリン系殺菌剤である。ミトコンドリアのチトクローム bc_1 複合体の Q_o 部位に結合することで電子伝達を妨げ、菌の呼吸を阻害することにより抗菌作用を示すと考えられている。

(3) 化学名

Methyl (*E*)-2-[2-[6-(2-cyanophenoxy)pyrimidin-4-yloxy]phenyl]-3-methoxyacrylate (IUPAC)

Methyl (*E*)-2-[[6-(2-cyanophenoxy)-4-pyrimidinyl]oxy]- α -(methoxymethylene)benzeneacetate (CAS)

(4) 構造式及び物性



分子式	$C_{22}H_{17}N_3O_5$
分子量	403.4
水溶解度	6.0 mg/L (20°C)
分配係数	$\log_{10} Pow = 2.5$ (20°C)

(メーカー提出資料より)

2. 適用の範囲及び使用方法

本剤の適用の範囲及び使用方法は以下のとおり。

【作物名】となっているものについては、今回農薬取締法(昭和23年法律第82号)に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

(1) 国内での使用方法

① 20.0%アゾキシストロビンフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロビンを含む農薬の総使用回数
小麦	紅色雪腐病	原液	4~8mL/乾燥種子 1kg	は種前	1回	種子吹き付け処理	4回以内 (種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)
	株腐病		8mL/乾燥種子 1kg			塗沫処理	
	うどんこ病 赤さび病	2000~3000倍	100~200L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	
だいず	紫斑病	16~24倍	100~300L/10a				2回以内
	きゅうり	腐敗粒べと病	2000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布
うどんこ病べと病		1500~2000倍					
灰色かび病 菌核病 褐斑病 炭疽病		1500倍					
にがうり	うどんこ病べと病 炭疽病	2000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
うり類(漬物用)	うどんこ病 つる枯病 べと病 炭疽病	1500~2000倍					
メロン	うどんこ病 つる枯病 べと病	2000倍					
すいか	つる枯病 炭疽病						
トマト	葉かび病 灰色かび病						
なす	うどんこ病 すすかび病	2000倍	100~300L/10a	収穫3日前まで	3回以内	散布	3回以内
葉たまねぎ	灰色腐敗病 べと病						
たまねぎ	灰色腐敗病 べと病 灰色かび病						
ねぎ	さび病 べと病 黄斑病 黒斑病 葉枯病	2000倍	100~300L/10a	収穫3日前まで	4回以内	散布	4回以内

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回 数	使用方法	アゾキシス トロピンを 含む農薬の 総使用回数		
わけぎ	さび病 べと病 黄斑病 黒斑病	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日 前まで	4 回以内	散布	4 回以内		
あさつき				収穫 3 日 前まで					
にら	白斑葉枯病、			収穫 14 日 前まで	2 回以内			4 回以内	2 回以内
にら(花茎)				収穫前日 まで					
しゅんぎく	炭疽病			3 回以内	3 回以内				4 回以内
にんにく	さび病 葉枯病 べと病 黒斑病 白さび病								
はくさい	白斑病	2000～ 3000 倍	収穫 7 日 前まで	4 回以内	4 回以内				
	菌核病 灰色かび病 べと病 すそ枯病	2000 倍	3L/m ²	収穫 30 日 前まで	2 回以内	土壌灌注	4 回以内 (土壌灌注 は 2 回以内)		
レタス	ビッグベイン病								
非結球レタス	菌核病 灰色かび病 べと病	1500～ 2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日 前まで	4 回以内	散布	4 回以内		
キャベツ	菌核病 株腐病								
いちご	うどんこ病	1500～ 2000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	苗床： 4 回以内	散布	7 回以内 (苗床では 4 回以内、本 圃では 3 回 以内)		
	炭疽病	2000 倍							
	灰色かび病	1500 倍			本圃： 3 回以内				
	うどんこ病	1500～ 2000 倍							
	炭疽病	2000 倍							
	灰色かび病	1500 倍							
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	2000 倍	4 回以内	4 回以内					
ブロッコリー	べと病		収穫 3 日 前まで	3 回以内	3 回以内				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを含む農薬の総使用回数	
てんさい	葉腐病 褐斑病	1500倍	100～ 300L/10a	収穫14日前 まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回 以内、散布は 3回以内)	
	根腐病	1500～ 4000倍						500倍
茶	炭疽病 輪斑病 新梢枯死症 (輪斑病菌 による) もち病	2000倍	100～ 400L/10a	摘採14日前 まで	3回以内	散布	3回以内	
非結球あぶ らな科葉菜 類	白さび病		100～ 300L/10a	収穫7日前 まで	2回以内		2回以内 (粒剤は1回 以内)	
エンダイブ	菌核病			収穫21日前 まで	1回		1回	
らっきょう	さび病			収穫3日前 まで	3回以内		3回以内	
パセリ	うどんこ病			収穫45日前 まで	1回		1回	
みつば	灰色かび病			収穫14日前 まで 但し、伏せ 込み栽培は 伏せ込み前 まで				
みょうが (花穂)	紋枯病			3L/m ²	収穫3日前 まで		2回以内	3回以内(粒 剤は1回以 内)
みょうが (茎葉)			みょうが (花穂)の 収穫3日前 まで 但し、花穂 を収穫しな い場合にあ っては開 花期終了まで					
しそ	斑点病		100～ 300L/10a	収穫前日まで	4回以内		株元散布	2回以内
せり	葉枯病			収穫7日前 まで			散布	4回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロロピンを含む農薬の総使用回数
クレソン	斑点病	2000倍	100～300L/10a	収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内
だいこん	白さび病 ワッカ症			収穫14日前まで			3回以内 (粒剤は1回以内、但し粒剤を処理する場合には水和剤は1回以内)
あずき いんげんまめ	炭疽病		60～200L/10a	収穫7日前まで	1回		3回以内
葉ごぼう	うどんこ病		収穫21日前まで	1回			
こおにたびらこ ははこぐさ	菌核病		収穫30日前まで	収穫前日まで	4回以内		4回以内
ズッキーニ	うどんこ病		4回以内 (粒剤は1回以内、但し粒剤を処理する場合には水和剤は2回以内)				
ピーマン	灰色かび病		100～300L/10a	収穫7日前まで	2回以内		2回以内
オクラ	うどんこ病			畑育苗期			
畑わさび	白さび病			収穫7日前まで			
わさび							
かぶ	白さび病 白斑病			収穫7日前まで	3回以内		3回以内
さやいんげん	灰色かび病 菌核病			収穫前日まで			
さやえんどう 実えんどう	灰色かび病 菌核病 褐紋病			収穫前日まで			
えだまめ	べと病			収穫3日前まで	4回以内		4回以内
セルリー	斑点病	収穫7日前まで		3回以内	3回以内		
未成熟そらまめ	さび病	3000～4000倍		収穫7日前まで	3回以内	5回以内(種いもへの処理は1回以内、植付時の土壌散布は1回以内、散布は3回以内)	
ばれいしょ	夏疫病	500倍	—	植付前	1回	瞬時種いも浸漬	
	黒あざ病	100倍	20L/10a	植付時		植溝内土壌散布	

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを含む農薬の総使用回数
やまのいも	葉渋病 炭疽病	2000倍	100～ 300L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
モロヘイヤ	灰色かび病				4回以内		4回以内
せんぶり	さび病			収穫7日前まで	3回以内		3回以内

② 10.0%アゾキシストロピフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを含む農薬の総使用回数
なし	黒星病 黒斑病 輪紋病 うどんこ病 炭疽病	1000～ 1500倍	200～ 700L/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
ぶどう	黒とう病 灰色かび病 べと病 枝膨病 晩腐病 褐斑病 さび病	1000倍		収穫30日前まで	3回以内		3回以内
おうとう	灰星病 褐色せん孔病 炭疽病			収穫前日まで			
もも	灰星病 黒星病 根アシ腐敗病						
ネクタリン	灰星病 黒星病			収穫7日前まで			
パッションフルーツ	円斑病 疫病						
かき	うどんこ病 落葉病 炭疽病 黒点病			収穫45日前まで			
りんご (ふじ、王林、 ジョナゴールド、 つがる、千秋、 さんさ、紅玉、 シナノスイート、 昂林、涼香の季節)	うどんこ病						

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを 含む農薬の 総使用回数
いちじく	そうか病 疫病 さび病 黒葉枯病	1000倍	200～ 700L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
すもも	灰星病 すす点病			収穫7日 前まで			
びわ	炭疽病	1500倍		収穫前日 まで	1回		1回
うめ	黒星病 すす斑病			収穫7日 前まで			3回以内
マンゴー	炭疽病	1000倍		収穫30日 前まで	2回以内		2回以内
グアバ(果実)				収穫前日 まで	3回以内		3回以内
オリーブ オリーブ(葉)	炭腐症	黒星病		収穫7日 前まで	3回以内		3回以内
ピタヤ	黒星病			収穫7日 前まで	3回以内		3回以内

③ 8.0%アゾキシストロピンプロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを 含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	1000～ 1500倍	100～ 200L/10a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布 は1回以内、 本田では3回 以内)
	稲こうじ病 穂枯れ (すじ葉枯病菌) 変色米 (カーブリア菌) 変色米 (エビコッカ菌) 変色米 (アウナリア菌)	1000倍					
	いもち病	8倍	800mL/10a			無人 ヘリコプターによる散布	
		原液	120～ 150mL/10a			空中散布	
		30倍	3L/10a			散布	
300倍	25L/10a						

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病	8倍	800mL/10a	収穫14日前まで	3回以内	無人 ヘリコプターによる散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、 本田では3回以内)
		原液	120~ 150mL/10a			空中散布	
		30倍	3L/10a			散布	
		300倍	25L/10a				

④ 1.5%アゾキシストロピン粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病	4kg/10a	出穂10~30日前	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、 本田では3回以内)

⑤ 0.6%アゾキシストロピン粉剤 DL

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (育苗箱散布は1回以内、 本田では3回以内)

⑥ 4.8%アゾキシストロピン・40.0%TPNフロアブル*

*有効成分含有量については中央値管理での表示値で示しているが、試験実施時の表示値アゾキシストロピン5.1%、TPN40.0%製剤と同一製剤である。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを含む農薬の総使用回数
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 炭疽病 灰色かび病 菌核病 黒星病	1000倍	100~ 400L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
かぼちゃ	うどんこ病 べと病 疫病			収穫7日前まで			

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アゾキシスト ロピンを含む 農薬の総使用 回数	
メロン	べと病 うどんこ病 つる枯病 菌核病	1000 倍	100～ 400L/10 a	収穫 3 日 前まで	4 回以内	散布	4 回以内	
すいか	炭疽病 つる枯病 うどんこ病 褐色腐敗病 菌核病							
トマト	疫病 葉かび病 炭疽病			収穫前日 まで	2 回以内		2 回以内	2 回以内
ミニトマト	灰色かび病 すすかび病 斑点病			収穫 7 日 前まで				
なす	すすかび病 うどんこ病 褐色腐敗病 黒枯病 灰色かび病			収穫前日 まで	4 回以内		4 回以内	
はくさい	べと病 白斑病 黒斑病 白さび病			収穫 7 日 前まで	2 回以内			
にんじん	黒葉枯病 斑点病 菌核病			収穫 21 日 前まで	2 回以内		2 回以内	
たまねぎ	灰色かび病 べと病			収穫 7 日 前まで	4 回以内		4 回以内	
ねぎ	べと病 さび病 黒斑病 黄斑病 葉枯病 小菌核腐敗病			収穫 14 日 前まで				
にんにく	さび病			収穫 7 日 前まで	3 回以内		3 回以内	
だいこん	白さび病	収穫 45 日 前まで		3 回以内 (粒剤は 1 回 以内、但し粒 剤を処理する 場合には水和 剤は 1 回以 内)				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを含む農薬の総使用回数
ピーマン	斑点病 うどんこ病 黒枯病 炭疽病 灰色かび病	1000倍	100～ 400L/10 a	収穫前日まで	3回以内	散布	4回以内 (粒剤は1回以内、 但し粒剤を処理する 場合には水和剤 は2回以内)
にがうり	うどんこ病			収穫7日 前まで			3回以内

⑦ 18.2%アゾキシストロピン・11.3%ジフェノコナゾールフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを含む農薬の総使用回数
てんさい	褐斑病	1000～2000倍	100～ 400L/10a	収穫21日 前まで	3回以内	散布	4回以内 (灌注は1回以内、 散布は3回以内)
	葉腐病	2000倍					

⑧ 2.0%アゾキシストロピン・1.0%メタラキシルM粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを含む農薬の総使用回数
みょうが (茎葉)	根茎腐敗病	18kg/10a	みょうが(花穂) の収穫30日前ま で、但し、花穂を 収穫しない場合 にあつては開花 期終了まで	1回	土壌表面散布	3回以内 (粒剤は1回以内)
みょうが (花穂)			収穫30日前まで	3回以内	定植前作条土 壌混和又は生 育期土壌表面 散布	3回以内
しょうが						
ホップ	べと病	20g/株	株ごしらえ時～ 選芽期	1回	株元散布	1回
ピーマン	疫病	3g/株	収穫前日まで			4回以内 (粒剤は1回以内、但し粒 剤を処理する場合には水 和剤は2回以内)
とうがらし類						1回
こまつな	白さび病	9kg/10a	は種前 但し、 収穫21日前まで			全面土壌混和
タアサイ			定植時			
だいこん	白さび病	9kg/10a	は種時	1回	全面土壌混和	3回以内 (粒剤は1回以内、但し粒 剤を処理する場合には水 和剤は1回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロピンを含む農薬の総使用回数
べにばな いんげん	茎根腐病	1g/株	定植時	1回	株元散布	1回
こんにゃく	根腐病	9kg/10a	植付時		植溝土壌混和	
	白絹病		培土期		株元散布	

(2) 海外での使用方法

80%アゾキシストロピン顆粒水和剤 (ブラジル)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
コーヒー	褐斑病 さび病	0.05kg/ha	収穫 21 日前まで	4回以内	散布
	葉腐病 さび病 <i>Phoma costarricensis</i>				土壌灌注

3. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

①分析対象の化合物

アゾキシストロピン

②分析法の概要

試料からアセトンで抽出し、多孔性ケイソウ土カラム又はアセトニトリル/ヘキサン分配、フロリジルカラム及びシリカゲルカラムで精製した後、高速液体クロマトグラフ (UV) で定量する。

または、試料からアセトンで抽出する。C₁₈カラム及びグラファイトカーボンカラムで精製又は酢酸エチルに転溶し、フロリジルカラム、グラファイトカーボンカラム及びシリカゲルカラムで精製した後、液体クロマトグラフ・質量分析計 (LC-MS) で定量する。

定量限界 : 0.005~0.01 ppm

(2) 作物残留試験結果

国内で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1-1、海外で実施された作物残留試験の結果の概要については別紙 1-2 を参照。

なお、海外で実施された収穫後使用に係る作物残留試験の結果の概要については別紙 1-3 を参照。

4. 魚介類への推定残留量

本剤については水系を通じた魚介類への残留が想定されることから、農林水産省から魚介類に関する個別の残留基準の設定について要請されている。このため、本剤の水産動植物被害予測濃度^{註1)}及び生物濃縮係数 (BCF : Bioconcentration Factor) から、以

下のおり魚介類中の推定残留量を算出した。

(1) 水産動植物被害予測濃度

本剤が水田及び水田以外のいずれの場合においても使用されることから、水田 PECTier2^{注2)} 及び非水田 PECTier1^{注3)} を算出したところ、水田 PECTier2 は 0.47ppb、非水田 PECTier1 は 0.0049ppb となったことから、水田 PECTier2 の 0.47ppb を採用した。

(2) 生物濃縮係数

本剤はオクタノール/水分配係数 ($\log_{10}Pow$) が 2.5 であり、魚類濃縮性試験が実施されていないことから、BCF については実測値が得られていない。このため、 $\log_{10}Pow$ から、相関式 ($\log_{10} BCF = 0.80 \times \log_{10} Pow - 0.52$) を用いて 30 と算出された。

(3) 推定残留量

(1) 及び (2) の結果から、アゾキシストロピンの水産動植物被害予測濃度: 0.47ppb、BCF: 30 とし、下記のおり推定残留量が算出された。

$$\text{推定残留量} = 0.47\text{ppb} \times (30 \times 5) = 70.5\text{ppb} = 0.0705\text{ppm}$$

注1) 農薬取締法第3条第1項第6号に基づく水産動植物の被害防止に係る農薬の登録保留基準設定における規定に準拠。

注2) 水田中や河川中での農薬の分解や土壌・底質への吸着、止水期間等を考慮して算出したもの。

注3) 既定の地表流出率、ドリフト率で河川中に流入するものとして算出したもの。

(参考: 平成19年度厚生労働科学研究費補助金食品安心・安全確保推進研究事業「食品中に残留する農薬等におけるリスク管理手法の精密化に関する研究」分担研究「魚介類への残留基準設定法」報告書)

5. 畜産物への推定残留量

(1) 動物飼養試験 (家畜残留試験)

① 乳牛における残留試験

乳牛に対してアゾキシストロピンが 0、5、25、75、250ppm 含有する飼料を 27~30 日間にわたり摂食させ、大腿部の内転筋、胸筋、肝臓、腎臓、腹腔内脂肪、皮下脂肪及び乳に含まれるアゾキシストロピン含量を測定した。

また、乳については、投与開始後 1、3、5、7、12、14、17、21、26、29、30、31 日目に搾乳したものを測定した (定量限界: 乳 0.001 ppm、乳以外 0.01 ppm)。結果については表 1 を参照。

表 1. 組織中の最大残留量 (ppm)

	5 ppm 投与群	25 ppm 投与群	75 ppm 投与群	250 ppm 投与群
大腿部内転筋	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
胸筋	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
肝臓	<0.01	0.01	0.05	0.07
腎臓	<0.01	<0.01	0.01	0.02
腹腔内脂肪	<0.01	<0.01	0.03	0.03
皮下脂肪	<0.01	<0.01	0.02	0.02
牛乳	0.003	0.006	0.004	0.009

②産卵鶏における残留試験

産卵鶏に対してアゾキシストロビンが0、6、18、60ppm含有する飼料を28日間におわり摂食させ、筋肉、肝臓及び脂肪中のアゾキシストロビン含量を測定したところ最高投与群においていずれも<0.01ppmであった。(定量限界：0.01ppm)。

また、鶏卵についても投与開始後1、3、7、10、14、18、21、25、28日に採卵し分析したところ、最高投与群においていずれも<0.01ppmであった。(定量限界：0.01ppm)。

上記の結果に関連して、JMPRでは乳牛及び家禽における最大理論的飼料由来負荷 (MTDB) はそれぞれ、72ppm及び22ppmと評価している。

注) 最大理論的飼料由来負荷 (Maximum Theoretical Dietary Burden : MTDB) : 飼料として用いられる全ての飼料品目に残留基準まで残留していると仮定した場合に、飼料の摂取によって畜産動物が暴露されうる最大量。飼料中残留濃度として表示される。

(参考 : Residue Chemistry Test Guidelines OPPTS 860.1480 Meat/Milk/Poultry/Eggs)

6. ADI の評価

食品安全基本法 (平成 15 年法律第 48 号) 第 24 条第 1 項第 1 号の規定に基づき、食品安全委員会あて意見を求めたアゾキシストロビンに係る食品健康影響評価について、以下のとおり評価されている。

無毒性量 : 18.2mg/kg 体重/day (発がん性は認められなかった。)

(動物種) ラット

(投与方法) 混餌

(試験の種類) 慢性毒性/発がん性併合試験

(期間) 2年間

安全係数 : 100

ADI : 0.18 mg/kg 体重/day

7. 諸外国における状況

2011年にJMPRにおける毒性評価が行われ、ADIが設定されている。国際基準はバナナ、

ぶどう等に設定されている。

米国、カナダ、欧州連合（EU）、オーストラリア及びニュージーランドについて調査した結果、米国においてしょうが、えだまめ等に、カナダにおいてぶどう、なたね等に、EUにおいてえだまめ、ぶどう等に、オーストラリアにおいてアボカド、ぶどう等に、ニュージーランドにおいて小麦、ぶどう等に基準値が設定されている。

8. 基準値案

(1) 残留の規制対象

アゾキシストロビンとする。

海外の作物残留試験においてメチル(Z)-2-[2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル]-3-メトキシアクリレート（以下、「Z体」という。）が検出されており、米国等においてZ体も含めて規制を行っているが、海外の作物残留試験成績のうち大部分がアゾキシストロビンの10%未満にとどまっていること及び国内の作物残留試験においてZ体について分析を行った試験（10試験）においては、いずれも定量限界未満（ $<0.01\text{ppm}$ ）であることから、Z体については規制対象として含めないこととする。

なお、食品安全委員会による食品健康影響評価においても、農産物、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質としてアゾキシストロビン（親化合物のみ）を設定している。

(2) 基準値案

別紙2のとおりである。

(3) 暴露評価

各食品について基準値案の上限までアゾキシストロビンが残留していると仮定した場合、国民栄養調査結果に基づき試算される、1日当たり摂取する農薬の量（理論最大1日摂取量(TMDI)）のADIに対する比は、以下のとおりである。詳細な暴露評価は別紙3参照。

なお、本暴露評価は、各食品分類において、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。

	TMDI/ADI (%) ^{注)}
国民平均	38.9
幼小児（1～6歳）	74.8
妊婦	30.0
高齢者（65歳以上）	40.5

注) TMDI試算は、基準値案×各食品の平均摂取量の総和として計算している。

アゾキシストロビン作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 注1)	
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 1.5%粒剤	50g/箱(箱施用) +4kg/10a 散布	4回	39, 41, 50日	圃場A:<0.01(μg/g) (注2) (4回, 39日)
					35, 39, 46日	圃場B:<0.01(μg/g) (4回, 35日)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 0.6%粒剤	50g/箱(箱施用) +4kg/10a 散布	4回	14, 21, 28日	圃場A:0.01(μg/g) (4回, 14日)
					14, 21, 28日	圃場B:0.02(μg/g) (4回, 14日)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	13, 20, 27日	圃場A:0.04(μg/g) (4回, 13日)
					14, 21, 28日	圃場B:0.02(μg/g) (4回, 28日)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 1,000倍散布 150L/10a	4回	14日	圃場A:0.03(μg/g) 圃場B:0.04(μg/g)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 8%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 8倍無人ヘリ散布 800mL/10a	4回	14日	圃場A:<0.01(μg/g) 圃場B:0.02(μg/g)
稲※ (玄米)	2	6%粒剤+ 20%フロアブル	50g/箱(箱施用)+ 500倍散布 25L/10a	4回	14, 21日	圃場A:0.02(μg/g) (4回, 14日) 圃場B:0.02(μg/g) (4回, 21日)
小麦※ (種子)	1	20%フロアブル	原液 8mL/kg(種子処理) +800倍根雪前散布 100L/10a +2000倍散布 100L/10a	2回	237日	圃場A:<0.01(μg/g)
				5回	7, 14, 21日	圃場A:0.02(μg/g) (5回, 7日)
小麦※ (種子)	1	20%フロアブル	原液 8mL/kg(種子処理) +800倍根雪前散布 100L/10a +2000倍散布 100L/10a	2回	208日	圃場A:0.01(μg/g)
				5回	7, 14, 21日	圃場A:0.10(μg/g) (5回, 7日)
だいず (乾燥子実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200~250L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.02(μg/g) (3回, 7日) 圃場B:0.01(μg/g) (3回, 7日)
だいず (乾燥子実)	2	20%フロアブル	8倍無人ヘリ散布 800mL/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.03(μg/g) (2回, 7日) 圃場B:0.05(μg/g) (2回, 7日)
あずき (乾燥子実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 120L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.01 圃場B:0.01 (3回, 14日)
いんげんまめ (乾燥子実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~300L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01(μg/g) (3回, 7日) 圃場B:<0.01(μg/g) (3回, 7日)
大豆※ (乾燥子実)	2	20%フロアブル	1kg/箱	1回	89, 96, 103日 91, 98, 105日	圃場A:<0.01(μg/g) (1回, 89日) 圃場B:<0.01(μg/g) (1回, 91日)
ばれいしょ (塊茎)	2	20%フロアブル	500倍種いも浸漬 300倍散布 200~250L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:<0.003 圃場B:<0.003
大豆※ (塊茎)	2	20%フロアブル	500倍種いも浸漬 300倍散布 20L/10a 3000倍散布 192~ 200L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:<0.01
やまのいも (塊根)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200~250L/10a	3回	7, 14日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
大豆※ (種子)	2	20%フロアブル	9kg/10a	1回	123, 137, 151日 100, 114, 128日	圃場A:<0.008 (1回, 123日) 圃場B:<0.008 (1回, 114日)
てんさい (根部)	2	20%フロアブル	1500倍散布 200L/10a	3回	14, 21, 30日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
てんさい (根部)	2	17%フロアブル	1000倍散布 150L/10a	3回	21, 28日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
てんさい (根部)	2	20%フロアブル	1500倍散布 200L/10a +500倍土壌灌注 1L/冊	1+3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) ^{註1)}
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
だいこん (根部)	2	20%フロアブル	2000倍散布 107~250L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
だいこん (葉部)	2	20%フロアブル	2000倍散布 107~250L/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:0.44 圃場B:0.14
だいこん (根部)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.01(4回, 14日) 圃場B:<0.01(4回, 14日)
だいこん (根部)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.52(4回, 14日) 圃場B:1.21(4回, 14日)
だいこん (葉部)	2	20%フロアブル	9kg/10a	1回	14日	圃場A:<0.01 圃場B:0.02
だいこん (葉部)	2	20%フロアブル	9kg/10a	1回	20日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01
かぶ※ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:2.36 圃場B:8.64
かぶ (根茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.04(2回, 14日)
クレソン (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	3回	21日	圃場A:<0.20 圃場B:0.26
はくさい (茎葉)	1	20%フロアブル	原液 8mL/kg (吹付コーティング) +2000倍散布 300L/10a	5回	7, 14, 21日	圃場A:0.10(4回, 7日)
はくさい (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.06
キャベツ (葉球)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:0.08 圃場B:<0.01
こまつな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 214~400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:1.0 圃場B:9.2
こまつな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:2.0(4回, 7日) 圃場B:2.0(4回, 7日)
みずな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 265~391L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:8.5 圃場B:24.6
チンゲンサイ (葉菜)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:5.2(4回, 7日) 圃場B:1.2(4回, 7日)
ブロッコリー (花菜)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250~300L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:2.3 圃場B:2.1
大山そだち (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:4.12 圃場B:5.34
サガミグリーン (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:4.18 圃場B:4.12
しるな (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	1回	7, 14日	圃場A:0.76 圃場B:3.32
クアサイ (葉部)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:1.6(4回, 7日) 圃場B:2.7(4回, 7日)
畑わさび (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	7, 14, 28日	圃場A:5.86 圃場B:11.8
畑わさび (根茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	2回	7, 14, 28日	圃場A:0.82(2回, 14日) 圃場B:0.73
畑わさび (花及び花茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300~320L/10a	2回	7, 14, 28日	圃場A:1.52 圃場B:7.16

農作物	試験圃場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 注1)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
エンダイブ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	1回	21, 28, 35日	圃場A:<0.05 圃場B:1.18
エンダイブ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	7, 14日	圃場A:1.18 圃場B:15.2
レタス (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200~300L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:1.52 圃場B:2.94(4回, 14日)
レタス (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍土壌灌注 3000L/10a+茎葉散布 200~300L/10a	4回	7, 14日 7, 13日	圃場A:2.4 圃場B:2.5
サラダ菜 (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~200L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:14.0 圃場B:15.9
リーフレタス (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 100~245L/10a	4回	7, 14, 21日	圃場A:21.0 圃場B:5.0
菜ごぼう (植物体全体)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	1回	21, 28日	圃場A:1.6 圃場B:2.2
ほたけのぎ (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	1回	30, 45, 60日	圃場A:0.86 圃場B:1.29
ごぎょう (茎葉)	1	20%フロアブル	2000倍散布 100~150L/10a	1回	30, 45, 60日	圃場A:0.36 圃場B:0.77
たまねぎ※ (鱗茎)	2	20%フロアブル	1500倍散布 200L/10a	4回	1, 7, 14日	圃場A:0.02(※)(4回, 1日) 圃場B:<0.01(※)(4回, 1日)
根深ねぎ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 180~300L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:0.96 圃場B:0.20
葉ねぎ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 180~300L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:1.42(4回, 7日) 圃場B:1.20
にんにく (鱗茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300, 150L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01
にら (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~200L/10a	2回	14日	圃場A:1.10 圃場B:2.42
アスパラガス※ (茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250~300L/10a	4回	1, 3, 7日 1, 3, 6日	圃場A:0.83 圃場B:0.13
わけぎ※ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~400L/10a	4回	7, 14日	圃場A:0.1 圃場B:0.4
らっきょう (鱗茎)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150L/10a	3回	3, 7, 14日	圃場A:0.02(3回, 7日) 圃場B:0.02
にんじん※ (根部)	2	4.8%フロアブル	1000倍散布 200~400L/10a	2回	21, 28日	圃場A:0.02 圃場B:<0.01
パセリ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250L/10a	1回	45, 60日	圃場A:0.05(1回, 60日) 圃場B:0.33
パセリ (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布200L/10a+ 18kg/10a	3回	14, 21, 28日	圃場A:1.1(※)(3回, 28日) 圃場B:0.1(※)(3回, 28日)
みつば (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 100L/10a	1回	14, 21日	圃場A:1.6 圃場B:1.7
せり (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	7, 14, 21日 7, 12, 20日	圃場A:0.7(4回, 14日) 圃場B:0.8
せり (茎葉)	2	20%フロアブル	3kg/10a+ 2000倍散布200L/10a	4回	21, 28, 35日	圃場A:5.63(※)(6回, 21日) 圃場B:2.51(※)(6回, 21日)
トマト※ (果実)	2	20%フロアブル	1500倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日 1, 3, 8日	圃場A:0.40(※)(4回, 1日) 圃場B:0.09(※)(4回, 8日)
ミニトマト (果実)	2	4.8%フロアブル	1000倍散布 300L/10a	2回	7, 14日	圃場A:0.2 圃場B:0.1

農作物	試験圃 場数	試験条件			最大残留量 (ppm) 注1)	
		剤型	使用量・使用方法	回数		
ピーマン (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 1.18 圃場B: 1.28
ピーマン (果実)	2	2%粒剤	3g/株	4回	1, 7, 14, 21, 28日	圃場A: <0.1 圃場B: <0.1
なす (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.26 圃場B: 0.58
なす (果実)	2	2%粒剤	3g/株	4回	1, 7, 14, 21, 28日	圃場A: <0.1(4回, 1日) 圃場B: <0.1(4回, 1日)
なす (果実)	2	2%粒剤	3g/株	4回	1, 3, 7, 14日 3, 7, 14, 21, 28日	圃場A: <0.1(4回, 1日) 圃場B: <0.1(4回, 1日)
きゅうり※ (果実)	1	20%フロアブル	1000倍株元灌注 100mL/株 +1500倍散布 150~300L/10a	1回	46日	圃場A: <0.01(＃)
				4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.20(＃)(4回, 1日)
				5回		圃場A: 0.16(＃)(5回, 1日)
	1	20%フロアブル	1000倍株元灌注 100mL/株 +1500倍散布 150~300L/10a	1回	85日	圃場A: 0.01(＃)
				4回	1, 3, 7日	圃場B: 0.48(＃)(4回, 1日)
				5回		圃場A: 0.25(＃)(5回, 1日)
かぼちゃ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 293.3~300L/10a	4回	7, 14日	圃場A: 0.1(＃)(4回, 7日) 圃場B: <0.1(＃)(4回, 7日)
ズッキーニ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 250L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.2 圃場B: 0.2
すいか (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 168~300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: 0.01(4回, 7日) 圃場B: <0.01
メロン (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	4回	1, 3, 7日	圃場A: <0.01 圃場B: <0.01
にがうり (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~300L/10a	3回	7日	圃場A: 0.11 圃場B: 0.40
オクラ (果実)	2	20%フロアブル	2000倍散布 180~250L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A: 1.22 圃場B: 1.06
しょうが (塊茎)	2	2%粒剤	散布18kg/10a	3回	30, 40日	圃場A: 0.013 圃場B: 0.058
しょうが (塊茎)	2	2%粒剤	散布18kg/10a	3回	14, 21, 28, 35日	圃場A: 0.03(＃)(3回, 21日) 圃場B: 0.16(＃)(3回, 14日)
さやえんどう (さや)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 0.28(3回, 3日) 圃場B: 1.30
えだまめ (さや)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A: 2.32 圃場B: 0.47(3回, 3日)
せんぶり (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 300L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A: 14.8 圃場B: 3.65(3回, 14日)
オリーブ (葉)	2	10%フロアブル	1000倍散布 322~500L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A: 8.75(＃)(2回, 28日) 圃場B: 7.16(＃)(2回, 28日)
りんご (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	5回	42日	圃場A: 0.98(＃) 圃場B: 0.14(＃)
日本なし (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	5回	14, 28, 42日	圃場A: 0.60(5回, 14日) 圃場B: 0.36(5回, 14日)
日本なし (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	5回	1, 3, 7日	圃場A: 0.68 圃場B: 0.35

農作物	試験圃 場数	試験条件			経過日数	最大残留量 (ppm) 注1)	
		剤型	使用量・使用方法	回数			
びわ※ (果実)	1	10%フロアブル	1000倍散布 400L/10a	2回	7, 14, 21日	圃場A:0.014	
				3回		圃場A:0.017	
	1	10%フロアブル	1000倍散布 400L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.008	
もも (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01	
ネクタリン※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 400L/10a	3回	1, 3, 7, 14日	圃場A:0.5(3回, 3日)	
					1, 3, 7日	圃場B:1.4	
すもも (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 300~400L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.12 圃場B:0.09	
うめ (果実)	2	10%フロアブル	1500倍散布 250~300L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:0.6(3回, 7日) 圃場B:0.7	
おうとう※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 500L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:1.30(3回, 3日) 圃場B:0.47	
いちご (果実)	1	20%フロアブル	1500~2000倍散布 300L/10a +1000倍土壌灌注 100mL/株	5回	89日	圃場A:0.11(#)	
				8回	1, 3, 7日	圃場A:1.20(#)(8回, 1日)	
いちご (果実)	1	20%フロアブル	1500~2000倍散布 300L/10a	5回	217日	圃場A:0.03(#)	
				8回	1, 4, 8日	圃場A:1.18(#)(8回, 1日)	
ぶどう※ (果実)	2	10%フロアブル	100倍休眠期散布 300~ 500L/10a+1000倍散布 500L/10a	4回	45, 60, 75日	圃場A:4.22(#)(4回, 45日)	
					45, 59, 75日	圃場B:1.68(#)(4回, 45日)	
かき※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 300, 400L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:0.05 圃場B:0.36	
バナナ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 200L/10a	3回	7, 14, 21日	圃場A:1.33 圃場B:0.72	
グアバ※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 139~222L/10a	3回	14, 21日	圃場A:0.03(3回, 14日)	
					7, 14, 21日	圃場B:0.08	
マンゴー (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 200L/10a	1回	1, 3, 7日	圃場A:0.5 圃場B:0.4	
パッション フルーツ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 300L/10a	3回	1, 3, 7日	圃場A:0.33 圃場B:0.30	
いちじく (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 230~300L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:0.25 圃場B:0.58	
ピタヤ※ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 188~200L/10a	3回	1, 7, 14日	圃場A:1.42 圃場B:0.37(3回, 14日)	
オリーブ (果実)	2	10%フロアブル	1000倍散布 333~500L/10a	2回	14, 21, 28日	圃場A:1.16(#)(2回, 28日) 圃場B:0.41(#)(2回, 28日)	
茶※ (荒茶)	4	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	14, 21日	圃場A:4.75 圃場B:2.62 圃場C:0.80 圃場D:3.46	
茶 (浸出液)	4	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	3回	14, 21日	圃場A:2.50 圃場B:1.34 圃場C:0.42 圃場D:1.28	
ホウズ (茎葉)	2	20%フロアブル	200L/株	1回	0, 10, 20日	圃場A:2.0(1回, 0日) 圃場B:2.0(1回, 0日)	
あさつき (茎葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 150~200L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:1.5 圃場B:0.8	

農作物	試験圃 場数	試験条件				最大残留量 (ppm) 注1)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
シソ (葉)	2	20%フロアブル	2000倍散布 200L/10a	2回	1, 3, 7日	圃場A:0.10 圃場B:0.04
みょうが (花穂)	2	20%フロアブル	2000倍土壌灌注 3000L/10a+茎葉散布 3000L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:0.50(＃)(4回, 3日) 圃場B:0.34(＃)(4回, 3日)
みょうが (花穂)	2	2%粒剤+ 20%フロアブル	散布18kg/10a +2000倍土壌灌注 3000L/10a	4回	3, 7, 14日	圃場A:2.2 圃場B:1.0
シソ (葉)	1	20%フロアブル	2000倍 200L/10a	4回	1, 7, 14日	圃場A:14.5(＃)

注1) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に使い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験（いわゆる最大使用条件下の作物残留試験）を複数の圃場で実施し、それぞれの試験から得られた残留量。（参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に係る意見具申」）

表中、最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付しているが、経時的に測定されたデータがある場合において、収穫までの期間が最短の場合にのみ最大残留量が得られるとは限らないため、最大使用条件以外で最大残留量が得られた場合は、その使用回数及び経過日数について（ ）内に記載した。

注2) (＃)印で示した作物残留試験成績は、申請の範囲内で試験が行われていない。なお、適用範囲内ではない試験条件を斜体で示した。

(※) 印で示した作物については、申請の範囲内で最高の値を示した括弧内に示す条件において得られた値を採用した。

注3) 今回、新たに提出された作物残留試験成績に網を付けて示している。

アゾキシストロビン海外作物残留試験一覧表

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm) ^{注)}
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
稲 (粳米)	7	80%顆粒水和剤	224g ai/ha 散布 +336g ai/ha 散布	2+1回	28日	圃場A:0.30 圃場B:2.7 圃場C:2.2 圃場D:0.41 圃場E:0.19 圃場F:0.27 圃場G:0.82
小麦 (穀粒)	5	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	3回	40日	圃場A:0.01
					48日	圃場B:0.03
					48日	圃場C:0.02
					48日	圃場D:0.02
大麦 (穀粒)	3	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	3回	39日	圃場E:0.03
					38日	圃場A:0.23
					53日	圃場B:0.14
					55日	圃場C:0.07
					55日	圃場C:0.07
					55日	圃場C:0.07
とうもろこし (穀粒)	6	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	8回	7日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01 圃場C:<0.01 圃場D:0.02 圃場E:<0.01 圃場F:<0.01
大豆 (種子)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	14日	圃場A:0.04
					15日	圃場B:0.12
					14日	圃場C:0.12
					16日	圃場D:0.07
					14日	圃場E:0.06
					14日	圃場F:0.06
らっかせい (種子)	9	80%顆粒水和剤	448g ai/ha 散布	2回	14日	圃場G:0.02
					14日	圃場A:<0.01
					14日	圃場B:0.01
					14日	圃場C:0.01
					14日	圃場D:0.12
					14日	圃場E:0.01
					14日	圃場F:<0.01
					20日	圃場G:<0.01
ばれいしょ (根茎)	4	フロアブル (250g ai/L)	1500g ai/ha 土壌混和	1回	14日	圃場H:0.06
					108日	圃場A:0.01
					118日	圃場B:0.01
					95日	圃場C:0.01
ばれいしょ (根茎)	4	フロアブル (250g ai/L)	750g ai/ha 畝間散布	1回	116日	圃場D:0.01
					108日	圃場A:0.01
					118日	圃場B:0.02
					95日	圃場C:0.01
ばれいしょ (根茎)	14	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	14日	圃場D:0.03
						圃場A:0.01
						圃場B:<0.01
						圃場C:0.01
						圃場D:<0.01
						圃場E:<0.01
						圃場F:0.02
						圃場G:<0.01
						圃場H:<0.01
						圃場I:<0.01
						圃場J:<0.01
						圃場K:<0.01
						圃場L:<0.01
						圃場M:<0.01
圃場N:<0.01						

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm) 注
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
てんさい (根茎)	9	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.03 圃場B:0.05 圃場C:0.18 圃場D:0.08 圃場E:0.04 圃場F:0.10 圃場G:0.11 圃場H:0.08 圃場I:0.05
ラディッシュ (根茎)	5	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.41 圃場B:0.26 圃場C:0.14 圃場D:0.39 圃場E:0.11
ラディッシュ (葉)	5	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:23.6 圃場B:31.4 圃場C:12.8 圃場D:9.9 圃場E:14.3
クレソン (茎葉)	5	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	3回 6回	7日	圃場A:0.117 圃場B:0.475 圃場C:0.511 圃場D:<0.0676 圃場E:1.32
キャベツ (葉) ※外葉あり	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:1.76 圃場B:0.90 圃場C:0.321 圃場D:1.99
キャベツ (葉)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.176 圃場B:0.101 圃場C:0.0251 圃場D:0.174
芽キャベツ (茎葉)	3	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	2回	14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.04 圃場C:0.05
ケール (茎葉)	3	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	2回	14, 21日 13, 21日	圃場A:0.08 圃場B:0.32 圃場C:0.31(2回, 21日)
マスタード (葉)	9	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 135-280g ai/ha 散布	6回	0, 6日 0日 0日 0, 7日 0日 0, 7日 0, 6日 0日 0日	圃場A:4.81 圃場B:14.7 圃場C:4.36 圃場D:5.60(6回, 7日) 圃場E:12.2 圃場F:10.7(6回, 7日) 圃場G:21.0 圃場H:7.52 圃場I:7.19
ブロッコリー (花穂)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0, 3, 7日 0日 0, 4, 6日 0日	圃場A:0.804(6回, 7日) 圃場B:1.29 圃場C:2.13 圃場D:0.187
カリフラワー (花穂)	4	フロアブル (250g ai/L)	250g ai/ha 散布	2回	14, 21日	圃場A:0.02 圃場B:0.06 圃場C:0.17 圃場D:0.15
アーティチョーク (葉)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:1.6 圃場B:1.7 圃場C:2.3

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm) 注)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
レタス (葉)	8	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:2.49 圃場B:3.37 圃場C:3.43 圃場D:3.77 圃場E:2.47 圃場F:4.70 圃場G:3.39 圃場H:2.11
リーフレタス (葉)	8	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:6.1 圃場B:3.5 圃場C:4.4 圃場D:10.0 圃場E:8.2 圃場F:4.9 圃場G:13.5 圃場H:2.7
たまねぎ (鱗茎)	8	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.55 圃場B:0.20 圃場C:0.45 圃場D:0.30 圃場E:<0.01 圃場F:0.14 圃場G:0.28 圃場H:0.07
ねぎ (茎葉)	2	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:5.5 圃場B:1.4
ねぎ (茎葉)	4	80%顆粒水和剤	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:1.2 圃場B:1.4 圃場C:2.3 圃場D:0.58
ねぎ (茎葉)	4	22.8%フロアブル	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:1.0 圃場B:1.9 圃場C:2.0 圃場D:0.19
にんじん (根茎)	6	80%顆粒水和剤	370g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.17 圃場B:0.11 圃場C:0.23 圃場D:0.02 圃場E:0.29 圃場F:0.13
パセリ (茎葉)	2	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:19.7 圃場B:14.2
セルリー (根茎)	8	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:2.1 圃場B:3.8 圃場C:9.1 圃場D:3.2 圃場E:2.3 圃場F:4.6 圃場G:5.6 圃場H:2.2
きゅうり (果実)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	1日	圃場A:0.08 圃場B:0.06 圃場C:0.05 圃場D:0.04 圃場E:0.09 圃場F:0.07 圃場G:0.05

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm) 注
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
サマースカッシュ (果実)	5	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	1日	圃場A:0.08 圃場B:0.10 圃場C:0.05 圃場D:0.05 圃場E:0.11
カンタロープ (果実)	6	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	1日	圃場A:0.17 圃場B:0.14 圃場C:0.10 圃場D:0.19 圃場E:0.25 圃場F:0.1
ほうれんそう (茎葉)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	6日	圃場A:2.28(6回,6日)
					0日	圃場B:18.5
					0日	圃場C:8.25
					6日	圃場D:2.81(6回,6日)
					0日	圃場E:23.0
					0,7日	圃場F:13.6
0日	圃場G:12.5					
ほうれんそう (茎葉)	4	80%顆粒水和剤	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:16 圃場B:6.2 圃場C:10.1 圃場D:9.6
ほうれんそう (茎葉)	4	22.8%フロアブル	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:14 圃場B:5.0 圃場C:7.7 圃場D:12.0
未成熟豆類※ (莢付豆)	3	80%顆粒水和剤	13.9g ai/km 畝間 +280g ai/ha 散布	1+6回	0日	圃場A:0.38(1+6回,0日)(#) 圃場B:0.10(1+6回,0日)(#) 圃場C:1.0(1+6回,0日)(#)
多肉未成熟豆類※ (豆)	1	80%顆粒水和剤	13.9g ai/km 畝間 +280g ai/ha 散布	1+6回	0日	圃場A:0.02(1+6回,0日)(#)
レモン (果実)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 (水量60- 68gallon/acre)	6回	0日	圃場A:0.69 圃場B:0.63 圃場C:0.58
レモン (果実)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 (水量221-235 gallon/acre)	6回	0日	圃場A:0.42 圃場B:0.47 圃場C:0.27
オレンジ (果実)	4	80%顆粒水和剤	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:0.44 圃場B:0.28 圃場C:0.83 圃場D:0.56
オレンジ (果実)	4	フロアブル (208lb/gallon)	113g ai/ac 散布	6回	0日	圃場A:0.23 圃場B:0.35 圃場C:1.05 圃場D:0.72
グレープフルーツ (果実)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 (水量53- 67gallon/acre)	6回	0日	圃場A:0.18 圃場B:0.20 圃場C:0.18 圃場D:0.18
グレープフルーツ (果実)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布 (水量217-242 gallon/acre)	6回	0日	圃場A:0.24 圃場B:0.24 圃場C:0.37
ラズベリー※ (果実)	2	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	7回	0日	圃場A:0.69(7回,0日)(#)
6回				0日	圃場B:2.33	
ブラックベリー※ (果実)	1	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	7回	0日	圃場A:2.87(7回,0日)(#)

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm) 注)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ブルーベリー※ (果実)	7	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	0日 0, 7日	6回	圃場A:1.33(6回, 0日) (#) 圃場B:0.493(6回, 0日) (#) 圃場C:0.918(6回, 0日) (#) 圃場D:0.677(6回, 0日) (#) 圃場E:0.869(6回, 0日) (#) 圃場F:0.857(6回, 0日) (#) 圃場G:1.06(6回, 0日) (#)
クランベリー (果実)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	3, 14日 3, 13日 3, 15日 3, 14日	圃場A:0.151(6回, 14日) 圃場B:0.257 圃場C:0.282 圃場D:0.181
バナナ (果実) (無袋)	6	80%顆粒水和剤	151g ai/ha 散布	8回	0日	圃場A:0.10 圃場B:0.18 圃場C:0.10 圃場D:0.21 圃場E:0.25 圃場F:0.15
バナナ (果実) (袋詰)	6	80%顆粒水和剤	151g ai/ha 散布	8回	0日	圃場A:0.04 圃場B:0.01 圃場C:0.02 圃場D:0.05 圃場E:0.02 圃場F:0.13
マンゴー (果実)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:0.243 圃場B:0.0686 圃場C:0.444
ライチ (果実)	2	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	5回	0日	圃場A:1.66 圃場B:0.231
パパイヤ (果実)	2	500g ai/kg	80g ai/ha 散布 160 g ai/ha 散布	6回	0, 3, 7, 10, 14日	圃場A:0.16(6回, 0日) 圃場B:0.49(6回, 0日)
綿実 (種子)	12	80%顆粒水和剤	18.6g ai/km 畝間散布	1回	202日 180日 182, 217日 184, 237日 166日 163, 218日 161, 205日 182日 190日 207日 148, 198日 161, 215日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01 圃場C:<0.01 圃場D:<0.01 圃場E:<0.01 圃場F:<0.01 圃場G:<0.01 圃場H:<0.01 圃場I:<0.01 圃場J:<0.01 圃場K:<0.01 圃場L:<0.01
なたね (種子)	1	水和剤 (250g ai/L)	250g ai/L 散布	2回	21, 23日	圃場A:0.05
なたね (種子)	1	フルトリアフォ ル 水和剤	200g ai/L 散布	2回	21, 23日	圃場A:0.03
キャノーラ (種子)	2	80%顆粒水和剤	448g ai/ha 散布	1回	71日 65日	圃場A:<0.01 圃場B:0.01
アーモンド (種子)	5	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	29日 29日 29日 29日 28日	圃場A:<0.01 圃場B:<0.01 圃場C:<0.01 圃場D:<0.01 圃場E:<0.01
ピスタチオ (種子)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	7日	圃場A:0.406 圃場B:0.354 圃場C:0.244
ホップ (新鮮穂軸)	2	フロアブル (250 g ai/L)	250g ai/ha 散布	6回	28日 26日	圃場A:3.2(6回, 28日) (#) 圃場B:3.4(6回, 28日) (#)

農作物	試験圃場	試験条件				最大残留量 (ppm) 注)
		剤型	使用量・使用方法	回数	経過日数	
ホップ※ (乾燥穂軸)	4	フロアブル (250 g ai/L)	250g ai/ha 散布	6回	28日	圃場A:12(6回, 28日) (#) 圃場B:10(6回, 28日) (#) 圃場C:15(6回, 28日) (#) 圃場D:9.3(6回, 28日) (#)
					26日	
ディール (種子)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:6.20 圃場B:17.4 圃場C:23.3
バジル (葉)	3	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0日	圃場A:46.3 圃場B:23.3 圃場C:19.3
				5回		
				6回		
ピーマン※ (果実)	5	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0, 8日	圃場A:0.107(6回, 8日) (#) 圃場B:0.3696(6回, 0日) (#) 圃場C:0.314(6回, 0日) (#) 圃場D:0.242(6回, 7日) (#) 圃場E:0.136(7回, 0日) (#)
					0, 6日	
					0日	
					0, 7日	
					7回	
とうがらし※ (果実)	4	80%顆粒水和剤	280g ai/ha 散布	6回	0, 8日	圃場A:0.834(6回, 0日) (#) 圃場B:0.499(6回, 0日) (#) 圃場C:0.059(6回, 0日) 圃場D:0.915(8回, 0日) (#)
					0日	
					0日	
					8回	
コーヒー豆※ (種子)	1	80%顆粒水和剤	50g ai/ha 散布	5回	21, 28, 35, 42日	圃場A:<0.01(5回, 21日) (#)

海外で実施された作物残留試験のうち、作物残留試験が実施された国の使用方法の範囲内で試験が行われていない試験成績等については記載していない。
ただし、作物名に「※」が記されている未成熟豆類、多肉未成熟豆類、ラズベリー、ブラックベリー、ブルーベリー、ホップ、ピーマン、とうがらし及びコーヒー豆の試験については作物残留試験が実施された国における使用方法の範囲外で実施されているものの、作物残留試験条件等を考慮し、基準値設定の際の参考とすることとした。

一部の作物残留試験については、各国政府の要請により記載していない。

最大使用条件下の作物残留試験条件に、アンダーラインを付している。

注) 最大残留量：当該農薬の申請の範囲内で最も多量に用い、かつ最終使用から収穫までの期間を最短とした場合の作物残留試験(いわゆる最大使用条件下の作物残留試験結果)を実施し、それぞれの試験から得られた残留量。(参考：平成10年8月7日付「残留農薬基準設定における暴露評価の精密化に関する意見具申」)

なお、食品安全委員会農薬専門調査会の農薬評価書「アゾキシストロビン」に記載されている作物残留試験成績は、各試験条件における残留農薬の最高値及び各試験場、検査機関における最高値の平均値を示したものであり、上記の最大残留量の定義と異なっている。

収穫後使用に係る作物残留試験

①作物残留試験方法の概要

主に米国の農業試験場または州立大学の付属施設で農薬処理した作物を栽培し、収穫した果実に防かび処理を施した後、分析機関でアゾキシストロビンの残留量を測定した。試験に関与した全ての施設は GLP 適合施設であった。通常の栽培方法に従い、果実に散布処理を 2 回した後、成熟果実を収穫した。防かび処理は浸漬処理または荷造工程スプレー処理で 1 または 2 回行った。残留データを作成した作物は以下の通りである。

(登録作物名)	(残留データを作成した作物)
かんきつ類	グレープフルーツ、オレンジ、レモン

②作物残留試験結果及び米国の残留農薬基準

(A) かんきつ類

以下の表 A-1～A-3 の結果に基づき、アメリカにおけるアゾキシストロピンのかんきつ類の残留基準は 10ppm に設定された。

表 A-1. グレープフルーツ

作物名 (品種) 年度	作物の収穫場所	※1 使用 回数	圃場処理量及び 収穫後処理量※2	分析結果 (mg/kg)	
				最大値	最小値
グレープフルーツ (マーシュ) 平成 13 年	米国 カリフォルニア州	2	0.056g ai/m ²	0.288	0.251
	米国テキサス州			0.101	0.098
	米国 カリフォルニア州	2	0.056g ai/m ² + 1.19g ai/L 水 Dip 処理(含ワックス)	5.427	2.938
	米国テキサス州			2.096	1.562
	米国 カリフォルニア州	2 +	0.056g ai/m ² + 0.004g ai/kg 果実梱包工程 Spray 処理(含ワックス)	0.986	0.915
	米国テキサス州			1.443	1.185
		1	0.056g ai/m ² + 1.19g ai/L 水 Dip 処理(無ワックス)	1.675	1.517
	米国 カリフォルニア州			0.056g ai/m ² + 0.004g ai/kg 果実梱包工程 Spray 処理(無ワックス) + 輸送用ワックス処理	0.554
		2 +	0.056g ai/m ² + 1.19g ai/L 水 Dip 処理(含ワックス) + 1.19g ai/L 水 Dip 処理(無ワックス)		2.682
	米国テキサス州			2.870	2.603
		2 +	0.056g ai/m ² + 0.004g ai/kg 果実梱包工程 Spray 処理(含ワックス) + 0.004g ai/kg 果実梱包工程 Spray 処理(無ワックス) + 輸送用ワックス処理	0.865	0.734
	米国 カリフォルニア州				

表 A-2. オレンジ

作物名 (品種) 年度	作物の収穫場所	※1 使用 回数	圃場処理量及び 収穫後処理量※2	分析結果(mg/kg)	
				最大値	最小値
オレンジ (パレンシア) 平成 13 年	米国 カリフォルニア州	2	0.056g ai/m ²	0.285	0.171
	米国フロリダ州			0.087	0.075
	米国 カリフォルニア州	2 + 1 2 + 2	0.056g ai/m ² + 1.19g ai/L 水 [Dip 処理(含ワックス)]	3.994	2.385
	米国フロリダ州			1.632	1.213
	米国 カリフォルニア州			1.082	0.822
				果皮: 5.518 果皮: 4.690 果肉: 0.744 果肉: 0.528 全果実: 全果実:	
	米国フロリダ州			1.982	1.509
	米国 カリフォルニア州			1.468	1.309
				0.467	0.365
	米国フロリダ州			2.150	1.512
				2.087	1.784
	米国 カリフォルニア州			0.584	0.578
				0.584	0.578

表 A-3. レモン

作物名 (品種) 年度	作物の収穫場所	※1 使用 回数	圃場処理量及び 収穫後処理量※2	分析結果 (mg/kg)		
				最大値	最小値	
レモン (ユーレカ) 平成 13 年	米国 カリフォルニア州	2	0.056g ai/m ²	0.515	0.289	
				0.693	0.466	
		2 +	1	0.056g ai/m ² +	3.577	2.711
					1.19g ai/L 水 Dip 処理(含ワックス)	6.643
				0.056g ai/m ² +	1.565	1.179
					0.004g ai/kg 果実梱包工程 Spray 処理 (含ワックス)	
				0.056g ai/m ² +	2.451	1.941
					1.19g ai/L 水 Dip 処理(無ワックス)	1.952
		0.056g ai/m ² +	0.004g ai/kg 果実梱包工程 Spray 処理 (無ワックス) +	0.808	0.715	
				輸送ワックス処理		
		2 +	2	0.056g ai/m ² +	5.478	3.604
					1.19g ai/L 水 Dip 処理(含ワックス) +	9.182
1.19g ai/L 水 Dip 処理(無ワックス)						
0.056g ai/m ² +	0.004g ai/kg 果実梱包工程 Spray 処理 (含ワックス) +	0.880	0.775			
		0.004g ai/kg 果実梱包工程 Spray 処理 (無ワックス) +				
		輸送用ワックス処理				

※1 使用回数について「A+B」と記載がある場合は、A：収穫前に使用したアゾキシストロピンの使用回数、B：収穫後に使用したアゾキシストロピンの使用回数を指す。

※2 アゾキシストロピン原体の含量を示す。

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
米(玄米をいう。)	0.2	0.2	○			0.04(#)(\$),0.02(#)
小麦	0.3	0.3	○	0.2		0.01(#),0.10(#)(\$)
大麦	0.5	0.5		0.5		
ライ麦	0.3	0.3		0.2		
とうもろこし	0.05	0.05		0.02		
その他の穀類	0.5	0.5		0.5		
大豆	0.5	0.5	○	0.5	0.5	アメリカ 【0.04,0.12,0.12,0.07,0.06, 0.06,0.02(米国)】
小豆類	0.5	0.5	○		0.5	アメリカ 【米国の大豆及び乾燥豆 参照】
えんどう	0.5	0.5			0.5	アメリカ 【米国の大豆及び乾燥豆 参照】
そら豆	0.5	0.5			0.5	アメリカ 【米国の大豆及び乾燥豆 参照】
らっかせい	0.2	0.2		0.2	0.2	アメリカ 【<0.01,0.01,0.01,0.12, 0.01,<0.01,<0.01,0.06,0.0 参照】
その他の豆類	0.5	0.5			0.5	アメリカ 【米国の大豆及び乾燥豆 参照】
ばれいしょ	1	1	○	1		
さといも類(やつがしらを含む。)	1	1		1		
かんしょ	1	1		1		
やまいも(長いもをいう。)	1	1	○	1		
こんにゃくいも	1	1	申	1		
その他のいも類	1	1		1		
てんさい	1	1	○	1		
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根	1	1	○	1		
だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉	50	50.0	○		50.0	アメリカ 【23.6,31.4,12.8,9.9,14.3 (米国)】
かぶ類の根	1	1	○	1		
かぶ類の葉	15	15	○			2.36, 8.64(\$)
西洋わさび	1	1		1		
クレソン	70	3.0	○	70	3.0	アメリカ 【0.117,0.475,0.511(\$), <0.0676,1.32(米国)】
はくさい	3	3.0	○		3.0	アメリカ 【米国のキャベツ及びブ ロッコリー参照】
キャベツ	5	5	○	5		【1.76,0.90,0.321,1.99 (外葉あり) 0.176,0.101,0.0251,0.174 (外葉なし)(米国)】
芽キャベツ	5	5		5		(きょうな参照)
ケール	40	40	○			1.0,9.2(\$)
こまつな	15	15	○			8.5,24.6(\$)
きょうな	40	40	○			(きょうな参照)
チンゲンサイ	40	40	○			
カリフラワー	5	5		5		
ブロッコリー	5	5	○	5		2.8,2.4 【0.804,1.29,2.13,0.187】 (きょうな参照)
その他のあぶらな科野菜	40	40	○	5		
ごぼう	1	1	○	1		
サルシフィー	1	1		1		
アーティチョーク	5	5		5		
チコリ	30	30		0.3		
エンダイブ	30	30.0	○		30.0	アメリカ 【米国のレタス、リーフレタ ス、セロリ及びほうれん草 参照】
しゅんぎく	30	30.0	○		30.0	アメリカ 【米国のレタス、リーフレタ ス、セロリ及びほうれん草 参照】
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)	30	30.0	○	3	30.0	アメリカ 【2.49,3.37,3.43,3.77,2.47, 4.70,3.39,2.11(レタス) (米国) 【6.1,3.5,4.4,10.0,8.2,4.9, 13.5,2.7(リーフレタス) (米国)】
その他のきく科野菜	70	50	○	70		

食品名	基準値 案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm	
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm		
たまねぎ	10	1.0	○	10			
ねぎ(リーキを含む。)	10	10	○	10			
にんにく	10	0.1	○	10			
にら	70	5	○	70		1.10, 2.42	
アスパラガス	2	2	○	0.01		0.83(\$), 0.13	
わけぎ	10	10	○	10			
その他のゆり科野菜	50	50	○	10			
にんじん	1	1	○	1			
パースニップ	1	1	○	1			
パセリ	70	30.0	○	70		[2.1, 3.8, 9.1, 3.2, 2.3, 4.6, 5.6, 2.2(米国)]	
セロリ	30	30.0	○	5			
みつば	5	5	○				
その他のせり科野菜	70	50	○	70			
トマト	3	3	○	3			
ピーマン	3	3	○	3			
なす	3	3	○	3		1.18, 1.28	
その他のなす科野菜	30	30	○	3			
きゅうり(ガーキンを含む。)	1	1	○	1		<0.20(#), 0.48(#)(%)	
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	1	1	○	1			
しろうり	1	1	○	1			
すいか	1	1	○				
メロン類果実	1	1	○				
まくわうり	1	1	○				
その他のうり科野菜	1	1	○	1			
ほうれんそう	30	30.0			30.0	アメリカ	[2.28, 18.5, 8.25, 2.81, 23.0, 13.6, 12.5, 16.6, 2, 10, 1.9, 6, 14, 5, 0.7, 7, 12.0(米国)]
オクラ	3	3	○	3			1.22, 1.06
しょうが	0.3	0.3	○				0.013, 0.058(\$)
未成熟えんどう	3	3	○	3	3.0	アメリカ	0.28, 1.30(\$)(さやえんどう)
未成熟いんげん	3	3	○	3	3.0	アメリカ	【米国の未成熟豆類参照】
えだまめ	5	5	○	3			【米国の未成熟豆類参照】 2.32(\$), 0.47
しいたけ	3			3			
その他のきのこ類	3			3			
その他の野菜	70	50	○	70			
みかん	1	1.0					
なつみかんの果実全体	10	2		15	10	アメリカ	収穫後使用に係る作物残留試験に基づき設定
レモン	10	2		15	10	アメリカ	収穫後使用に係る作物残留試験に基づき設定
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	10	2		15	10	アメリカ	収穫後使用に係る作物残留試験に基づき設定
グレープフルーツ	10	2		15	10	アメリカ	収穫後使用に係る作物残留試験に基づき設定
ライム	10	2		15	10	アメリカ	収穫後使用に係る作物残留試験に基づき設定
その他のかんきつ類果実	10	2		15	10	アメリカ	収穫後使用に係る作物残留試験に基づき設定
りんご	2	2	○				0.98(#), 0.14(#)
日本なし	2	2	○				0.60(\$), 0.36/0.68(\$), 0.35
西洋なし	2	2	○				(日本なし参照)
びわ	0.1	0.1	○				0.014, 0.017(\$)
もも	0.05	0.05	○				<0.01, 0.01
ネクタリン	3	3	○	2			0.5, 1.4(\$)
あんず(アブリコットを含む。)	2	2	○	2			
すもも(ブルーベリーを含む。)	2	2	○	2			
うめ	2	2	○	2			0.6, 0.7
おうとう(チェリーを含む。)	3	3	○	2			1.30(\$), 0.47

食品名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
いちご	10	10	○	10		
ラズベリー	5	5.0		5		
ブラックベリー	5	5.0		5		
ブルーベリー	5	5		5		
クランベリー	0.5	0.5		0.5		
ハuckleベリー	5	5		5		
その他のベリー類果実	5	5.0		5		
ぶどう	10	10	○			4.22(＃)(\$),1.68(＃)
かき	1	1	○	2		0.05,0.36(\$)
バナナ	3	3	○	2		1.33,0.72
パパイヤ	2	2.0		0.3	2.0	アメリカ 【0.16,0.49(米国)】
アボカド	1	1				
グアバ	0.3	0.3	○			0.03(＃),0.08(＃)(\$)
マンゴー	1	1	○	0.7		0.5,0.4
パッションフルーツ	1	1	○			0.33,0.30
その他の果実	3	3	○			
ひまわりの種子	0.5			0.5		
べにばなの種子	0.5	0.5			0.5	アメリカ 【<0.01,0.01(キャノーラ 米国)】
綿実	0.7	0.7		0.7		
なたね	1	1			1.0	カナダ 【0.05,0.03,<0.01,0.01 (カナダ)】
ぎんなん	0.01	0.01		0.01		
くり	0.02	0.02		0.01		
ペカン	0.02	0.02		0.01		
アーモンド	0.02	0.02		0.01		
くるみ	0.02	0.02		0.01		
その他のナッツ類	1	1		1		
茶	10	10	○			4.75(\$),2.62,0.80,3.46
コーヒー豆	0.05	0.05			0.05	ブラジル 【<0.01(ブラジル)】
ホップ	30	30	○	30		
その他のスパイス	70	30		70		
その他のハーブ	70	70	○	70		
牛の筋肉	0.05	0.01		0.05		
豚の筋肉	0.05	0.01		0.05		
その他の陸棲哺乳類に属する動物の筋肉	0.05	0.01		0.05		
牛の脂肪	0.05	0.05		0.05		
豚の脂肪	0.05	0.05		0.05		
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.05	0.05		0.05		
牛の肝臓	0.07	0.07		0.07		
豚の肝臓	0.07	0.07		0.07		
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.07	0.07		0.07		
牛の腎臓	0.07	0.07		0.07		
豚の腎臓	0.07	0.07		0.07		
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.07	0.07		0.07		
牛の食用部分	0.07	0.07		0.07		
豚の食用部分	0.07	0.07		0.07		
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.07	0.07		0.07		
乳	0.01	0.01		0.01		

食品名	基準値案 ppm	基準値 現行 ppm	登録 有無	参考基準値		作物残留試験成績等 ppm
				国際 基準 ppm	外国 基準値 ppm	
鶏の筋肉	0.01	0.01		0.01		
その他の家きんの筋肉	0.01	0.01		0.01		
鶏の脂肪	0.01	0.01		0.01		
その他の家きんの脂肪	0.01	0.01		0.01		
鶏の肝臓	0.01	0.01		0.01		
その他の家きんの肝臓	0.01	0.01		0.01		
鶏の腎臓	0.01	0.01		0.01		
その他の家きんの腎臓	0.01	0.01		0.01		
鶏の食用部分	0.01	0.01		0.01		
その他の家きんの食用部分	0.01	0.01		0.01		
鶏の卵	0.01	0.01		0.01		
その他の家きんの卵	0.01	0.01		0.01		
魚介類	0.08	0.08				【推:0.0705】
とうもろこし油(注1に限る。)	0.1			0.1		
とうがらし(乾燥させたもの)	30			30		
乾燥ハーブ	300			300		

注1) 食用植物油の日本農林規格に規定する食用とうもろこし油及びこれと同等以上の規格を有すると認められる食用油。本基準(暫定基準以外の基準)を見直す基準値案については、太枠線で囲んで示した。

「登録有無」の欄に「申」の記載があるものは、農薬の登録申請等の基準値設定依頼がなされたものであることを示している。

(#) これらの作物残留試験は、申請の範囲内で試験が行われていない。

(\$) これらの作物残留試験は、試験成績のばらつきを考慮し、この印をつけた残留値を基準値策定の根拠とした。

「作物残留試験」欄に「推」の記載のあるものは、推定残留量であることを示している。

(別紙3)

アゾキシストロビン推定摂取量 (単位: $\mu\text{g}/\text{人}/\text{day}$)

食品名	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
米(玄米をいう。)	0.2	37.0	19.5	27.9	37.8
小麦	0.3	35.0	24.7	37.0	25.0
大麦	0.5	3.0	0.1	0.2	1.8
ライ麦	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
とうもろこし	0.05	0.1	0.2	0.1	0.0
その他の穀類	0.5	0.2	0.1	0.3	0.2
大豆	0.5	28.1	16.9	22.8	29.4
小豆類	0.5	0.7	0.3	0.1	1.4
えんどう	0.5	0.2	0.1	0.2	0.2
そら豆	0.5	0.1	0.1	0.1	0.2
らっかせい	0.2	0.1	0.1	0.0	0.1
その他の豆類	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
ばれいしょ	1	36.6	21.3	39.8	27.0
さといも類(やつがしらを含む。)	1	11.6	5.7	7.9	17.3
かんしょ	1	15.7	17.7	13.8	16.8
やまいも(長いもをいう。)	1	2.6	0.5	1.6	4.3
こんにやくいも	1	12.9	5.7	11.0	13.4
その他のいも類	1	0.4	0.3	0.8	0.4
てんさい	1	4.5	3.7	3.4	4.0
だいこん類(ラディッシュを含む。)	1	45.0	18.7	28.7	58.5
だいこん類(ラディッシュを含む。)	50	110.0	25.0	45.0	170.0
かぶ類の根	1	2.6	0.7	0.7	4.2
かぶ類の葉	15	7.5	1.5	4.5	16.5
西洋わさび	1	0.1	0.1	0.1	0.1
クレソン	70	7.0	7.0	7.0	7.0
はくさい	3	88.2	30.9	65.7	95.1
キャベツ	5	114.0	49.0	114.5	99.5
芽キャベツ	5	0.5	0.5	0.5	0.5
ケール	40	4.0	4.0	4.0	4.0
こまつな	15	64.5	30.0	24.0	88.5
きょうな	40	12.0	4.0	4.0	12.0
チンゲンサイ	40	56.0	12.0	40.0	76.0
カリフラワー	5	2.0	0.5	0.5	2.0
ブロッコリー	5	22.5	14.0	23.5	20.5
その他のあぶらな科野菜	40	84.0	12.0	8.0	124.0
ごぼう	1	4.5	1.6	2.4	5.2
サルシフィニ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
アーティチョーク	5	0.5	0.5	0.5	0.5
チヨリ	30	3.0	3.0	3.0	3.0
エンダイブ	30	3.0	3.0	3.0	3.0
しゅんぎく	30	75.0	18.0	57.0	111.0
レタス(サラダ菜及びちしやを含む。)	30	183.0	75.0	192.0	126.0
その他のきく科野菜	70	28.0	7.0	35.0	49.0
たまねぎ	10	303.0	185.0	331.0	226.0
ねぎ(リーキを含む。)	10	113.0	45.0	82.0	135.0
にんにく	10	3.0	1.0	1.0	3.0
にら	70	112.0	49.0	49.0	112.0
アスパラガス	2	1.8	0.6	0.8	1.4
わけぎ	10	2.0	1.0	1.0	3.0
その他のゆり科野菜	50	45.0	5.0	5.0	90.0
にんじん	1	24.6	16.3	25.1	22.3
パースニップ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
パセリ	70	7.0	7.0	7.0	7.0
セロリ	30	12.0	3.0	9.0	12.0
みつば	5	1.0	0.5	0.5	1.0
その他のせり科野菜	70	7.0	7.0	7.0	21.0
トマト	3	72.9	50.7	73.5	56.7
ピーマン	3	13.2	6.0	5.7	11.1
なす	3	12.0	2.7	9.9	17.1
その他のなす科野菜	30	6.0	3.0	3.0	9.0

食品名	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
きゅうり (ガーキンを含む。)	1	16.3	8.2	10.1	16.6
かぼちゃ (スカッシュを含む。)	1	9.4	5.8	6.9	11.5
しろうり	1	0.3	0.1	0.1	0.8
すいか	1	0.1	0.1	0.1	0.1
メロン類果実	1	0.4	0.3	0.10	0.3
まくわうり	1	0.1	0.1	0.1	0.1
その他のうり科野菜	1	0.5	0.1	2.3	0.7
ほうれんそう	30	561.0	303.0	522.0	651.0
オクラ	3	0.9	0.6	0.6	0.9
しょうが	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2
未成熟えんどう	3	1.8	0.6	2.1	1.8
未成熟いんげん	3	5.7	3.6	5.4	5.4
えだまめ	5	0.5	0.5	0.5	0.5
しいたけ	3	14.1	5.4	11.4	14.7
その他のきのこ類	3	29.4	12.0	23.1	29.7
その他の野菜	70	882.0	679.0	672.0	854.0
みかん	1	41.6	35.4	45.8	42.6
なつみかんの果実全体	10	1.0	1.0	1.0	1.0
レモン	10	3.0	2.0	3.0	3.0
オレンジ (ネーブルオレンジを含む。)	10	4.0	6.0	8.0	2.0
グレープフルーツ	10	12.0	4.0	21.0	8.0
ライム	10	1.0	1.0	1.0	1.0
その他のかんきつ類果実	10	4.0	1.0	1.0	6.0
りんご	2	70.6	72.4	60.0	71.2
日本なし	2	10.2	8.8	10.6	10.2
西洋なし	2	0.20	0.20	0.20	0.20
びわ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
もも	0.05	0.0	0.0	0.2	0.0
ネクタリン	3	0.3	0.3	0.3	0.3
あんず (アブリコットを含む。)	2	0.2	0.2	0.2	0.2
すもも (プルーンを含む。)	2	0.4	0.2	2.8	0.4
うめ	2	2.2	0.6	2.8	3.2
おうとう (チェリーを含む。)	3	0.3	0.3	0.3	0.3
いちご	10	3.0	4.0	1.0	1.0
ラズベリー	5	0.5	0.5	0.5	0.5
ブラックベリー	5	0.5	0.5	0.5	0.5
ブルーベリー	5	0.5	0.5	0.5	0.5
クランベリー	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
ハックルベリー	5	0.5	0.5	0.5	0.5
その他のベリー類果実	5	0.5	0.5	0.5	0.5
ぶどう	10	58.0	44.0	16.0	38.0
かき	1	31.4	8.0	21.5	49.6
バナナ	3	37.8	33.9	26.1	53.1
パパイヤ	2	0.2	0.2	0.2	0.2
アボカド	1	0.2	0.1	0.1	0.2
グアバ	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
マンゴー	1	0.1	0.1	0.1	0.1
パッションフルーツ	1	0.1	0.1	0.1	0.1
その他の果実	3	11.7	17.7	4.2	5.1
ひまわりの種子	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
べにばなの種子	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1
綿実	0.7	0.1	0.1	0.1	0.1
なたね	1	8.4	5.0	8.2	5.3
ぎんなん	0.01	0.0	0.0	0.0	0.0
くり	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
ペカン	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
アーモンド	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
くるみ	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0
その他のナッツ類	1	0.1	0.1	0.1	0.1
茶	10	30.0	14.0	35.0	43.0
コーヒー豆	0.05	0.1	0.0	0.1	0.1
ホップ	30	3.0	3.0	3.0	3.0

食品名	基準値案 (ppm)	国民平均 TMDI	幼小児 (1~6歳) TMDI	妊婦 TMDI	高齢者 (65歳以上) TMDI
その他のスパイス	70	7.0	7.0	7.0	7.0
その他のハーブ	70	7.0	7.0	7.0	7.0
陸棲哺乳類の肉類	0.07	4.0	2.3	4.2	4.0
陸棲哺乳類の乳類	0.01	1.4	2.0	1.8	1.4
家禽の肉類	0.01	0.2	0.2	0.2	0.2
家禽の卵類	0.01	0.4	0.3	0.4	0.4
魚介類	0.08	7.5	3.4	7.5	7.5
計		3729.6	2125.9	3003.0	3950.4
ADI比 (%)		38.9	74.8	30.0	40.5

TMDI：理論最大1日摂取量 (Theoretical Maximum Daily Intake)

高齢者については畜水産物の摂取量データがないため、妊婦については家きんの卵類及び水産物の摂取量データがないため、国民平均の摂取量を参考とした。

(参考)

これまでの経緯

- | | | |
|-------|--------|---|
| 平成10年 | 4月24日 | 初回農薬登録 |
| 平成16年 | 11月16日 | 農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（適用拡大：だいこん及びピーマン） |
| 平成16年 | 11月30日 | 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請 |
| 平成17年 | 11月29日 | 残留農薬基準告示 |
| 平成18年 | 2月22日 | 農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（適用拡大：にんじん、ねぎ等） |
| 平成18年 | 7月18日 | 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について追加要請 |
| 平成18年 | 12月21日 | 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知 |
| 平成19年 | 9月21日 | 残留農薬基準告示 |
| 平成19年 | 9月21日 | 農林水産省より厚生労働省へ基準設定依頼（魚介類） |
| 平成19年 | 10月2日 | 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請 |
| 平成19年 | 11月15日 | 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知 |
| 平成20年 | 6月30日 | 残留農薬基準告示 |
| 平成21年 | 4月20日 | 農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（適用拡大：バナナ、しょうが等） |
| 平成21年 | 6月8日 | 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請 |
| 平成22年 | 1月28日 | 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響評価について通知 |
| 平成22年 | 12月13日 | 残留農薬基準告示 |
| 平成23年 | 8月9日 | 農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準設定依頼（適用拡大：こんにゃく） |
| 平成23年 | 10月4日 | 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請 |
| 平成23年 | 10月4日 | 厚生労働大臣から食品安全委員会委員長あてに添加物の指定に係る食品健康影響評価について要請 |
| 平成24年 | 3月15日 | 食品安全委員会委員長から厚生労働大臣あてに食品健康影響 |

評価について通知

平成24年 6月13日 薬事・食品衛生審議会へ諮問

平成24年 6月22日 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

● 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会農薬・動物用医薬品部会

[委員]

- | | |
|--------|------------------------------|
| 石井 里枝 | 埼玉県衛生研究所水・食品担当主任研究員 |
| ○大野 泰雄 | 国立医薬品食品衛生研究所長 |
| 尾崎 博 | 東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学教室教授 |
| 斉藤 貢一 | 星薬科大学薬品分析化学教室准教授 |
| 佐藤 清 | 一般財団法人残留農薬研究所業務執行理事・化学部長 |
| 高橋 美幸 | 農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究所上席研究員 |
| 永山 敏廣 | 東京都健康安全研究センター食品化学部長 |
| 廣野 育生 | 東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授 |
| 松田 りえ子 | 国立医薬品食品衛生研究所食品部長 |
| 宮井 俊一 | 一般社団法人日本植物防疫協会技術顧問 |
| 山内 明子 | 日本生活協同組合連合会執行役員組織推進本部長 |
| 由田 克士 | 大阪市立大学大学院生活科学研究科公衆栄養学教授 |
| 吉成 浩一 | 東北大学大学院薬学研究科医療薬学講座薬物動態学分野准教授 |
| 鵜淵 英機 | 大阪市立大学大学院医学研究科都市環境病理学教授 |

(○：部会長)

答申(案)

アゾキシストロピン

食品名	残留基準値
	ppm
米(玄米をいう。)	0.2
小麦	0.3
大麦	0.5
ライ麦	0.3
とうもろこし	0.05
その他の穀類 ^{注1)}	0.5
大豆	0.5
小豆類 ^{注2)}	0.5
えんどう	0.5
そら豆	0.5
らっかせい	0.2
その他の豆類 ^{注3)}	0.5
ばれいしょ	1
さといも類(やつがしらを含む。)	1
かんしょ	1
やまいも(長いもをいう。)	1
こんにやくいも	1
その他のいも類 ^{注4)}	1
てんさい	1
だいこん類(ラディッシュを含む。)の根	1
だいこん類(ラディッシュを含む。)の葉	50
かぶ類の根	1
かぶ類の葉	15
西洋わさび	1
クレソン	70
はくさい	3
キャベツ	5
芽キャベツ	5
ケール	40
こまつな	15
きょうな	40
チンゲンサイ	40
カリフラワー	5
ブロッコリー	5
その他のあぶらな科野菜 ^{注5)}	40
ごぼう	1
サルシフィー	1
アーティチョーク	5
チコリ	30
エンダイブ	30
しゅんぎく	30
レタス(サラダ菜及びちしゃを含む。)	30
その他のきく科野菜 ^{注6)}	70
たまねぎ	10
ねぎ(リーキを含む。)	10
にんにく	10
にら	70
アスパラガス	2
わけぎ	10
その他のゆり科野菜 ^{注7)}	50
にんじん	1
パースニップ	1
パセリ	70
セロリ	30
みつば	5
その他のせり科野菜 ^{注8)}	70

注1)「その他の穀類」とは、穀類のうち、米、小麦、大麦、ライ麦、とうもろこし及びそば以外のものをいう。

注2)いんげん、ささげ、サルタニ豆、サルタピア豆、バター豆、ペギア豆、ホワイト豆、ライマ豆及びレンズを含む。

注3)「その他の豆類」とは、豆類のうち、大豆、小豆類、えんどう、そら豆、らっかせい及びスパイス以外のものをいう。

注4)「その他のいも類」とは、いも類のうち、ばれいしょ、さといも類、かんしょ、やまいも及びこんにやくいも以外のものをいう。

注5)「その他のあぶらな科野菜」とは、あぶらな科野菜のうち、だいこん類の根、だいこん類の葉、かぶ類の根、かぶ類の葉、西洋わさび、クレソン、はくさい、キャベツ、芽キャベツ、ケール、こまつな、きょうな、チンゲンサイ、カリフラワー、ブロッコリー及びハーブ以外のものをいう。

注6)「その他のきく科野菜」とは、きく科野菜のうち、ごぼう、サルシフィー、アーティチョーク、チコリ、エンダイブ、しゅんぎく、レタス及びハーブ以外のものをいう。

注7)「その他のゆり科野菜」とは、ゆり科野菜のうち、たまねぎ、ねぎ、にんにく、にら、アスパラガス、わけぎ及びハーブ以外のものをいう。

注8)「その他のせり科野菜」とは、せり科野菜のうち、にんじん、パースニップ、パセリ、セロリ、みつば、スパイス及びハーブ以外のものをいう。

アゾキシストロビン

食品名	残留基準値
	ppm
トマト	3
ピーマン	3
なす	3
その他のなす科野菜 ^{注9)}	30
きゅうり(ガーキンを含む。)	1
かぼちゃ(スカッシュを含む。)	1
しろうり	1
すいか	1
メロン類果実	1
まくわうり	1
その他のうり科野菜 ^{注10)}	1
ほうれんそう	30
オクラ	3
しょうが	0.3
未成熟えんどう	3
未成熟いんげん	3
えだまめ	5
しいたけ	3
その他のきのこ類 ^{注11)}	3
その他の野菜 ^{注12)}	70
みかん	1
なつみかんの果実全体	10
レモン	10
オレンジ(ネーブルオレンジを含む。)	10
グレープフルーツ	10
ライム	10
その他のかんきつ類果実 ^{注13)}	10
りんご	2
日本なし	2
西洋なし	2
びわ	0.1
もも	0.05
ネクタリン	3
あんず(アプリコットを含む。)	2
すもも(プルーンを含む。)	2
うめ	2
おうとう(チェリーを含む。)	3
いちご	10
ラズベリー	5
ブラックベリー	5
ブルーベリー	5
クランベリー	0.5
ハックルベリー	5
その他のベリー類果実 ^{注14)}	5
ぶどう	10
かき	1
バナナ	3
パパイヤ	2
アボカド	1
グアバ	0.3
マンゴー	1
パッションフルーツ	1
その他の果実 ^{注15)}	3
ひまわりの種子	0.5
べにばなの種子	0.5
綿実	0.7
なたね	1

注9)「その他のなす科野菜」とは、なす科野菜のうち、トマト、ピーマン及びなす以外のものをいう。

注10)「その他のうり科野菜」とは、うり科野菜のうち、きゅうり、かぼちゃ、しろうり、すいか、メロン類果実及びまくわうり以外のものをいう。

注11)「その他のきのこ類」とは、きのこ類のうち、マッシュルーム及びしいたけ以外のものをいう。

注12)「その他の野菜」とは、野菜のうち、いも類、てんさい、さとうきび、あぶらな科野菜、きく科野菜、ゆり科野菜、せり科野菜、なす科野菜、うり科野菜、ほうれんそう、たけのこ、オクラ、しょうが、未成熟えんどう、未成熟いんげん、えだまめ、きのこ類、スパイス及びハーブ以外のものをいう。

注13)「その他のかんきつ類果実」とは、かんきつ類果実のうち、みかん、なつみかん、なつみかんの外果皮、なつみかんの果実全体、レモン、オレンジ、グレープフルーツ、ライム及びスパイス以外のものをいう。

注14)「その他のベリー類果実」とは、ベリー類果実のうち、いちご、ラズベリー、ブラックベリー、ブルーベリー、クランベリー及びハックルベリー以外のものをいう。

注15)「その他の果実」とは、果実のうち、かんきつ類果実、りんご、日本なし、西洋なし、マルメロ、びわ、もも、ネクタリン、あんず、すもも、うめ、おうとう、ベリー類果実、ぶどう、かき、バナナ、キウイ、パパイヤ、アボカド、パイナップル、グアバ、マンゴー、パッションフルーツ、なつめやし及びスパイス以外のものをいう。

アゾキシストロビン

食品名	残留基準値
	ppm
ぎんなん	0.01
くり	0.02
ペカン	0.02
アーモンド	0.02
くるみ	0.02
その他のナッツ類 ^{注16)}	1
茶	10
コーヒード	0.05
ホップ	30
その他のスパイス ^{注17)}	70
その他のハーブ ^{注18)}	70
牛の筋肉	0.05
豚の筋肉	0.05
その他の陸棲哺乳類に属する動物 ^{注19)} の筋肉	0.05
牛の脂肪	0.05
豚の脂肪	0.05
その他の陸棲哺乳類に属する動物の脂肪	0.05
牛の肝臓	0.07
豚の肝臓	0.07
その他の陸棲哺乳類に属する動物の肝臓	0.07
牛の腎臓	0.07
豚の腎臓	0.07
その他の陸棲哺乳類に属する動物の腎臓	0.07
牛の食用部分 ^{注20)}	0.07
豚の食用部分	0.07
その他の陸棲哺乳類に属する動物の食用部分	0.07
乳	0.01
鶏の筋肉	0.01
その他の家きん ^{注21)} の筋肉	0.01
鶏の脂肪	0.01
その他の家きんの脂肪	0.01
鶏の肝臓	0.01
その他の家きんの肝臓	0.01
鶏の腎臓	0.01
その他の家きんの腎臓	0.01
鶏の食用部分	0.01
その他の家きんの食用部分	0.01
鶏の卵	0.01
その他の家きんの卵	0.01
魚介類	0.08
とうもろこし油(注22に限る。)	0.1
とうがらし(乾燥させたもの)	30
乾燥ハーブ	300

注16)「その他のナッツ類」とは、ナッツ類のうち、ぎんなん、くり、ペカン、アーモンド及びくるみ以外のものをいう。

注17)「その他のスパイス」とは、スパイスのうち、西洋わさび、わさびの根茎、にんにく、とうがらし、パプリカ、しょうが、レモンの果皮、オレンジの果皮、ゆずの果皮及びごまの種子以外のものをいう。

注18)「その他のハーブ」とは、ハーブのうち、クレンソ、にら、パセリの茎、パセリの葉、セロリの茎及びセロリの葉以外のものをいう。

注19)「その他の陸棲哺乳類に属する動物」とは、陸棲哺乳類に属する動物のうち、牛及び豚以外のものをいう。

注20)「食用部分」とは、食用に供される部分のうち、筋肉、脂肪、肝臓及び腎臓以外の部分をいう。

注21)「その他の家きん」とは、家きんのうち、鶏以外のものをいう。

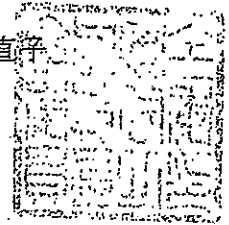
注22)食用植物油脂の日本農林規格に規定する食用とうもろこし油及びこれと同等以上の規格を有すると認められる食用油。



府食第276号
平成24年3月15日

厚生労働大臣
小宮山 洋子 殿

食品安全委員会
委員長 小泉 直子



食品健康影響評価の結果の通知について

平成23年10月4日付け厚生労働省発食安1004第1号をもって厚生労働大臣から食品安全委員会に意見を求められたアゾキシストロビンに係る食品健康影響評価の結果は下記のとおりですので、食品安全基本法（平成15年法律第48号）第23条第2項の規定に基づき通知します。

なお、食品健康影響評価の詳細は別添のとおりです。

記

アゾキシストロビンの一日摂取許容量を0.18 mg/kg 体重/日と設定する。

農薬・添加物評価書

アゾキシストロビン
(第4版)

2012年3月

食品安全委員会

目次

	頁
○ 審議の経緯	3
○ 食品安全委員会委員名簿	5
○ 食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿	5
○ 調査審議に参画した食品安全委員会添加物専門調査会専門委員	7
○ 要約	8
I. 評価対象農薬の概要・添加物の概要	9
1. 用途	9
2. 有効成分の一般名	9
3. 化学名	9
4. 分子式	9
5. 分子量	9
6. 構造式	9
7. 開発の経緯	9
II. 安全性に係る試験の概要	11
1. 動物体内運命試験	11
(1) ラット	11
(2) ヤギ	14
2. 植物体内運命試験	14
(1) 稲	14
(2) 小麦	15
(3) ぶどう	16
(4) らっかせい	16
3. 土壌中運命試験	17
(1) 好氣的湛水土壌中運命試験	17
(2) 好氣的及び嫌氣的湛水土壌中運命試験	17
(3) 好氣的土壌中運命試験	18
(4) 土壌表面における光分解	18
(5) 土壌吸着試験（日本土壌）	19
(6) 土壌吸着試験（英国土壌）	19
(7) 土壌カラムリーチング試験	19
4. 水中運命試験	19
(1) 加水分解試験	19
(2) 水中光分解試験（滅菌緩衝液）	20
(3) 水中光分解試験（自然水及び蒸留水）	20

5. 土壤残留試験	20
6. 作物等残留試験	21
(1) 作物残留試験	21
(2) 魚介類における最大推定残留値	21
(3) 乳汁移行試験	22
(4) 推定摂取量	22
7. 一般薬理試験	22
8. 急性毒性試験	23
(1) 急性毒性試験	23
(2) 急性神経毒性試験	24
9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験	24
10. 亜急性毒性試験	25
(1) 90日間亜急性毒性試験(ラット)	25
(2) 90日間亜急性毒性試験(イヌ)	25
(3) 90日間亜急性神経毒性試験(ラット)	26
11. 慢性毒性試験及び発がん性試験	27
(1) 1年間慢性毒性試験(イヌ)	27
(2) 2年間慢性毒性/発がん性併合試験(ラット)	27
(3) 2年間発がん性試験(マウス)	28
12. 生殖発生毒性試験	28
(1) 2世代繁殖試験(ラット)	28
(2) 発生毒性試験(ラット)	29
(3) 発生毒性試験(ウサギ)①	29
(4) 発生毒性試験(ウサギ)②	30
13. 遺伝毒性試験	30
Ⅲ. 食品健康影響評価	32
・別紙1: 代謝物/分解物略称	35
・別紙2: 検査値等略称	37
・別紙3: 作物残留試験成績(農薬としての使用)	38
・別紙4: 作物残留試験成績(添加物としての使用)	76
・別紙5: 推定摂取量	80
・参照	82

<審議の経緯>

○第1版関係

―清涼飲料水関係―

- | | | | |
|-------|-----|-----|--|
| 2003年 | 7月 | 1日 | 厚生労働大臣より清涼飲料水の規格基準改正に係る食品健康影響評価について要請(厚生労働省発食安第0701015号) |
| 2003年 | 7月 | 3日 | 関係書類の接受(参照1) |
| 2003年 | 7月 | 18日 | 第3回食品安全委員会(要請事項説明) |
| 2003年 | 10月 | 8日 | 関係書類の接受(参照2)
(アゾキシストロビンを含む要請対象93農薬を特定) |
| 2003年 | 10月 | 27日 | 第1回農薬専門調査会 |
| 2004年 | 1月 | 28日 | 第6回農薬専門調査会 |
| 2005年 | 1月 | 12日 | 第22回農薬専門調査会 |

―適用拡大申請及びポジティブリスト制度関係―

- | | | | |
|-------|-----|-----|--|
| 1998年 | 4月 | 24日 | 初回農薬登録 |
| 2004年 | 11月 | 16日 | 農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼(適用拡大:だいこん及びピーマン) |
| 2004年 | 11月 | 30日 | 厚生労働大臣より残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請(厚生労働省発食安第1130001号) |
| 2004年 | 12月 | 1日 | 関係書類の接受(参照3~55) |
| 2004年 | 12月 | 9日 | 第73回食品安全委員会(要請事項説明) |
| 2005年 | 2月 | 9日 | 第24回農薬専門調査会 |
| 2005年 | 11月 | 29日 | 残留農薬基準告示(参照56) |
| 2006年 | 2月 | 22日 | 農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼(適用拡大:にんじん、ねぎ等) |
| 2006年 | 3月 | 6日 | 関係書類の接受(参照57~59) |
| 2006年 | 7月 | 18日 | 厚生労働大臣より残留基準設定に係る食品健康影響評価について追加要請(厚生労働省発食安第0718005号)、関係書類の接受(参照60) |
| 2006年 | 7月 | 20日 | 第153回食品安全委員会(要請事項説明) |
| 2006年 | 10月 | 16日 | 第5回農薬専門調査会総合評価第二部会 |
| 2006年 | 11月 | 1日 | 第6回農薬専門調査会幹事会 |
| 2006年 | 11月 | 9日 | 第167回食品安全委員会(報告) |
| 2006年 | 11月 | 9日 | より12月8日 国民からの御意見・情報の募集 |
| 2006年 | 12月 | 19日 | 農薬専門調査会座長より食品安全委員会委員長へ報告 |
| 2006年 | 12月 | 21日 | 第172回食品安全委員会(報告)
(同日付け厚生労働大臣へ通知)(参照61) |

2007年 9月 21日 残留農薬基準告示 (参照 62)

○第2版関係

2007年 9月 21日 農林水産省より厚生労働省へ基準値設定依頼 (魚介類)
2007年 10月 2日 厚生労働大臣より残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請 (厚生労働省発食安第 1002002 号)、関係書類の接受 (参照 63~65)
2007年 10月 4日 第 209 回食品安全委員会 (要請事項説明)
2007年 11月 7日 第 30 回農薬専門調査会幹事会
2007年 11月 13日 農薬専門調査会座長より食品安全委員会委員長へ報告
2007年 11月 15日 第 215 回食品安全委員会 (報告)
(同日付け厚生労働大臣へ通知) (参照 66)
2008年 6月 30日 残留農薬基準告示 (参照 70)

○第3版関係

2009年 4月 20日 農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼 (適用拡大: パナナ、しょうが等)
2009年 6月 8日 厚生労働大臣より残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請 (厚生労働省発食安第 0608001 号)
2009年 6月 9日 関係書類の接受 (参照 71~73)
2009年 6月 11日 第 289 回食品安全委員会 (要請事項説明)
2010年 1月 28日 第 318 回食品安全委員会 (審議)
(同日付け厚生労働大臣へ通知) (参照 74)
2010年 12月 13日 残留農薬基準告示 (参照 75)

○第4版関係

2011年 8月 9日 農林水産省より厚生労働省へ農薬登録申請に係る連絡及び基準値設定依頼 (適用拡大: こんにゃく)
2011年 10月 4日 厚生労働大臣より残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請 (厚生労働省発食安 1004 第 1 号)
2011年 10月 7日 関係書類の接受 (参照 76~79)
2011年 10月 13日 第 403 回食品安全委員会 (要請事項説明)
2012年 3月 2日 第 81 回農薬専門調査会幹事会
2012年 3月 12日 農薬専門調査会座長から食品安全委員会委員長へ報告
2012年 3月 15日 第 423 回食品安全委員会 (報告)
(同日付け厚生労働大臣に通知)

<食品安全委員会委員名簿>

(2006年6月30日まで)

寺田雅昭 (委員長)
寺尾允男 (委員長代理)
小泉直子
坂本元子
中村靖彦
本間清一
見上 彪

(2006年12月20日まで)

寺田雅昭 (委員長)
見上 彪 (委員長代理)
小泉直子
長尾 拓
野村一正
畑江敬子
本間清一

(2009年6月30日まで)

見上 彪 (委員長)
小泉直子 (委員長代理*)
長尾 拓
野村一正
畑江敬子
廣瀬雅雄**
本間清一

*: 2007年2月1日から

** : 2007年4月1日から

(2011年1月6日まで)

小泉直子 (委員長)
見上 彪 (委員長代理*)
長尾 拓
野村一正
畑江敬子
廣瀬雅雄
村田容常

(2011年1月7日から)

小泉直子 (委員長)
熊谷 進 (委員長代理*)
長尾 拓
野村一正
畑江敬子
廣瀬雅雄
村田容常

*: 2009年7月9日から

*: 2011年1月13日から

<食品安全委員会農業専門調査会専門委員名簿>

(2006年3月31日まで)

鈴木勝士 (座長)
廣瀬雅雄 (座長代理)
石井康雄
江馬 眞
太田敏博

小澤正吾
高木篤也
武田明治
津田修治*
津田洋幸

出川雅邦
長尾哲二
林 眞
平塚 明
吉田 緑

*: 2005年10月1日から

(2007年3月31日まで)

鈴木勝士 (座長)
廣瀬雅雄 (座長代理)
赤池昭紀
石井康雄
泉 啓介

三枝順三
佐々木有
高木篤也
玉井郁巳
田村廣人

根岸友恵
林 眞
平塚 明
藤本成明
細川正清

上路雅子
臼井健二
江馬 眞
大澤貫寿
太田敏博
大谷 浩
小澤正吾
小林裕子

津田修治
津田洋幸
出川雅邦
長尾哲二
中澤憲一
納屋聖人
成瀬一郎
布柴達男

松本清司
柳井徳磨
山崎浩史
山手丈至
與語靖洋
吉田 緑
若栗 忍

(2008年3月31日まで)

鈴木勝士 (座長)
林 眞 (座長代理*)
赤池昭紀
石井康雄
泉 啓介
上路雅子
臼井健二
江馬 眞
大澤貫寿
太田敏博
大谷 浩
小澤正吾
小林裕子

三枝順三
佐々木有
代田眞理子****
高木篤也
玉井郁巳
田村廣人
津田修治
津田洋幸
出川雅邦
長尾哲二
中澤憲一
納屋聖人
成瀬一郎***

西川秋佳**
布柴達男
根岸友恵
平塚 明
藤本成明
細川正清
松本清司
柳井徳磨
山崎浩史
山手丈至
與語靖洋
吉田 緑
若栗 忍

* : 2007年4月11日から
** : 2007年4月25日から
*** : 2007年6月30日まで
**** : 2007年7月1日から

(2010年3月31日まで)

鈴木勝士 (座長)
林 眞 (座長代理)
相磯成敏
赤池昭紀
石井康雄
泉 啓介
今井田克己
上路雅子
臼井健二

佐々木有
代田眞理子
高木篤也
玉井郁巳
田村廣人
津田修治
津田洋幸
長尾哲二
中澤憲一*

平塚 明
藤本成明
細川正清
堀本政夫
松本清司
本間正充
柳井徳磨
山崎浩史
山手丈至

太田敏博
大谷 浩
小澤正吾
川合是彰
小林裕子
三枝順三***

永田 清
納屋聖人
西川秋佳
布柴達男
根岸友惠
根本信雄

與語靖洋
義澤克彦**
吉田 緑
若栗 忍

*: 2009年1月19日まで
** : 2009年4月10日から
*** : 2009年4月28日から

(2010年4月1日から)

納屋聖人 (座長)
林 真 (座長代理)
相磯成敏
赤池昭紀
浅野 哲**
石井康雄
泉 啓介
上路雅子
臼井健二
太田敏博
小澤正吾
川合是彰
川口博明
桑形麻樹子***
小林裕子
三枝順三

佐々木有
代田眞理子
高木篤也
玉井郁巳
田村廣人
津田修治
津田洋幸
長尾哲二
永田 清
長野嘉介*
西川秋佳
布柴達男
根岸友惠
根本信雄
八田稔久

平塚 明
福井義浩
藤本成明
細川正清
堀本政夫
本間正充
増村健一**
松本清司
柳井徳磨
山崎浩史
山手丈至
與語靖洋
義澤克彦
吉田 緑
若栗 忍

*: 2011年3月1日まで
** : 2011年3月1日から
*** : 2011年6月23日から

[調査審議に参画した食品安全委員会添加物専門調査会専門委員]¹

伊藤清美

¹ 「農薬であつて農作物の収穫後に添加物としても使用されるものについて、食品安全基本法第24条の規定に基づき意見を求められた場合の取扱いについて」(平成22年5月20日食品安全委員会決定)に基づき調査審議の際に招聘した添加物専門調査会の専門委員

要 約

ストロビルリン系殺菌剤である「アゾキシストロビン」(CAS No.131860-33-8)について、各種試験成績等を用いて食品健康影響評価を実施した。なお、今回食品添加物の指定要請資料、家畜代謝試験(ヤギ)、作物残留試験(こんにゃく)等が新たに提出された。

評価に用いた試験成績は、動物体内運命(ラット)、植物体内運命(稲、小麦、ぶどう及びらっかせい)、作物等残留、亜急性毒性(ラット及びイヌ)、慢性毒性(イヌ)、慢性毒性/発がん性併合(ラット)、発がん性(マウス)、2世代繁殖(ラット)、発生毒性(ラット及びウサギ)、遺伝毒性試験等の試験成績である。

各種毒性試験結果から、アゾキシストロビン投与による影響は、主に体重(増加抑制)、血液(貧血)及び胆道系(総胆管拡張、胆管上皮過形成等)に認められた。発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかった。

各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた2年間慢性毒性/発がん性併合試験の18.2 mg/kg 体重/日であったので、これを根拠として、安全係数100で除した0.18 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量(ADI)と設定した。

I. 評価対象農薬・添加物の概要

1. 用途

殺菌剤（添加物としては防かび剤）

2. 有効成分の一般名

和名：アゾキシストロビン

英名：azoxystrobin (ISO名)

3. 化学名

IUPAC

和名：メチル=(*E*)-2-{2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリラート

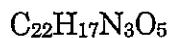
英名：methyl (*E*)-2-{2-[6-(2-cyanophenoxy) pyrimidin-4-yloxy] phenyl}-3-methoxyacrylate

CAS (No.131860-33-8)

和名：メチル (*E*)-2-[[6-(2-シアノフェノキシ)-4-ピリミジニル]オキシ]- α -(メトキシメチレン)ベンゼンアセテート

英名：methyl (*E*)-2-[[6-(2-cyanophenoxy)-4-pyrimidinylloxy]- α -(methoxymethylene) benzeneacetate

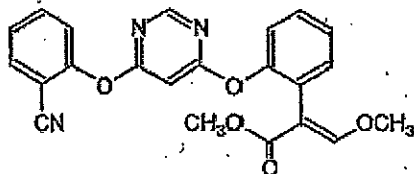
4. 分子式



5. 分子量

403.4

6. 構造式



7. 開発の経緯

アゾキシストロビンは、1992年に英国ゼネカ社により開発されたストロビルリン系殺菌剤であり、ミトコンドリアのチトクローム bc1 複合体の Qo 部位に結合することで電子伝達系を阻害し、菌の呼吸を阻害すると考えられる。なお、本化合物には立体異性体が存在するが、本品の有効成分は *E* 体のみである。

アゾキシストロビンは、約 50 カ国で主に米、小麦、豆類、ぶどう等に登録されて

おり、我が国では1998年4月24日に初めて登録された。今回、適用拡大申請（こんにゃく）がなされている。また、収穫後にアゾキシストロビンが防かび剤として使用された、かんきつ類（みかんを除く）の輸入のための食品添加物の新規指定の要請がなされている。

II. 安全性に係る試験の概要

各種運命試験[II. 1~4]は、アゾキシストロピンのピリミジン環の5位の炭素を¹⁴Cで標識したもの（以下「[pyr-¹⁴C]アゾキシストロピン」という。）、シアノフェニルのフェニル基を均一に¹⁴Cで標識したもの（以下「[cya-¹⁴C]アゾキシストロピン」という。）及びフェニルアクリレートフェニル基を均一に¹⁴Cで標識したもの（以下「[phe-¹⁴C]アゾキシストロピン」という。）を用いて実施された。放射能濃度及び代謝物濃度は特に断りがない場合はアゾキシストロピンに換算した。代謝物/分解物略称及び検査値等略称は別紙1及び2に示されている。

1. 動物体内運命試験

(1) ラット

① 吸収

a. 血中濃度推移

SDラット（一群雌雄各3匹）に[pyr-¹⁴C]アゾキシストロピンを1 mg/kg 体重（以下[1.]において「低用量」という。）又は100 mg/kg 体重（以下[1.]において「高用量」という。）で単回経口投与して、血中濃度推移について検討された。

血中薬物動態学的パラメータは表1に示されている。

血中放射能濃度は、低用量で投与1~8時間後、高用量で投与2~12時間後に最高に達した。T_{1/2}は、低用量で約19時間、高用量で約20時間であった。血中濃度推移に性差は認められなかった。（参照4）

表1 血中薬物動態学的パラメータ

投与量	1 mg/kg 体重/日		100 mg/kg 体重/日	
	雄	雌	雄	雌
T _{max} (時間)	4~8	1~4	3~12	2~12
C _{max} (µg/g)	0.152~0.218	0.101~0.178	6.16~12.4	5.10~7.76
T _{1/2} (時間)	14~20	14~21	16~33	17~25

b. 吸収率

代謝物同定・定量試験[1. (1)③]において、胆汁中から親化合物は検出されなかったことから、糞中で検出されたアゾキシストロピンは未吸収の親化合物と考えられた。したがって、体内吸収率は糞中のアゾキシストロピンの検出率を100から減じて算出され、低用量で約100%、高用量で約70%であった。（参照7）

② 分布

SDラット（一群雌雄各3~5匹）に[pyr-¹⁴C]アゾキシストロピンを低用量若しくは高用量で単回経口投与又は低用量で反復経口投与（非標識体を14日間反復投与後に標識体を単回投与）して、体内分布試験が実施された。

単回経口投与群における主要臓器及び組織の残留放射能濃度は表2に示されてい

る。

単回経口投与群において、臓器及び組織中残留放射能は小腸、大腸、肝臓及び腎臓に多く分布していた。各臓器及び組織からの消失は速やかで、投与 192 時間後では T_{max} 付近の濃度の 1/2,000~1/10 以下に低下した。体内分布及び各組織からの消失プロフィールに性差は認められなかった。

反復経口投与群においても、最終投与 7 日後の組織に残留していた放射能は僅か 0.7% TAR 未満であり、放射能分布が比較的多かったのは腎臓 (雄: 0.04 $\mu\text{g/g}$ 、雌: 0.03 $\mu\text{g/g}$) 及び肝臓 (雄: 0.02 $\mu\text{g/g}$ 、雌: 0.01 $\mu\text{g/g}$) であった。(参照 4、7)

表 2 主要臓器及び組織の残留放射能濃度 ($\mu\text{g/g}$)

投与量 (mg/kg 体重)	性別	T_{max} 付近 ¹⁾	投与 192 時間後
1	雄	小腸(1.92)、大腸(0.90)、肝臓(0.78)、腎臓(0.44)、血漿(0.24)、全血(0.15)	腎臓(0.03)、肝臓、肺、心臓、大腿骨及び全血(0.01 未満)
	雌	小腸(1.85)、大腸(1.06)、肝臓(0.42)、腎臓(0.27)、血漿(0.11)、全血(0.07)	腎臓(0.03)、全血(0.01)
100	雄	大腸(138)、小腸(57.3)、肝臓(30.2)、腎臓(18.6)、血漿(13.3)、全血(9.19)	腎臓(1.73)、大腸(1.18)、小腸(1.17)、筋肉(0.90)、肝臓(0.84)、肺(0.69)、腹部脂肪(0.60)、全血(0.52)
	雌	大腸(128)、小腸(60.4)、肝臓(25.4)、腎臓(13.8)、血漿(7.09)、心臓(5.71)、全血(4.96)	腎臓(1.44)、大腸(1.20)、小腸(1.16)、筋肉(0.92)、肝臓(0.63)、肺(0.63)、全血(0.49)

1) 1 mg/kg 体重投与群では投与 4 時間後、100 mg/kg 体重投与群では投与 12 時間後

③ 代謝

排泄試験 [1. (1)④a 及び b] で得られた尿、糞及び胆汁を試料として、代謝物同定・定量試験が実施された。

尿、糞及び胆汁中の代謝物は表 3 に示されている。

親化合物は高用量投与群の糞中で約 30% TAR 検出されたが、尿及び胆汁中からは検出されなかった。尿及び糞中では 10% TAR を超える代謝物は認められず、多数の少量代謝物が検出された。胆汁中の主要代謝物は Y であった。

代謝物の種類には性差が認められたが、3 種類の標識体を用いて実施された胆汁排泄試験で得られた試料では、標識位置によって代謝物のプロフィールに大きな違いはみられなかった。

主要代謝反応は、①メチルエステルの加水分解とそれに続くグルクロン酸抱合化 (代謝物 Y の生成)、②シアノフェニル環のグルタチオン抱合化 (代謝物 Z の生成) 及びそれに続くメルカプツール酸 (代謝物 AA、AB 及び AC) の生成と考えられた。

(参照 8、9)

表3 尿、糞及び胆汁中の代謝物 (%TAR)

投与量 (mg/kg体重)	1				100				100 (胆汁排泄試験)					
	雄		雌		雄		雌		雄			雌		
性別	尿	糞	尿	糞	尿	糞	尿	糞	尿	糞	胆汁	尿	糞	胆汁
アゾキシストロビン	—	—	—	0.9	—	32.6	—	32.1	—	15.1	—	—	13.6	—
K	0.2	1.4	0.3	0.8	0.1	—	0.4	2.1	—	—	6.5	0.3	0.1	6.8
V	—	2.7	—	1.4	—	4.1	—	2.6	0.1	—	—	—	—	1.7
W+Z ¹⁾	0.5	1.3	0.4	0.6	—	—	0.5	—	—	—	6.8	0.3	—	9.0
X+Z ¹⁾	—	0.7	3.0	—	—	—	0.5	2.1	—	—	—	0.2	0.1	1.4
Y	—	1.0	0.9	1.4	0.7	1.2	1.4	—	0.1	—	29.3	1.7	—	27.4
AA ²⁾	0.7	0.7	—	—	—	—	—	—	—	—	7.0	0.3	—	1.6
AB+AE ¹⁾	—	0.4	1.1	0.7	0.4	0.5	0.6	—	0.1	—	3.2	0.3	—	6.1
AC	0.1	1.1	1.6	0.6	0.2	—	1.0	1.1	—	—	4.5	0.4	0.1	2.4
C	—	3.1	2.2	—	—	—	—	4.0	—	—	—	0.4	—	4.8
I	—	—	0.1	—	0.2	—	0.3 ³⁾	—	trace	—	2.8	trace	—	0.9
M	0.8	0.4	0.8	0.3	0.6	0.3	0.5	—	0.3	0.2	4.1	0.4	0.2	1.5
未同定 代謝物 ³⁾	7.3	4.0	6.5	7.4	5.8	3.4	4.7	1.9	1.4	0.1	8.0	2.6	0.1	10.2

—: 検出されず

- 1) HPLC 上でピークの分離が不完全、2) 未同定代謝物を含む、3) 6~7 種類の未同定代謝物の合計、
4) 親化合物 (アゾキシストロビン) を含む

④ 排泄

a. 尿及び糞中排泄

SD ラット (一群雌雄各 5 匹) に [pyr-¹⁴C]アゾキシストロビンを低用量若しくは高用量で単回経口投与又は低用量で反復経口投与 (非標識体を 14 日間反復投与後に標識体を単回投与) して、尿及び糞中排泄試験が実施された。また、SD ラット (雌雄各 1 匹) に [pyr-¹⁴C]アゾキシストロビンを低用量で単回経口投与し、呼吸からの排泄について検討された。

投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率は表 4 に示されている。

アゾキシストロビンの排泄は速やかで、投与後 48 時間で 86%TAR 以上が尿及び糞中に排泄された。雌雄いずれにおいても糞中が主な排泄経路であった。

呼吸中に排泄された放射能は僅かであり、投与後 48 時間で 0.6%TAR 未満であった。

(参照 5~7)

表 4 投与後 168 時間の尿及び糞中排泄率 (%TAR)

投与方法 投与量 (mg/kg 体重)	単回経口				反復経口	
	1		100		1	
性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌
尿	10.2	17.9	8.5	11.5	12.5	17.0
糞	83.2	72.6	89.4	84.5	89.1	86.5
ケージ洗浄液	0.3	0.9	0.4	1.2	0.5	0.1
合計	93.7	91.4	98.3	97.2	102	104

b. 胆汁中排泄

胆管カニューレを挿入したSDラット（一群雌雄各2匹）に[pyr-¹⁴C]アゾキシストロビン、[phe-¹⁴C]アゾキシストロビン又は[cya-¹⁴C]アゾキシストロビンを高用量で単回経口投与して、胆汁中排泄試験が実施された。

投与後48時間の胆汁、尿及び糞中排泄率は表5に示されている。投与後48時間の胆汁中排泄量は56.6～74.2%TARであり、雌雄とも胆汁中が主な排泄経路と考えられた。排泄パターンに標識位置による差はみられなかった。（参照8）

表5 投与後48時間の胆汁、尿及び糞中排泄率(%TAR)

標識体	[pyr- ¹⁴ C] アゾキシストロビン		[phe- ¹⁴ C] アゾキシストロビン		[cya- ¹⁴ C] アゾキシストロビン	
	雄	雌	雄	雌	雄	雌
胆汁	64.4	63.6	71.6	74.2	56.6	62.5
尿	4.4	4.0	2.0	7.1	2.0	4.2
糞	18.1	29.6	18.1	18.9	29.1	28.1

(2) ヤギ

泌乳ヤギ（ブリティッシュ・ザーネン種、6頭（各標識化合物に対し2頭））に、[cya-¹⁴C]アゾキシストロビン、[pyr-¹⁴C]アゾキシストロビン及び[phe-¹⁴C]アゾキシストロビンを50 mg/日（25 mg 1日2回投与）で7日間反復カプセル経口投与し、動物体内運命試験が実施された。投与1日目からと殺まで毎日、乳汁及び排泄物が採取された。また、最終投与から約18時間後の朝に一回投与し、その23.5～23.7時間後にと殺して、組織・臓器が採取された。

投与放射能の大部分が糞中（62.1～72.2%TAR）及び尿中（18.0～23.5%TAR）に排泄された。乳汁中放射能濃度は0.004～0.01 mg/kgであった。組織、臓器中放射能濃度は、肝臓（0.58～1.22 mg/kg）及び腎臓（0.18～0.25 mg/kg）で高く、脂肪、筋肉では低かった。

肝臓中で同定された主要代謝物はAI（0.35mg/kg、29.4%TRR）、腎臓中ではAG（0.02～0.03 mg/kg、8.2～15.5%TRR）であった。（参照79）

2. 植物体内運命試験

(1) 稲

温室内の模擬水田に移植した稲（品種名：石狩）の苗（3葉期）に[pyr-¹⁴C]アゾキシストロビン、[phe-¹⁴C]アゾキシストロビン又は[cya-¹⁴C]アゾキシストロビンを散布し、植物体内運命試験が実施された。水面散布試験では、移植11～13日後に841～971 g ai/ha相当量で1回、さらにその36日後の出穂直前に892～946 g ai/ha相当量で1回の計2回散布し、2回目処理の95～98日後にすべての穂が採取された。穂を採取した後の株は土壌面から約2 cm上で刈り取って、稲わら試料とされた。茎葉散布試験では、苗移植69日後に355～553 g ai/ha相当量を1回散布し、

処理 75~95 日後にすべての穂が採取された。

稲試料における放射能分布及び主要成分は表 6 に示されている。

植物体への吸収移行量は、水面散布では 5.2~7.0%TAR、茎葉散布では 19.0~28.9%TAR であった。玄米への移行量は僅かで、水面散布で 0.1%TAR、茎葉散布で 0.2~0.3%TAR であった。

玄米中の総残留放射能には、3 種類の標識体の中で差は認められなかった。処理方法にかかわらず、玄米中の残留放射能の主要成分は、糖（麦芽糖、ブドウ糖及び果糖）及び親化合物であった。水面散布した場合の玄米中で糖が特に多くみられたが、これは土壤中で分解されたアゾキシストロビン由来の CO₂ が植物体内に取り込まれたためと考えられた。（参照 10）

表 6 稲試料における放射能分布及び主要成分

処理方法	試料	総残留放射能 (mg/kg)	主要成分 (%TRR)
水面散布	玄米	0.527~0.743	糖(43.2~57.9)、親化合物(3.4~5.3)
	稲わら	8.16~10.5	親化合物(3.3~5.6)、B(3.6~6.7)、J+K(5.1~8.1)
茎葉散布	玄米	0.321~0.401	親化合物(36.3~71.5)、糖(4.9~16.5)
	稲わら	5.71~7.81	親化合物(37.6~45.9)、M*(5.2~8.5)

* : [phe-¹⁴C]アゾキシストロビン処理では不検出

(2) 小麦

小麦（品種名：mercia 及び apollo）の節間伸長期（収穫約 130 日前）及び出穂期（収穫約 60 日前）に [pyr-¹⁴C]アゾキシストロビン、[phe-¹⁴C]アゾキシストロビン又は [cya-¹⁴C]アゾキシストロビンを 500 g ai/ha の用量で 2 回散布し、2 回目散布の 13 日後に青刈小麦を、残りは散布 61~62 日後に子実及び麦わらとして採取し、植物体内運命試験が実施された。

小麦試料における放射能分布及び主要成分は表 7 に示されている。

植物体の総残留放射能は、種実、麦わら及び青刈小麦を合わせて 5.1~11.5%TAR であった。種実への吸収移行量は 0.08~0.10%TAR とわずかであった。

種実、麦わら及び青刈小麦における代謝パターンは類似しており、主要成分は親化合物であった。種実では他にブドウ糖が認められた。これはアゾキシストロビンが無機化されて生じた ¹⁴CO₂ がブドウ糖に取り込まれたものと考えられた。

主要代謝反応は、①フェニルアクリレート環及びピリミジン環の間の開裂による代謝物 M の生成、さらにエーテル結合の開裂による代謝物 F の生成、②光化学反応による代謝物 U の生成、③光化学反応によるアゾキシストロビンの Z 異性体（代謝物 D）の生成、④アクリル結合の酸化的開裂により代謝物 L 及び G の生成、それに引き続く酸化による N の生成、⑤エステル結合の加水分解又は酸化的 O 脱メチル化による代謝物 B の生成、アクリル結合の水酸化による代謝物 T の生成、エーテル結合の加水分解による代謝物 O の生成、⑥代謝物 B のアクリル結合の還元によ

る代謝物 S の生成、⑦無機化による CO₂ の取り込みによる糖への同化及び転化と考えられた。(参照 11)

表 7 小麦試料における放射能分布及び主要成分

試料	総残留放射能 (mg/kg)	主要成分 (%TRR)
種実	0.075~0.077	親化合物(17.1~22.0)、ブドウ糖(9.7~20.9)
麦わら	3.06~9.41	親化合物(22.1~43.4)、M(7.4~7.6)、M の糖抱合体(0.8~2.8)、D(2.1~3.5)、B(3.0~3.4)
青刈小麦	1.02~2.79	親化合物(54.9~64.7)、D(1.9~2.9)、M の糖抱合体(2.1)、M(1.1)

(3) ぶどう

ぶどう (品種名: Merlot) の樹に [pyr-¹⁴C]アゾキシストロビン、[phe-¹⁴C]アゾキシストロビン又は [cya-¹⁴C]アゾキシストロビンを収穫 99、70、41 及び 21 日目の計 4 回散布し (1 及び 4 回目: 250 g ai/ha、2 及び 3 回目: 1,000 g ai/ha、総有効成分投下量: 2,500 g ai/ha)、最終散布 21 日後に成熟果実を採取して植物体内運命試験が実施された。また、[pyr-¹⁴C]アゾキシストロビン処理区では、2 及び 3 回目の散布前及び果実採取時に葉も採取された。

果実中の総残留放射能は 0.382~1.43 mg/kg であった。

果実中残留放射能の主要成分は親化合物 [34.6~64.6%TRR (0.132~0.924 mg/kg)] であり、他に少なくとも 15 種類の代謝物が存在したが、主要代謝物は D [1.9~4.0%TRR (0.009~0.038 mg/kg)]、F [5.7%TRR (0.022 mg/kg)]、L [2.5~3.9%TRR (0.015~0.036 mg/kg)] 及び M [2.6~5.2%TRR (0.020~0.037 mg/kg)] であった。その他に、水溶性画分の放射能の大部分 (3.8~5.5%TRR) は糖 (ブドウ糖、果糖及びショ糖) として存在し、これは分解されたアゾキシストロビン由来の CO₂ が糖に取り込まれたと考えられた。葉部試料からは代謝物 D、M、N、O 及び S が検出された。(参照 12)

(4) らっかせい

らっかせい (品種名: Florunner) に [pyr-¹⁴C]アゾキシストロビン、[phe-¹⁴C]アゾキシストロビン又は [cya-¹⁴C]アゾキシストロビンを植付け 53、95 及び 144 日後の計 3 回散布した (1 及び 2 回目: 850 g ai/ha、3 回目: 300 g ai/ha、総有効成分投下量: 2,000 g ai/ha)。最終散布 10 日後に土壌面より少し上部で茎葉部を刈り取り、さやを採取して植物体内運命試験が実施された。

らっかせい試料における放射能分布及び主要成分は表 8 に示されている。

植物体に 22.6~23.3%TAR が吸収され、可食部である子実への移行量は 0.10~0.27%TAR とわずかであった。

子実中残留放射能の主要成分は、脂肪酸 (オレイン酸及びリノレン酸) 及び糖 (シ

ヨ糖等)であり、これらは分解されたアゾキシストロビン由来のCO₂が脂肪酸又は糖に取り込まれたと考えられた。

茎葉部(乾燥)及び穀中の主要成分は親化合物であり、主要代謝物としてM及びその抱合体であるRが認められた。茎葉部(生)中の総残留放射能は16.4~19.6 mg/kgであり、その組成は茎葉部(乾燥)と類似していた。(参照13)

表8 らっかせい試料における放射能分布及び主要成分

採取試料	総残留放射能 (mg/kg)	主要成分(%TRR)
子実	0.241~0.650	脂肪酸(27.5~32.3)、リノレン酸(11.2~16.3)、糖(1~6)
茎葉部(乾燥)	39.2~46.6	親化合物(33.0~43.8)、M+R(7.0~9.0)
穀	0.68~0.87	親化合物(12.9~13.5)、M+R(4.5~5.5)

3. 土壌中運命試験

(1) 好氣的湛水土壌中運命試験

2種類の底質土壌[シルト質壤土及び砂壤土(英国)]に土壌採取と同時に採取した河川水を加えた河川水-底質土壌系(全量200 mLのうち10%が土壌)の水面に[pyr-¹⁴C]アゾキシストロビン、[phe-¹⁴C]アゾキシストロビン又は[cya-¹⁴C]アゾキシストロビンを84~91 µg/L(水深30 cmの水田に252~273 g ai/haを散布した場合に相当)の濃度で添加し、CO₂を含まない空気を通気させ、20±2°Cの暗条件下で最長152日間インキュベートして、好氣的湛水土壌中運命試験が実施された。

河川水-底質土壌系でのアゾキシストロビンの推定半減期は約150日であった。処理直後において92.6~95.4% TARが親化合物であったが、処理120日後には49.3~69.8% TARまで減少した。滅菌した試験系では、処理120日後においても84.8~92.7% TARが親化合物であったことから、親化合物の分解に対する微生物の影響が示唆された。

主要分解物としてBが処理152日後に最大20.3% TAR生成した。その他、少量の分解物Cが最大2.7%生成した。¹⁴CO₂の累積発生量は試験終了時で1.5~6.2% TARであった。(参照14)

(2) 好氣的及び嫌氣的湛水土壌中運命試験

砂壤土(英国及び米国)及び砂質壇壤土(英国)に[pyr-¹⁴C]アゾキシストロビン、[phe-¹⁴C]アゾキシストロビン又は[cya-¹⁴C]アゾキシストロビンを1ポットあたり17 µg(0.56 µg/g土壌、0.56 g/ha)の濃度で混合し、20°Cの暗所で、好氣的条件下(CO₂を含まない空気を通気)又は嫌氣的湛水条件下(蒸留水を2 cmの深さに灌水し、加湿した窒素ガスを流入)で最長120日間インキュベートして、好氣的及び嫌氣的湛水土壌中運命試験が実施された。

アゾキシストロビンの推定半減期は、好氣的土壌で54~164日であり、分解速度

が遅い原因はバイオマス量(バイオマス量が他の土壌の 1/6)によると推定された²。嫌氣的湛水土壌における推定半減期は、表面水中で約 2 日、表面水を含む土壌中で 50~56 日(英国土壌)であった。

好氣的土壌における主要分解物は B で、62 日後に 7~21% TAR に達し、120 日後に 9~16% TAR に減少した。最も分解の遅かった米国土壌においてのみ、分解物 B が 120 日後に 12% TAR に増加した。この他に分解物 C、M 及び P が 3.2% TAR 以下検出された。120 日間の ¹⁴CO₂ の累積発生率は 15.1~27% TAR に達した。

嫌氣的湛水土壌では、120 日の試験期間中、分解物 B は徐々に増加して 14~69% TAR に達した。その他に分解物 M が約 4% TAR 検出された。¹⁴CO₂ の発生はほとんどみられなかった(120 日間で 0~4.7% TAR)。(参照 15)

(3) 好氣的土壌中運命試験

好氣的及び嫌氣的湛水土壌中運命試験[3. (2)]で使用された土壌[砂壤土(米国)]の圃場において、[pyr-¹⁴C]アゾキシストロビン、[phe-¹⁴C]アゾキシストロビン又は[cya-¹⁴C]アゾキシストロビンをそれぞれ区画あたり 589、575 又は 536 g ai/ha となるように処理し、裸地における好氣的土壌中運命試験が実施された。土壌試料は 46 cm の深度まで採取し、深度ごとに分別された。

放射能のほとんどが 0~5 cm の深さで採取した土壌から回収された。アゾキシストロビンの推定半減期は約 14 日で、4 か月後には 12% TAR 以下に減少した。主要分解物として M が 28 日後に最大 8% TAR に達し、4 か月後には 4% TAR 以下に減少した。その他、分解物 N が 28 日後に最大 6% TAR に達し、4 か月後に 2% TAR 以下に減少した。なお、容器内試験でみられた分解物 B はほとんど生成しなかった。

(参照 16)

(4) 土壌表面における光分解

砂壤土(英国)に[pyr-¹⁴C]アゾキシストロビン、[phe-¹⁴C]アゾキシストロビン又は[cya-¹⁴C]アゾキシストロビンを 463~498 g ai/ha となるように処理し、23.8~28℃で、フィルター使用のキセノンランプ(光強度: 38.2 W/m²、波長範囲: 300~400 nm)を 19 日間照射して、土壌表面における光分解試験が実施された。

推定半減期は 6.6 日であり、東京春季の太陽光換算値は 32.4 日であった。光分解物は 9 種類(分解物 C、D、F、G、L、M、N、U 及び ¹⁴CO₂)認められたが、¹⁴CO₂を除いて 10% TAR を超えるものはなかった。いずれの標識体においても主要分解物は ¹⁴CO₂で、最大 28.6% TAR を占めた。(参照 17)

² 分解速度が最も遅かった米国土壌の圃場条件下の試験[3. (3)]では推定半減期は約 14 日との報告があり、その原因は光分解と推定された。

(5) 土壤吸着試験 (日本土壤)

[cya-¹⁴C]アゾキシストロビンについて、4種類の日本土壤 [シルト質埴壤土 (宮城)、砂壤土 (岡山)、シルト質壤土 (茨城) 及び砂土 (宮崎)] を用いて土壤吸着試験が実施された。

Freudlich の吸着係数 K_{ads} は 4.3~150、有機炭素含有率により補正した吸着係数 K_{oc} は 270~4,500 であった。

アゾキシストロビンの吸着は、供試した 4 土壤において中等度から強度であり、土壤中での移動性が低いことが示された。また、有機炭素含有率により補正した脱着係数が 24~96%の増加を示し、アゾキシストロビンの吸着は完全には可逆的でないことが示された。(参照 18)

(6) 土壤吸着試験 (英国土壤)

[cya-¹⁴C]アゾキシストロビンについて、6種類の英国土壤 [砂質埴壤土、壤質砂土 (2 種類)、砂土、シルト質埴壤土及び埴壤土] を用いて土壤吸着試験が実施された。

Freudlich の吸着係数 K_{ads} は 1.5~15、有機炭素含有率により補正した吸着係数 K_{oc} は 210~580 であった。

アゾキシストロビンの吸着は、供試した 6 土壤において中等度から強度であり、土壤中での移動性が低いことが示唆された。また、有機炭素含有率により補正した脱着係数が 0~47%の増加を示し、アゾキシストロビンの吸着は完全には可逆的でないことが示された。(参照 19)

(7) 土壤カラムリーチング試験

3種類の独国土壤 (砂土、埴質砂土及び砂壤土) を用いて土壤カラムリーチング試験が実施された。

内径 5 cm×高さ 35 cm の土壤カラムに 750 g ai/ha の割合でアゾキシストロビン処理後、22±2°Cの条件下、雨量換算 200 mm/日で 48 時間溶出した。

いずれの土壤カラム溶出液からもアゾキシストロビンは検出されなかった。このことから、アゾキシストロビンの土壤中での移動性は低いと考えられた。(参照 20)

4. 水中運命試験

(1) 加水分解試験

pH 5 (酢酸緩衝液)、pH 7 (酢酸緩衝液) 及び pH 9 (ホウ酸緩衝液) の各滅菌緩衝液に [cya-¹⁴C]アゾキシストロビンを約 2.5 mg/L となるように加えた後、25°C で 31 日間又は 50°C で 12 日間インキュベートして、加水分解試験が実施された。

pH 5 及び 7 の緩衝液中では、25 及び 50°C で加水分解は認められなかった。pH 9 の緩衝液中では、25°C でごくわずかな加水分解が認められ、50°C で有意な分解がみられた。主要分解物として B (pH 9、50°C の 12 日後に最大 12.0% TAR) 及び H (pH

9、50°Cの12日後に最大7.6% TAR) が同定され、推定半減期は290時間であった。

(参照 21)

(2) 水中光分解試験 (滅菌緩衝液)

pH 7 の滅菌緩衝液 (3,3-ジメチルグルタル酸緩衝液) に [pyr-¹⁴C] アゾキシストロピン、[phe-¹⁴C] アゾキシストロピン又は [cya-¹⁴C] アゾキシストロピンをそれぞれ 3.27、3.04 又は 3.29 mg/L となるように加えた後、25±1°C で 21 日間、光学フィルター使用のキセノンランプ (光強度: 29~33 W/m²、波長範囲: 300~400 nm) を照射し、水中光分解試験が実施された。

アゾキシストロピンの推定半減期は 8.4~12.5 日で、東京春期太陽光換算で 32.2~49.7 日であった。主要分解物はアゾキシストロピンの Z 異性体である分解物 D で、1~4 日後に最大 12.9~15.7% TAR となり、21 日後には 2.7~6.6% TAR に減少した。その他に分解物 M が 4.9~8.6% TAR、I が 1.7~5.4% TAR、分解物 N、L 及び F がそれぞれ 2.2% TAR 以下検出された。暗所対照区における分解はほとんど認められなかった。

光分解反応は試験条件下で 2 相性が認められ、初期分解で急速な光異性化が起こり、Z 異性体が生じ平衡に達した後、一次反応に従って分解が続けたと考えられた。

(参照 22)

(3) 水中光分解試験 (自然水及び蒸留水)

自然水 [河川水 (英国)] 及び蒸留水に、アゾキシストロピンを 0.5 mg/L となるように加えた後、自然水は 24±0.9°C、蒸留水は 27.5±2.5°C で 25 日間、フィルター使用のキセノンランプ (光強度: 24~25 W/m²、波長範囲: 300~400 nm) を照射して、水中光分解試験が実施された。

アゾキシストロピンの光分解は 2 相性であった。初期に急速な光異性化が起こり、アゾキシストロピンの Z 異性体である分解物 D が生じ、その後やや緩慢に光分解が続いた。分解物 D は 24 時間後に自然水で最大 17.8% TAR、蒸留水で最大 18.2% TAR 存在し、分解物 M は試験期間中を通して 2% TAR 未満であった。自然水及び蒸留水における推定半減期はそれぞれ 2.5 及び 11.0 日、東京春期太陽光換算で 8.3 及び 35.3 日であり、自然水中での半減期は蒸留水中の半減期に比べ短かった。暗所対照区における分解はほとんど認められなかった。(参照 23)

5. 土壌残留試験

火山灰土・埴壤土 (岩手) 及び沖積土・埴壤土 (高知) を用いて、アゾキシストロピン、分解物 B、M 及び N を分析対象化合物とした土壌残留試験 (容器内及び圃場) が実施された。結果は表 9 に示されている。(参照 24)

表9 土壤残留試験成績

試験		濃度 ¹⁾ (回数)	土壌	推定半減期 (日)	
				アゾキシ ストロビン	アゾキシストロビン 及び分解物 ²⁾ の含量
容器内試験	畑水分 状態	0.6 mg/kg	火山灰土・埴壤土	180	240
			沖積土・埴壤土	67	80
	湛水 状態		火山灰土・埴壤土	68	115
			沖積土・埴壤土	110	170
圃場試験	畑地 状態	200 g ai/ha ^F (1回)	火山灰土・埴壤土	93	105
		600 g ai/ha ^F (4回)	沖積土・埴壤土	31	38
	水田 状態	0.025 g ai/箱 ^F (1回)	火山灰土・埴壤土	4	10
		600 g ai/ha ^G (1回) 600 g ai/ha ^G (2回)	沖積土・埴壤土	≤1	≤1

1) 容器内試験では純品、圃場試験ではフロアブル剤 (F) 及び粒剤 (G) を使用

2) 分解物 B、M 及び N

6. 作物等残留試験

(1) 作物残留試験

水稻、果実、野菜、茶等を用いて、アゾキシストロビン並びに代謝物 B、D、F、L 及び M を分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。結果は別紙 3 及び 4 に示されている。

農薬としてのアゾキシストロビンの最大残留値は、最終散布 7 日後に収穫したみずな (茎葉) の 24.8 mg/kg であった。各代謝物の最大残留値は、D が最終散布 7 日後の葉ねぎ (茎葉) の 0.12 mg/kg、F が最終散布 21 日後の小麦 (種子) の 0.07 mg/kg、L が最終散布 2,128 日後の玄米、7 日後の葉ねぎ、14 及び 28 日後のりんご並びに 4 日後のぶどうの 0.01 mg/kg、M が最終散布 7 日後の葉ねぎの 0.11 mg/kg であった。代謝物 B がピーマン、きゅうり等で測定されたが、いずれも定量限界未満 (<0.01 mg/kg) であった。

添加物としてのアゾキシストロビンの最大残留値は、処理当日でのレモンの 9.18 mg/kg であった。(参照 25、26、77、78、79)

(2) 魚介類における最大推定残留値

アゾキシストロビンの公共用水域における予測濃度である水産 PEC 及び BCF を基に、魚介類の最大推定残留値が算出された。

アゾキシストロビンの水産 PEC は 0.47 µg/L、BCF は 30 (計算値)、魚介類における最大推定残留値は 0.071 mg/kg であった。(参照 65)

(3) 乳汁移行試験

フリージアン種の泌乳牛（一群3頭）にアゾキシストロピンを0、5、25、75及び250 ppm含有する濃厚飼料（0、100、500、1,500及び5,000 mg/頭/日に相当）を27～30日間摂取させ、乳汁移行試験が実施された。

採取した乳汁試料中の検体濃度はいずれも0.01 mg/kg未満であった。乳汁をクリームとスキムミルクに分けると、残留は主にクリーム中にみられた（最大値は250 ppm投与群の0.04 mg/kg）。250 ppm投与群の脂肪組織に0.01～0.03 mg/kg、肝臓及び腎臓に0.01～0.07 mg/kgの残留がみられた。75 ppm投与群の肝臓及び腎臓に0.01～0.05 mg/kgの残留がみられた。25 ppm投与群の肝臓に0.01 mg/kgの残留がみられた。25及び5 ppm投与群にはそれ以外の残留はみられなかった。いずれの投与群においても筋肉試料中に検体の残留はみられなかった。（参照25）

(4) 推定摂取量

作物残留試験の分析値（別紙3及び4）並びに魚介類における最大推定残留値[6.(2)]を用いて、アゾキシストロピン（親化合物のみ）を暴露評価対象化合物とした際に食品中より摂取される推定摂取量が表10に示されている（別紙5参照）。

なお、本推定摂取量の算定は、登録に基づく使用方法からアゾキシストロピンが最大の残留を示す使用条件で国内に登録のあるすべての適用作物に使用され、かつ、魚介類への残留が上記の最大推定残留値を示し、加工・調理による残留農薬の増減が全くないとの仮定の下に行った。

表10 食品中より摂取されるアゾキシストロピンの推定摂取量

	国民平均 (体重: 53.3kg)	小児 (1～6歳) (体重: 15.8kg)	妊婦 (体重: 55.6kg)	高齢者(65歳以上) (体重: 54.2kg)
摂取量 (µg/人/日)	307	162	242	303

7. 一般薬理試験

マウス、モルモット、イヌ及びラットを用いた一般薬理試験が実施された。各試験の結果は表11に示されている。（参照9、28）

表 11 一般薬理試験概要

試験の種類		動物種	動物数 /群	投与量 (mg/kg 体重) (投与経路)	最大無作用量 (mg/kg 体重)	最小作用量 (mg/kg 体重)	結果の概要
中枢神経系	一般状態	ICR マウス	雄 9	500、1,500、 5,000 (経口)	500	1,500	反応性の軽度 の低下
	ヘキソバルビ タール睡眠		雄 10	500、1,500、 5,000 (経口)	5,000	—	影響なし
	ペンテトラゾ ール痙攣						
	電撃痙攣						
	運動 強調性 筋弛緩						
自律神経系	Hartley モルモット 回腸条片	雄 5	1×10^{-6} ～ 1×10^{-4} g/mL	1×10^{-6} g/mL	1×10^{-5} g/mL	直接作用なし ACh 及び His による収縮に 対して、 $1 \times$ 10^{-5} g/mL 以上 で抑制作用	
循環器系	呼吸 血圧 心拍数 心電図 血液量	ビーグル犬	雌 4	30、100、 300(*) (腹腔内)	30	100	100 mg/kg 体重 で心拍数増加 傾向、 300 mg/kg 体重 で心拍数増加 及び呼吸数増 加傾向
消化器系	胃腸管内 輸送	ICR マウス	雄 10	0、800、 2,000、5,000 (経口)	5,000	—	影響なし
骨格筋	握力	Wistar ラット	雄 9	300、1,000、 3,000(*) (腹腔内)	3,000	—	影響なし
血液	溶血 凝固		雄 9	500、1,500、 5,000 (経口)	5,000		

*: 30 分間隔で反復投与

8. 急性毒性試験

(1) 急性毒性試験

アゾキシストロピン (原体) のラットを用いた急性経口毒性試験、急性経皮毒性試験、急性吸入毒性試験、マウスを用いた急性経口毒性試験、代謝物 B のラットを用いた急性経口毒性試験及び代謝物 D のマウスを用いた急性経口毒性試験が実施された。各試験の結果は表 12 に示されている。(参照 29～33、58)

表 12 急性毒性試験概要 (原体、代謝物 B 及び D)

被験物質	投与経路	動物種	LD ₅₀ (mg/kg 体重)		観察された症状
			雄	雌	
アゾキシストロビン (原体)	経口	Wistar ラット 雌雄各 5 匹	>5,000	>5,000	下痢、鼻部及び口周囲の汚れ、尿失禁、立毛等
		ICR マウス 雌雄各 5 匹	>5,000	>5,000	立毛、尿失禁等
	経皮	Wistar ラット 雌雄各 5 匹	>2,000	>2,000	鼻部及び口周囲の汚れ、尿失禁、投与部位に剥離・痂皮・紅斑・浮腫
	吸入	Alpk:ApfSD ラット 雌雄各 5 匹	LC ₅₀ (mg/L)		円背位、立毛、振戦、活動低下、鼻部周囲の汚れ、異常呼吸音、肺の蒼白化、死亡等
0.962			0.698		
代謝物 B	経口	Wistar ラット 雌 3 匹	/		立毛、うずくまり姿勢、鎮静、死亡例なし
代謝物 D	経口	ICR マウス 雌雄各 5 匹	>5,000	>5,000	下痢、立毛、尿失禁等

(2) 急性神経毒性試験

Alpk:ApfSD ラット (一群雌雄各 10 匹) を用いたアゾキシストロビン (原体: 0、200、600 及び 2,000 mg/kg 体重) の経口投与による急性神経毒性試験が実施された。

2,000 mg/kg 体重投与群の雄で体重増加抑制がみられた。全投与群で爪先歩行/円背位、下痢 (症状) の発現が対照群に比べて多くみられ、600 及び 2,000 mg/kg 体重投与群の雌で着地開脚幅の増加がみられたが、用量相関性は認められなかったため、投与による影響とは考えられなかった。また、2,000 mg/kg 体重投与群の雄で投与 15 日後に後肢握力の低下がみられたが、孤立した変化であったため、投与による影響とは考えられなかった。自発運動量にいくつかの投与群で有意差がみられたが、いずれも一過性にみられた変化で、用量相関性が認められなかったため、投与による影響ではないと考えられた。

神経行動学的検査及び神経系の病理組織学的検査で毒性所見は認められなかった。

本試験において、2,000 mg/kg 体重投与群の雄で体重増加抑制が認められたので、一般毒性に対する無毒性量は 600 mg/kg 体重と考えられた。神経毒性は認められなかった。(参照 34)

9. 眼・皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験

NZW ウサギを用いた眼刺激性試験及び皮膚刺激性試験が実施され、アゾキシストロビン原体には、眼及び皮膚に軽微な刺激性が認められた。

(Hartley モルモットを用いた皮膚感作性試験 (Maximization 法) が実施され、皮膚感作性は陰性であった。(参照 35~37)

10. 亜急性毒性試験

(1) 90日間亜急性毒性試験（ラット）

Alpk:ApfSD ラット（一群雌雄各 12 匹）を用いた混餌（原体：0、200、2,000 及び 4,000³ ppm：平均検体摂取量は表 13 参照）投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

表 13 90 日間亜急性毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		200 ppm	2,000 ppm	4,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	20.4	211	444
	雌	22.4	223	449

各投与群で認められた毒性所見は表 14 に示されている。

4,000 ppm 群の雄では、一般毒性を示す所見並びに 2 例に肝内胆管/細胆管及び卵円形細胞の増生がみられ、肉眼的に肝外胆管拡張が認められた 1 例では肝外胆管の胆管炎、肝細胞の過形成、肝リンパ節の反応性変化及び脾の炎症性細胞浸潤が認められた。

本試験において、2,000 ppm 以上投与群の雌雄で体重増加抑制等が認められたので、無毒性量は雌雄で 200 ppm（雄：20.4 mg/kg 体重/日、雌：22.4 mg/kg 体重/日）であると考えられた。（参照 38）

表 14 90 日間亜急性毒性試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
4,000 ppm	<ul style="list-style-type: none"> WBC 及び GGT 増加 肝比重量⁴増加 肝内胆管/細胆管及び卵円形細胞増生 (2 例) 胆管炎、肝細胞過形成、肝リンパ節反応性変化及び脾炎症性細胞浸潤 (1 例) 	<ul style="list-style-type: none"> WBC 及び GGT 増加 Ht 低下傾向、MCV、MCH 低下 肝比重量増加
2,000 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> 体重増加抑制、摂餌量減少、食餌効率低下 TG 及び T.Chol 減少 	<ul style="list-style-type: none"> 体重増加抑制、摂餌量減少、食餌効率低下 TG 及び Glu 減少
200 ppm	毒性所見なし	毒性所見なし

(2) 90日間亜急性毒性試験（イヌ）

ビーグル犬（一群雌雄各 4 匹）を用いたカプセル経口（原体：0、10、50 及び 250 mg/kg 体重/日）投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された。

³ 最高用量群には当初 6,000 ppm を投与したが、投与開始後 2 週間の段階で摂餌量及び体重増加量が減少し、動物の発育に支障が生じたため、第 3 週から投与量が 4,000 ppm に変更された。

⁴ 体重比重量のことを比重量という（以下同じ）。

各投与群で認められた毒性所見は表 15 に示されている。

250 及び 50 mg/kg 体重/日投与群の雌でみられた肺の細気管支周囲肺炎/間質性肺炎の発現頻度及び重篤度並びに肉芽腫の発現頻度は、対照群及び 10 mg/kg 体重/日投与群の雌に比して高かった。しかしながら、これらの変化はコロニーのビーグル犬にみられる自然発生的な変化であり、投与の影響とは考えられなかった。

本試験において、50 mg/kg 体重/日以上投与群の雄で流涎、吐出し及び嘔吐が、雌で体重増加抑制が認められたので、無毒性量は雌雄で 10 mg/kg 体重/日であると考えられた。(参照 9、39)

表 15 90 日間亜急性毒性試験 (イヌ) で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
250 mg/kg 体重/日	<ul style="list-style-type: none"> ・液状便の増加 ・体重増加抑制、摂餌量減少 ・PLT 増加 ・MCV、MCH 及び MCHC 低下 ・Alb 低下 ・ALP 増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・流涎、吐出し及び嘔吐 ・液状便の増加 ・摂餌量減少 ・PLT 増加 ・Alb 低下 ・TG 及び ALP 増加
50 mg/kg 体重/日以上	<ul style="list-style-type: none"> ・流涎、吐出し及び嘔吐 	<ul style="list-style-type: none"> ・体重増加抑制
10 mg/kg 体重/日	毒性所見なし	毒性所見なし

(3) 90 日間亜急性神経毒性試験 (ラット)

Alpk:ApfSD ラット (一群雌雄各 12 匹) を用いた混餌 (原体 : 0、100、500 及び 2,000 ppm : 平均検体摂取量は表 16 参照) 投与による 90 日間亜急性神経毒性試験が実施された。

表 16 90 日間亜急性神経毒性試験 (ラット) の平均検体摂取量

投与群		100 ppm	500 ppm	2,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	8.0	38.5	161
	雌	9.1	47.9	202

2,000 ppm 投与群の雌雄で体重増加抑制が、雄で食餌効率の低下が認められた。

機能総合観察において、全投与群の雄の 5 週目及び 2,000 ppm 投与群の雄の 9 週目で着地開脚幅の低下、全投与群の雄の 5 週目で前肢及び後肢の握力低下がみられ、2,000 ppm 投与群の雌の 14 週目で前肢の握力低下が観察されたが、いずれも一過性の変化であり、これらの変化はすべて背景データ内であったため、投与に関連した影響でないと考えられた。また、2,000 ppm 投与群の雌の 9 週目で自発運動量の低下が認められたが、一過性のわずかな変化であり、病理組織学的変化が認められなかったため、投与に関連した影響ではないと考えられた。

500 ppm 投与群の雄では脳の幅及び脳比重量増加が認められたが、脳の他の測定項目に影響がみられなかったこと及び用量相関性がないことから投与の影響とは考

えられなかった。最高用量である2,000 ppm 投与群でも神経毒性を示す所見はみられなかった。

本試験において、2,000 ppm 投与群の雌雄で体重増加抑制等が認められたので、一般毒性に対する無毒性量は雌雄で500 ppm (雄：38.5 mg/kg 体重/日、雌：47.9 mg/kg 体重/日) であると考えられた。神経毒性は認められなかった。(参照9、40)

1 1. 慢性毒性試験及び発がん性試験

(1) 1年間慢性毒性試験 (イヌ)

ビーグル犬 (一群雌雄各4匹) を用いたカプセル経口 (原体：0、3、25 及び200 mg/kg 体重/日) 投与による1年間慢性毒性試験が実施された。

200 mg/kg 体重/日投与群では、雌雄で液状便の発現頻度増加 (雌雄とも全例)、T.Chol 及び TG 増加、ALP 活性上昇並びに肝比重量増加、雄で血中カリウム及びリンの増加、MCH 減少並びに嘔吐又は吐出しの発生頻度増加、雌で流涎の発生頻度増加がみられた。

25 mg/kg 体重/日投与群の雌では肝比重量増加がみられた。しかしながら、血液生化学的変化や病理組織学的所見に投与の影響がみられていないことから、毒性学的意義はないものと考えられた。

本試験において、200 mg/kg 体重/日投与群の雌雄で T.Chol 及び TG の増加等が認められたので、無毒性量は25 mg/kg 体重/日であると考えられた。(参照9、41)

(2) 2年間慢性毒性/発がん性併合試験 (ラット)

Alpk:ApfSD ラット (一群雌雄各64匹) を用いた混餌 (原体：0、60、300 及び雄750⁵⁾/雌1,500 ppm：平均検体摂取量は表17参照) 投与による2年間慢性毒性/発がん性併合試験が実施された。

表17 2年間慢性毒性/発がん性併合試験 (ラット) の平均検体摂取量

投与群		60 ppm	300 ppm	750 ppm	1,500 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	3.6	18.2	82.4	
	雌	4.5	22.3		117

最高用量群 (雌：1,500 ppm、雄：750 ppm) の雌雄で、体重増加抑制、摂餌量の減少及び食餌効率の低下が、雌では TG 及び T.Chol の低下がみられた。

1,500 ppm 投与群の雄の途中死亡動物 (13 匹) では、投与に関連した変化として、肉眼的に総胆管の拡張、腹水、十二指腸膨満が、組織学的には総胆管の拡張、胆管炎、胆管壁肥厚、胆管上皮過形成がみられ、この変化に伴い肝臓で胆管上皮過形成及び胆管炎の発現頻度増加がみられた。本被験物質の主要な標的臓器は胆管である。

⁵ 最高用量群の雄には当初1,500 ppm (109 mg/kg 体重/日) を投与したが、投与開始後39週の段階で死亡例が増加したため、53週より投与量が750 ppmに変更された。

と考えられ、雄のみに認められ、雌では胆管への影響はみられなかった。

本試験において、最高用量群の雌雄で体重増加抑制等が認められたので、無毒性量は雌雄で 300 ppm (雄: 18.2 mg/kg 体重/日、雌: 22.3 mg/kg 体重/日) であると考えられた。発がん性は認められなかった。(参照 9、42)

(3) 2 年間発がん性試験 (マウス)

C57BL/10 マウス (一群雌雄各 55 匹) を用いた混餌 (原体: 0、50、300 及び 2,000 ppm: 平均検体摂取量は表 18 参照) 投与による 2 年間発がん性試験が実施された。

表 18 2 年間発がん性試験 (マウス) の平均検体摂取量

投与群		50 ppm	300 ppm	2,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	6.2	37.5	272
	雌	8.5	51.3	363

2,000 ppm 投与群の雌雄では、体重増加抑制、食餌効率低下及び肝比重量増加がみられた。300 ppm 投与群の雄で体重増加抑制がみられたが、変動幅は大きくなく、増悪傾向がみられないため、毒性学的に有意であるとは考えられなかった。いずれの投与群においても、病理組織学的所見に検体投与の影響はみられなかった。

本試験において、2,000 ppm 投与群の雌雄で体重増加抑制等が認められたので、無毒性量は雌雄で 300 ppm (雄: 37.5 mg/kg 体重/日、雌: 51.3 mg/kg 体重/日) であると考えられた。発がん性は認められなかった。(参照 43)

1 2. 生殖発生毒性試験

(1) 2 世代繁殖試験 (ラット)

Alpk:ApfSD ラット (一群雌雄各 26 匹) を用いた混餌 (原体: 0、60、300 及び 1,500 ppm: 平均検体摂取量は表 19 参照) 投与による 2 世代繁殖試験が実施された。

表 19 2 世代繁殖試験 (ラット) の平均検体摂取量

投与群			60 ppm	300 ppm	1,500 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	P 世代	雄	6.5	33.0	162
		雌	6.9	34.4	171
	F ₁ 世代	雄	6.3	31.7	168
		雌	6.7	33.2	179

親動物では、1,500 ppm 投与群の P 及び F₁ 雄の各 1 例で死亡がみられ、途中死亡動物及び最終と殺動物の P 雄 2 例及び F₁ 雄 10 例で総胆管の拡張がみられた。P 及び F₁ 雌雄で体重増加抑制、摂餌量減少及び肝比重量増加がみられた。P 及び F₁ 雌では妊娠期間中に体重増加抑制及び摂餌量減少がみられ、P 雌で哺育期間中に体

重増加抑制、P雌雄及びF₁雌及びF₁雄で1~10週目に食餌効率の低下がみられた。病理組織学的所見として、1,500 ppm投与群のP及びF₁雄で総胆管の拡張、上皮過形成、胆管炎、胆管管腔内に好塩基性沈着物及び潰瘍形成等の変化がみられた。また、総胆管の拡張がみられた多くの動物で肝臓の増殖性胆管炎がみられた。

児動物では、1,500 ppm投与群のF₁及びF₂児体重の低値がみられた。

本試験において、親動物では1,500 ppm投与群の雌雄で体重増加抑制等が、児動物では1,500 ppm投与群の雌雄で体重低値が認められたので、無毒性量は親動物及び児動物で300 ppm (P雄: 33.0 mg/kg体重/日、P雌: 34.4 mg/kg体重/日、F₁雄: 31.7 mg/kg体重/日、F₁雌: 33.2 mg/kg体重/日) であると考えられた。繁殖能に対する影響は認められなかった。(参照9、44)

(2) 発生毒性試験 (ラット)

Alpk:ApfSD ラット (一群雌 24 匹) の妊娠 6~15 日⁶に強制経口 (原体: 0、25、100 及び 300 mg/kg 体重/日、溶媒: コーン油) 投与して発生毒性試験が実施された。

母動物では、300 mg/kg 体重/日投与群で 12 例のうち 3 例が 2 回目の投与後に死亡し、さらに 1 例が切迫と殺され、最大耐量を超えていると考えられたため、同群の残り 8 例の投与が中止された。

300 mg/kg 体重/日投与群で体重減少、下痢及び尿失禁がみられた。100 mg/kg 体重/日投与群で下痢、尿失禁、体重減少及び摂餌量減少がみられ、妊娠 8~15 日に投与後の流涎が高頻度でみられた。同群の剖検で 2 例に胃に出血がみられた。

胎児では、100 mg/kg 体重/日以上投与群で骨化遅延の増加がみられた。

本試験において、100 mg/kg 体重/日以上投与群の母動物で下痢、尿失禁等が、胎児で骨化遅延の増加が認められたので、無毒性量は母動物及び胎児で 25 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかった。(参照9、45)

(3) 発生毒性試験 (ウサギ) ①

NZW ウサギ (一群雌 21 匹) の妊娠 7~19 日⁷に強制経口 (原体: 0、50、150 及び 500 mg/kg 体重/日、溶媒: コーン油) 投与して発生毒性試験が実施された。

母動物では、500 mg/kg 体重/日投与群で下痢、生殖器周辺の汚れ、体重減少及び摂餌量減少がみられた。150 及び 50 mg/kg 体重/日投与群においても体重減少及び下痢が観察された。

胎児では、検体投与の影響は認められなかった。

本試験において、全投与群の母動物で体重減少等が認められ、胎児ではいずれの投与群でも毒性所見は認められなかったため、無毒性量は母動物で 50 mg/kg 体重/日未満、胎児で本試験の最高用量 500 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形

⁶ 精子発見日を 1 日として、妊娠 7~16 日。

⁷ 交尾確認日を 1 日として、妊娠 8~20 日。

性は認められなかった。(参照 9、46)

(4) 発生毒性試験 (ウサギ) ②

ウサギを用いた発生毒性試験 [12. (3) ①] において母動物に対する無毒性量が設定できなかったことから、追加試験として、NZW ウサギ (一群雌 15 匹) の妊娠 7～19 日⁷に強制経口 (原体: 0、25、40 及び 150 mg/kg 体重/日、溶媒: コーン油) 投与する母体毒性試験が実施された。

150 mg/kg 体重/日投与群では、体重増加抑制、摂餌量減少、下痢、生殖器周辺の汚れ等がみられた。40 mg/kg 体重/日投与群では妊娠 8～9 日に体重低値、摂餌量減少、下痢、生殖器付近の汚れ等がみられた。

本試験において、40 mg/kg 体重/日以上投与群で体重低値、摂餌量減少等が認められたので、母動物に対する無毒性量は 25 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認められなかった。(参照 9、47)

13. 遺伝毒性試験

アゾキシストロピン (原体) の細菌を用いた DNA 修復試験及び復帰突然変異試験、マウスリンフォーマ細胞 (L5178Y) を用いた遺伝子突然変異試験、ヒト末梢血リンパ球を用いた染色体異常試験、ラットを用いた *in vivo/in vitro* UDS 試験、マウスを用いた小核試験が実施された。

試験結果は表 20 に示されている。マウスリンフォーマ細胞を用いた遺伝子突然変異試験及びヒト末梢血リンパ球を用いた染色体異常試験で陽性結果が認められたが、その他の試験結果はすべて陰性であった。遺伝子突然変異試験及び染色体異常試験で認められた陽性反応は、用量依存性、再現性、出現頻度等からみて、その程度は弱いと考えられた。さらに、十分高用量まで試験された *in vivo/in vitro* UDS 試験及びマウスを用いた小核試験結果が陰性であったので、一部 *in vitro* で認められた遺伝毒性が生体内においても発現するとは考え難かった。したがって、生体において特段問題となるような遺伝毒性はないと考えられた。(参照 48～53)

表 20 遺伝毒性試験概要 (原体)

試験	対象	処理濃度・投与量	結果	
<i>in vitro</i>	DNA 修復試験	<i>Bacillus subtilis</i> (H17, M45 株)	78~2,500 µg/7 ¹ イカ (+/-S9)	陰性
	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i> (TA98, TA100, TA1535, TA1537 株) <i>Escherichia coli</i> (WP2, WP2uvrA 株)	100~5,000 µg/7 ¹ レト (+/-S9)	陰性
	遺伝子突然変異試験	マウスリンフォーマ細胞 (L5178Y)	8~80 µg/mL (+/-S9)	陽性
	染色体異常試験	ヒト末梢血リンパ球	1.0~50 µg/mL (-S9) 25~200 µg/mL(+S9)	陽性
<i>in vivo/</i> <i>in vitro</i>	UDS 試験	Alp:ApfSD ラット (肝細胞) (雄 5 匹)	0, 1,250, 2,000 mg/kg 体重 (単回経口投与)	陰性
<i>in vivo</i>	小核試験	C57BL/6 マウス (骨髄細胞) (雌雄各 5 匹)	0, 5,000 mg/kg 体重 (単回経口投与)	陰性

注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

代謝物 B 及び D の細菌を用いた復帰突然変異試験が実施された。試験結果は表 21 に示されているとおり、いずれも陰性であった。(参照 54、59)

表 21 遺伝毒性試験概要 (代謝物)

被験物質	試験	対象	処理濃度・投与量	結果
代謝物 B	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98, TA100, TA1535, TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2, WP2uvrA 株)	100~5,000 µg/7 ¹ レト (+/-S9)	陰性
代謝物 D	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98, TA100, TA1535, TA1537 株) <i>E. coli</i> (WP2, WP2uvrA 株)	100~5,000 µg/7 ¹ レト (+/-S9)	陰性

注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

III. 食品健康影響評価

参照に挙げた資料を用いて農薬・添加物「アゾキシストロビン」の食品健康影響評価を実施した。なお、今回食品添加物の指定要請資料、家畜代謝試験（ヤギ）、作物残留試験（こんにゃく）等が新たに提出された。

¹⁴C で標識したアゾキシストロビンのラットを用いた動物体内運命試験の結果、単回経口投与後の血中濃度は低用量群で 1～8 時間後、高用量群で 2～12 時間後に最高に達した。体内吸収率は低用量で約 100%、高用量で約 70%であった。組織内では T_{max} 付近で小腸、大腸、肝臓、腎臓、血漿及び血液で比較的高濃度に認められた。主な排泄経路は胆汁中排泄を介した糞中であつた。親化合物は高用量群の糞中で約 30% TAR 検出されたが、尿及び胆汁中からは検出されなかつた。尿及び糞中では 10% TAR を超える代謝物は認められず、多数の少量代謝物が検出された。胆汁中の主要代謝物は Y であつた。主要代謝反応は、①メチルエステルの加水分解とそれに続くグルクロン酸抱合化（代謝物 Y の生成）、②シアノフェニル環のグルタチオン抱合化（代謝物 Z の生成）及びそれに続くメルカプツール酸（代謝物 AA、AB 及び AC）の生成と考えられた。ヤギでの体内運命試験の結果、排泄の大部分は糞中と尿中であり、主要代謝物は AI 及び AG であつた。

¹⁴C で標識したアゾキシストロビンの稲、小麦、ぶどう及びらっかせいを用いた植物体内運命試験の結果、残留成分として、親化合物、代謝物 B、D 及び M 等が認められたがいずれの代謝物も 10% TRR 未満であつた。

水稻、果実、野菜、茶等を用いて、アゾキシストロビン並びに代謝物 B、D、F、L 及び M を分析対象化合物とした作物残留試験が実施された。その結果、最大残留量は農薬としてのアゾキシストロビンが 24.8 mg/kg（みずな茎葉）、代謝物 D が 0.12 mg/kg（葉ねぎ）、F が 0.07 mg/kg（小麦種子）、L が 0.01 mg/kg（玄米、葉ねぎ、りんご並びにぶどう）、M が 0.11 mg/kg（葉ねぎ）、B は定量限界未満（<0.01 mg/kg）であり、添加物としてのアゾキシストロビンが 9.18 mg/kg（レモン）であつた。また、魚介類における最大推定残留値は 0.071 mg/kg であつた。

各種毒性試験結果から、アゾキシストロビン投与による影響は、主に体重（増加抑制）、血液（貧血）及び胆道系（総胆管拡張、胆管上皮過形成等）に認められた。発がん性、繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体において問題となる遺伝毒性は認められなかつた。

各種試験結果から、農産物、畜産物及び魚介類中の暴露評価対象物質はアゾキシストロビン（親化合物のみ）と設定した。

各試験における無毒性量及び最小毒性量は表 22 に示されている。

表 22 各試験における無毒性量及び最小毒性量

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 ¹⁾
ラット	90日間 亜急性 毒性試験	0、200、2,000、 4,000 ²⁾ ppm 雄:0、204、211、444 雌:0、224、223、449	雄: 20.4 雌: 22.4	雄: 211 雌: 223	雌雄: 体重増加抑制等
	90日間 亜急性 神経毒性 試験	0、100、500、2,000 ppm 雄:0、80、385、161 雌:0、91、479、202	雄: 38.5 雌: 47.9	雄: 161 雌: 202	雌雄: 体重増加抑制等 (神経毒性は認められ ない)
	2年間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験	0、60、300、 750/1,500 ³⁾ ppm 雄:0、36、182、824 雌:0、45、223、117	雄: 18.2 雌: 22.3	雄: 82.4 雌: 117	雌雄: 体重増加抑制等 (発がん性は認められ ない)
	2世代 繁殖試験	0、60、300、1,500 ppm P雄:0、65、330、 162 P雌:0、69、344、 171 F ₁ 雄:0、63、317、 168 F ₁ 雌:0、67、332、 179	親動物及び児動物 P雄: 33.0 P雌: 34.4 F ₁ 雄: 31.7 F ₁ 雌: 33.2	親動物及び児動物 P雄: 162 P雌: 171 F ₁ 雄: 168 F ₁ 雌: 179	親動物: 体重増加抑制 等 児動物: 体重低値 (繁殖能に対する影響 は認められない)
	発生毒性 試験	0、25、100、300	母動物: 25 胎児: 25	母動物: 100 胎児: 100	母動物: 下痢、尿失禁 等 胎児: 骨化遅延増加 (催 奇形性は認められな い)
マウス	2年間 発がん性 試験	0、50、300、2,000 ppm 雄: 0、6.2、37.5、 272 雌: 0、8.5、51.3、 363	雄: 37.5 雌: 51.3	雄: 272 雌: 363	雌雄: 体重増加抑制等 (発がん性は認められ ない)
ウサギ	発生毒性 試験①	0、50、150、500	母動物: ー 胎児: 500	母動物: 50 胎児: ー	母動物: 体重減少等 胎児: 毒性所見なし (催奇形性は認められ ない)
	発生毒性 試験② (母体毒性)	0、25、40、150	母動物: 25	母動物: 40	母動物: 体重低値、摂 餌量減少等

イヌ	90日間 亜急性 毒性試験	0、10、50、250	雄：10 雌：10	雄：50 雌：50	雄：流涎、吐出し及び 嘔吐 雌：体重増加抑制
	1年間 慢性毒性 試験	0、3、25、200	雄：25 雌：25	雄：200 雌：200	雌雄：T.Chol 及び TG 増加等

- 1) 備考に最小毒性量で認められた所見の概要を示す。
 - 2) 最高用量は当初6,000 ppmであったが、投与開始後2週間の段階で動物の発育に支障が生じたため、第3週より4,000 ppmに変更された。
 - 3) 雄の最高用量は当初1,500 ppmであったが、投与開始後39週の段階で死亡例が増加したため、第53週より750 ppmに変更された。
- ：無毒性量又は最小毒性量は設定できなかった。

各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、イヌを用いた90日間亜急性毒性試験の10 mg/kg 体重/日であったが、当該試験の最小毒性量が50 mg/kg 体重/日であること、より長期のイヌを用いた1年間慢性毒性試験の無毒性量が25 mg/kg 体重/日であることから、イヌの無毒性量は25 mg/kg 体重/日であると判断して、ラットを用いた2年間慢性毒性/発がん性併合試験の18.2 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量 (ADI) の根拠とした。

食品安全委員会は、ラットを用いた2年間慢性毒性/発がん性併合試験の無毒性量18.2 mg/kg 体重/日を根拠として、安全係数100で除した0.18 mg/kg 体重/日をADIと設定した。

ADI	0.18 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	18.2 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

<別紙1：代謝物/分解物略称>

記号	化学名
B	(E)-2-{2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリル酸
C	メチル={2-[6-(2-ヒドロキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリレート
D	メチル={2-[2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル]-3-メトキシアクリレート
F	2-ヒドロキシベンゾニトリル
H	2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル酢酸
G	メチル=2-{2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}オキシアセテート
I	メチル={2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}アセテート
J	メチル=(E)-2-{2-[6-(2-シアノ-5-ヒドロキシフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリレート
K	メチル=(E)-2-{2-[6-(2-シアノ-4-ヒドロキシフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリレート
L	メチル=2-{2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}グリコレート
M	4-(2-シアノフェノキシ)-6-ヒドロキシピリミジン
N	2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]安息香酸
O	2-{2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}グリコール酸
P	(E)-2-{2-[6-(2-カルバモイルフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリル酸
S	2-{2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシプロピオン酸
T	2-{2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシ乳酸
U	メチル=3-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]-2-メトキシ-2H-3-ベンゾフロエート
V	メチル=(E)-2-{2-[6-(2-シアノ-6-ヒドロキシオキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリレート
W	メチル=(E)-2-{2-[6-(2-シアノ-4-グルクロニジルオキシフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリレート
X	メチル=(E)-2-{2-[6-(2-シアノ-6-グルクロニジルオキシフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリレート
Y	グルクロニジル(E)-2-{2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリレート
Z	メチル=(E)-2-{2-[6-(2-シアノ-3-グルタチオンイルフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリレート
AA	メチル=(E)-2-{2-[6-(2-シアノ-3-(システイン-グリシンイルフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリレート
AB	メチル=(E)-2-{2-[6-(2-シアノ-3-システインイルフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリレート
AC	メチル=(E)-2-{2-[6-(2-シアノ-3-(N-アセチルシステインイル)フェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}-3-メトキシアクリレート
AD	メチル=(E)-2-(2-ヒドロキシフェニル)-3-メトキシアクリレート
AE	メチル=2-[x-ヒドロキシ-2[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]フェニル}アセテート

記号	化学名
AG	メチル(E)-2-{2-[6-(2-シアノフェノキシ)ピリミジン-4-イルオキシ]-ヒドロキシ-フェニル}-3-メトキシアクリレート誘導体のグルクロン酸誘導体
AI	3-アミノ-4-(2-シアノ-ヒドロキシ-フェニルスルファニル)-酪酸

<別紙2：検査値等略称>

略称	名称
ACh	アセチルコリン
ai	有効成分量 (active ingredient)
ALP	アルカリホスファターゼ
BCF	生物濃縮係数
C _{max}	最高濃度
GGT	γ-グルタミルトランスフェラーゼ [=γ-グルタミルトランスぺプチダーゼ (γ-GTP)]
Hb	ヘモグロビン (血色素量)
His	ヒスタミン
HPLC	高速液体クロマトグラフ
Ht	ヘマトクリット値
LC ₅₀	半数致死濃度
LC/MS	高速液体クロマトグラフ/質量分析計
LD ₅₀	半数致死量
MCH	平均赤血球血色素量
MCHC	平均赤血球血色素濃度
MCV	平均赤血球容積
PEC	環境中予測濃度
PHI	最終使用から収穫までの日数
PLT	血小板数
T _{1/2}	消失半減期
TAR	総投与 (処理) 放射能
T.Chol	総コレステロール
TG	トリグリセリド
T _{max}	最高薬物濃度到達時間
TRR	総残留放射能

<別紙3：作物残留試験成績（農薬としての使用）>

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験圃 場数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										合計
					アキシストロビン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
水稲 (玄米) 1995 年度	1	種子： 3 g ai/箱 ^G 散布：	種子1	39	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05
			散布3	41	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
				50	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
	1	600 g ai/ha ^G 散布：	種子1	35	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05
			散布3	39	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
				46	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
社内分析機関															
水稲 (玄米) 1995 年度	1	種子： 3 g ai/箱 ^G 散布：	種子1	39	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05
			散布3	41	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
				50	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
	1	600 g ai/ha ^G 散布：	種子1	35	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05
			散布3	39	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
				46	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
公的分析機関															
水稲 (玄米) 1995 年度	1	種子： 3 g ai/箱 ^G 散布：	種子1	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05
			散布3	21	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
				28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
	1	240 g ai/ha ^P 散布：	種子1	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.06
			散布3	21	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.06	
				28	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
社内分析機関															
水稲 (玄米) 1995 年度	1	種子： 3 g ai/箱 ^G 散布：	種子1	14	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.06
			散布3	21	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
				28	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
	1	240 g ai/ha ^P 散布：	種子1	14	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.06
			散布3	21	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.02	0.02	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.07
				28	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.05

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
公的分析機関																
水稲 (玄米) 1998年度	1	種子: 3 g ai/箱 [○] 散布: 120 g ai/ha	種子1	13	0.04	0.04	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	20	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	27	0.03	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1	種子: 3 g ai/箱 [○] 散布: 120 g ai/ha	種子1	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	28	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
社内分析機関																
水稲 (玄米) 1998年度	1	種子: 3 g ai/箱 [○] 散布: 120 g ai/ha	種子1	13	0.03	0.03	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	20	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	27	0.03	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1	種子: 3 g ai/箱 [○] 散布: 120 g ai/ha	種子1	14	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	21	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	28	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
公的分析機関																
水稲 (玄米) 2000年度	1	種子: 3 g ai/箱 [○] 散布: 120 g ai/ha	種子1	14	0.03	0.03	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	14	0.05	0.04	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	14	0.05	0.04	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	社内分析機関															
	水稲 (玄米) 2000年度	1	種子: 3 g ai/箱 [○] 散布: 120 g ai/ha	種子1	14	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/
				散布3	14	0.04	0.04	/	/	/	/	/	/	/	/	/
散布3				14	0.04	0.04	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
公的分析機関																
水稲 (玄米) 2000年度		1	種子: 3 g ai/箱 [○] 空中散布: 80 g ai/ha	種子1	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/
				散布3	14	0.03	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	散布3			14	0.03	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	社内分析機関															
	1	種子: 3 g ai/箱 [○] 空中散布: 80 g ai/ha	種子1	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
散布3			14	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/		

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										合計	
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
公的分析機関																
水稻 (玄米) 2005年度	1	種子: 3 g ai/箱 ^g	種子1	14	0.03	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	21	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/		
	1	散布: 100 g ai/ha	種子1	14	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	21	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/		
	社内分析機関															
	1	種子: 3 g ai/箱 ^g	種子1	14	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
散布3			21	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/			
1	散布: 100 g ai/ha	種子1	14	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
		散布3	21	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/	/	/			
公的分析機関																
水稻 (稲わら) 1995年度	1	種子: 3 g ai/箱 ^g	種子1	39	0.72	0.72	<0.04	<0.04	0.08	0.08	<0.04	<0.04	0.12	0.12	<1.00	
			散布3	41	0.62	0.62	<0.04	<0.04	0.06	0.06	<0.04	<0.04	0.08	0.08	<0.84	
			散布3	50	0.39	0.38	<0.04	<0.04	0.06	0.06	<0.04	<0.04	0.09	0.08	<0.62	
	1	散布: 600 g ai/ha ^g	種子1	35	0.97	0.96	<0.04	<0.04	0.09	0.08	<0.04	<0.04	0.11	0.10	<1.25	
			散布3	39	0.45	0.44	<0.04	<0.04	0.06	0.06	<0.04	<0.04	0.05	0.05	<0.64	
			散布3	46	0.35	0.34	<0.04	<0.04	0.05	0.04	<0.04	<0.04	0.05	0.05	<0.53	
	社内分析機関															
	1	種子: 3 g ai/箱 ^g	種子1	39	0.58	0.58	<0.02	<0.02	0.08	0.08	<0.02	<0.02	0.17	0.16	<0.87	
			散布3	41	0.84	0.84	0.02	0.02	0.06	0.09	0.03	0.02	0.14	0.14	<1.12	
			散布3	50	0.54	0.54	<0.02	<0.02	0.06	0.08	<0.02	<0.02	0.17	0.16	<0.83	
	1	散布: 600 g ai/ha ^g	種子1	35	1.00	0.99	<0.02	<0.02	0.09	0.08	0.03	0.03	0.16	0.16	<1.30	
			散布3	39	0.54	0.52	<0.02	<0.02	0.06	0.08	<0.02	<0.02	0.12	0.12	<0.78	
散布3			46	0.36	0.36	<0.02	<0.02	0.06	0.06	<0.02	<0.02	0.10	0.10	<0.56		

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											合計
					アゾキシストロビン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
公的分析機関																
水稲 (稲わら) 1995年度	1	種子: 3 g ai/箱 ^a	種子1	14	1.15	1.14	0.11	0.11	0.17	0.16	0.11	0.11	0.30	0.28	<1.84	
			散布3	21	0.64	0.62	0.06	0.06	0.11	0.10	0.04	0.04	0.16	0.16	<1.01	
			散布3	28	0.24	0.24	<0.04	<0.04	0.05	0.04	<0.04	<0.04	0.07	0.06	<0.44	
	1	散布: 240 g ai/ha ^P	種子1	14	0.55	0.54	<0.04	<0.04	0.08	0.08	<0.04	<0.04	0.09	0.08	<0.80	
			散布3	21	0.38	0.37	<0.04	<0.04	0.08	0.08	<0.04	<0.04	0.07	0.07	<0.61	
			散布3	28	0.29	0.28	<0.04	<0.04	0.09	0.08	<0.04	<0.04	0.05	0.05	<0.51	
社内分析機関																
1	種子: 3 g ai/箱 ^a	種子1	14	1.04	1.03	0.10	0.10	0.13	0.12	0.16	0.16	0.25	0.24	<1.68		
		散布3	21	0.59	0.56	0.05	0.05	0.10	0.10	0.08	0.08	0.20	0.20	<1.02		
		散布3	28	0.22	0.22	<0.02	<0.02	0.08	0.08	<0.02	<0.02	0.13	0.13	<0.47		
1	散布: 240 g ai/ha ^P	種子1	14	0.55	0.54	0.03	0.03	0.11	0.11	0.05	0.05	0.17	0.17	<0.91		
		散布3	21	0.48	0.47	0.02	0.02	0.10	0.10	0.04	0.04	0.16	0.16	<0.80		
		散布3	28	0.24	0.23	<0.02	<0.02	0.07	0.07	<0.02	<0.02	0.13	0.13	<0.48		
公的分析機関																
水稲 (稲わら) 1998年度	1	種子: 3 g ai/箱 ^a	種子1	13	0.39	0.38	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	20	0.56	0.54	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	27	0.34	0.33	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	1	散布: 120 g ai/ha	種子1	13	0.96	0.94	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	21	0.55	0.53	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			散布3	28	0.45	0.44	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
社内分析機関																
1	種子: 3 g ai/箱 ^a	種子1	13	0.50	0.50	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
		散布3	20	0.38	0.35	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
		散布3	27	0.21	0.20	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
1	散布: 120 g ai/ha	種子1	13	0.78	0.78	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
		散布3	21	0.31	0.31	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
		散布3	28	0.22	0.21	/	/	/	/	/	/	/	/	/		

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
水稻 (稲わら) 2000年度	1	種子: 3 g ai/箱 ^g	種子1 散布3	14	0.54	0.52	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1	散布: 120 g ai/ha	種子1 散布3	14	0.78	0.76	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	社内分析機関														
	1	種子: 3 g ai/箱 ^g	種子1 散布3	14	0.54	0.52	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1	散布: 120 g ai/ha	種子1 散布3	14	0.94	0.94	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
公的分析機関															
水稻 (稲わら) 2000年度	1	種子: 3 g ai/箱 ^g	種子1 散布3	14	0.66	0.64	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1	空中散布: 80 g ai/ha	種子1 散布3	14	1.85	1.84	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	社内分析機関														
	1	種子: 3 g ai/箱 ^g	種子1 散布3	14	0.24	0.24	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1	空中散布: 80 g ai/ha	種子1 散布3	14	1.75	1.64	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
公的分析機関															
水稻 (稲わら) 2005年度	1	種子: 3 g ai/箱 ^g	種子1 散布3	14 21	2.42 1.75	2.32 1.74	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1	散布: 100 g ai/ha	種子1 散布3	14 21	1.09 1.04	1.07 1.04	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	社内分析機関														
	1	種子: 3 g ai/箱 ^g	種子1 散布3	14 21	2.4 1.7	2.3 1.6	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1	散布: 100 g ai/ha	種子1 散布3	14 21	0.9 0.7	0.8 0.7	/	/	/	/	/	/	/	/	/	

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										合計
					アゾキシストロビン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
水稲 (青刈稲) 1999年度 <比較試験>	1	空中散布： 1,500 g ai/ha	1	7	0.52	0.50	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1	地上散布： 120 g ai/ha	1	7	0.64	0.62	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1	空中散布： 1,500 g ai/ha	1	7	0.54	0.52	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1	地上散布： 120 g ai/ha	1	7	0.72	0.70	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	社内分析機関														
	1	空中散布： 1,500 g ai/ha	1	7	0.49	0.44	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1	地上散布： 120 g ai/ha	1	7	0.51	0.49	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1	地上散布： 120 g ai/ha	1	7	0.71	0.66	/	/	/	/	/	/	/	/	/
公的分析機関															
小麦 (種子) 1994年度	1	種子： 1.6 g ai/kg	種子1 散布1	237	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
	1	根雪前散布： 250 g ai/ha	種子1 散布1	208	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
	社内分析機関														
	1	種子： 1.6g ai/kg	種子1 散布1	237	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
1	根雪前散布： 250 g ai/ha	種子1 散布1	208	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05		

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										合計
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
小麦 (種子) 1994年度	1	種子: 1.6 g ai/kg 根雪前散布:	種子1 根雪前 散布 3	7	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05
				14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05
				21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05
	1	250 g ai/ha 散布: 250 g ai/ha	3	7	0.09	0.09	<0.01	<0.01	0.04	0.04	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05
				14	0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.03	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05
				21	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05
社内分析機関															
1	種子: 1.6 g ai/kg 根雪前散布:	種子1 根雪前 散布 3	7	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.06
			14	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05	
			21	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.06
1	250 g ai/ha 散布: 250 g ai/ha	3	7	0.10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.14	
			14	0.05	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.09	
			21	0.02	<0.01	<0.01	0.07	0.06	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.12	
公的分析機関															
だいず [露地] (乾燥子実) 2000年度	1	散布: 200~250 g ai/ha	3	7	0.02	0.02									
				14	<0.01	<0.01									
				21	<0.01	<0.01									
	1	3	7	0.01	0.01										
			14	<0.01	<0.01										
			21	<0.01	<0.01										
社内分析機関															
1	散布: 200~250 g ai/ha	3	7	0.02	0.02										
			14	<0.01	<0.01										
			21	<0.01	<0.01										
1	3	7	<0.01	<0.01											
		14	<0.01	<0.01											
		21	<0.01	<0.01											

作物名 【栽培形態】 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
だいず 【露地】 (乾燥子実) 2001年度	1	空中散布： 200 g ai/ha	2	7	0.03	0.03									
				14	<0.01	<0.01									
	1		2	7	0.05	0.05									
				14	0.04	0.04									
	1	空中散布： 200 g ai/ha	2	7	0.02	0.02									
				14	<0.01	<0.01									
1		2	7	0.05	0.05										
			14	0.03	0.03										
社内分析機関															
公的分析機関															
ばれいしょ 【露地】 (塊茎) 2006年度	1	種いも浸漬：一 散布： 133~166 g ai/ha	浸漬 1 散布 3	7	<0.003	<0.003									
				14	<0.003	<0.003									
	1		浸漬 1 散布 3	7	<0.003	<0.003									
				14	<0.003	<0.003									
	1	種いも浸漬：一 散布： 133~166 g ai/ha	浸漬 1 散布 3	7	<0.003	<0.003									
				14	<0.003	<0.003									
1		浸漬 1 散布 3	7	<0.003	<0.003										
			14	<0.003	<0.003										
社内分析機関															

作物名 【栽培形態】 (分析部位) 実施年度	試験圃 場数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
やまのいも 【露地】 (塊茎) 2005年度	1	散布： 200~250 g ai/ha	3	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/
				7	<0.01	<0.01									
				14	<0.01	<0.01									
	1	散布： 200~250 g ai/ha	3	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/
				7	<0.01	<0.01									
				14	<0.01	<0.01									
社内分析機関															
あずき 【露地】 (乾燥子実) 2004年度	1	散布： 120 g ai/ha	3	7	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/
				14	<0.01	<0.01									
				21	0.01	0.01									
	1	散布： 120 g ai/ha	3	7	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/
				14	<0.01	<0.01									
				21	0.01	0.01									
社内分析機関															
いんげんまめ 【露地】 (乾燥子実) 2004年度	1	散布： 150~300 g ai/ha	3	7	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/
				14	<0.01	<0.01									
				21	<0.01	<0.01									
	1	散布： 150~300 g ai/ha	3	7	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/
				14	<0.01	<0.01									
				21	<0.01	<0.01									
公的分析機関															

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
てんさい [露地] (根部) 1996年度	1	散布： 276 g ai/ha	3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
	1	散布： 276 g ai/ha	3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関															
てんさい [露地] (根部) 2003年度	1	散布： 255 g ai/ha	3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
	1	散布： 255 g ai/ha	3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関															
てんさい [露地] (根部) 2003年度	1	散布： 255 g ai/ha	3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
	1	散布： 255 g ai/ha	3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関															

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
てんさい [露地] (根部) 2005年度	1	土壌灌注： 0.4 g ai/ha/冊	灌注 1	7	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/
			散布 3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
	1	散布： 267 g ai/ha	灌注 1	7	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	/
			散布 3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
社内分析機関															
だいこん [露地] (根部) 2002年度	1	散布： 107~250 g ai/ha	3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
				28	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
	1	散布： 107~250 g ai/ha	3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
				28	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
社内分析機関															
1	散布： 107~250 g ai/ha	3	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/		
			21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/			
			28	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/		

作物名 【栽培形態】 (分析部位) 実施年度	試験圃 場数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
だいこん 【露地】 (葉部) 2002年度	1	散布： 107~250 g ai/ha	3	14	0.46	0.44									
				21	0.12	0.12									
				28	0.09	0.09									
	1	散布： 107~250 g ai/ha	3	14	0.11	0.11									
				21	0.08	0.08									
				28	0.03	0.03									
社内分析機関															
だいこん 【露地】 (葉部) 2002年度	1	散布： 107~250 g ai/ha	3	14	0.36	0.36									
				21	0.26	0.26									
				28	0.24	0.24									
	1	散布： 107~250 g ai/ha	3	14	0.14	0.14									
				21	0.11	0.11									
				28	0.03	0.03									
公的分析機関															
かぶ 【露地】 (根茎) 2004年度	1	散布： 200 g ai/ha	2	7	0.02	0.02									
				14	0.01	0.01									
				21	<0.01	<0.01									
	1	散布： 200 g ai/ha	2	7	0.03	0.03									
				14	0.04	0.04									
				21	0.03	0.03									
社内分析機関															
かぶ 【露地】 (根茎) 2004年度	1	散布： 200 g ai/ha	2	7	<0.01	<0.01									
				14	<0.01	<0.01									
				21	<0.01	<0.01									
	1	散布： 200 g ai/ha	2	7	0.03	0.02									
				14	0.02	0.02									
				21	0.02	0.02									

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
公的分析機関																
かぶ [露地] (茎葉) 2004年度	1	散布: 200 g ai/ha	2	7	1.66	1.66	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	0.95	0.93										
				21	0.40	0.38										
	1	2	7	9.09	8.64	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	7.80											7.78
				21	3.76											3.72
社内分析機関																
かぶ [露地] (茎葉) 2004年度	1	散布: 200 g ai/ha	2	7	2.39	2.36	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	1.84	1.80										
				21	1.01	0.98										
	1	2	7	8.11	7.96	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	7.94											7.78
				21	4.56											4.54
公的分析機関																
クレソン [施設] (茎葉) 2005年度	1	散布: 150 g ai/ha	3	21	<0.20	<0.20	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	0.27	0.26										
公的分析機関																
はくさい [露地] (茎葉) 1999年度	1	種子: 1.6 g ai/kg 散布: 300 g ai/ha	種子 1 散布 4	7	0.07	0.07	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	0.03	0.03										
				21	0.06	0.06										
	1	散布: 200 g ai/ha	4	7	0.06	0.06	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	0.03	0.03										
				21	0.02	0.02										
社内分析機関																
はくさい [露地] (茎葉) 1999年度	1	種子: 1.6 g ai/kg 散布: 300 g ai/ha	種子 1 散布 4	7	0.10	0.10	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	0.04	0.04										
				21	0.04	0.04										
	1	散布: 200 g ai/ha	4	7	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	0.03	0.03										
				21	0.02	0.02										

作物名 【栽培形態】 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
キャベツ 【露地】 (葉球) 2001年度	1	散布： 200 g ai/ha	4	7	0.02	0.02									
				14	<0.01	<0.01									
	1			7	<0.01	<0.01									
					14	<0.01	<0.01								
社内分析機関															
2001年度	1	散布： 200 g ai/ha	4	7	0.08	<0.01									
				14	<0.01	<0.01									
	1			7	<0.01	<0.01									
					14	<0.01	<0.01								
公的分析機関															
こまつな 【施設】 (茎葉) 2004年度 2005年度	1	散布： 214~400 g ai/ha	2	7	0.7	0.7									
				14	0.2	0.2									
	1			7	9.2	9.2									
					14	5.5	5.4								
社内分析機関															
2004年度 2005年度	1	散布： 214~400 g ai/ha	2	7	1.1	1.0									
				14	0.2	0.2									
	1			7	7.4	7.4									
					14	7.3	7.3								
社内分析機関															
みずな 【施設】 (茎葉) 2004年度 2006年度	1	散布： 265~391 g ai/ha	2	7	8.6	8.5									
				14	3.5	3.4									
	1			7	24.8	24.6									
					14	6.6	6.6								
				21	2.4	2.4									

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
畑わさび [施設] (茎葉) 2003年度	1	散布： 300 g ai/ha	2	7	5.99	5.86	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	3.21	3.06	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関															
畑わさび [施設] (根茎) 2003年度	1	散布： 300 g ai/ha	2	7	11.9	11.8	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	9.95	9.93	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関															
畑わさび [施設] (根茎) 2003年度	1	散布： 300 g ai/ha	2	7	0.57	0.55	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	0.85	0.82	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関															
畑わさび [露地] (花及び花茎) 2007年度	1	散布： 300~320 g ai/ha	2	7	1.54	1.52	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	0.07	0.07	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関															
畑わさび [施設] (花及び花茎) 2007年度	1	散布： 300~320 g ai/ha	2	7	7.33	7.16	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	2.25	2.18	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関															
しろな [施設] (茎葉) 2000年度	1	散布： 200 g ai/ha	1	7	0.48	0.46	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	0.12	0.12	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関															
しろな [施設] (茎葉) 2000年度	1	散布： 200 g ai/ha	1	7	2.26	2.22	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	2.19	2.12	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関															
しろな [施設] (茎葉) 2000年度	1	散布： 200 g ai/ha	1	7	0.76	0.76	/	/	/	/	/	/	/	/	
				4	0.06	0.06	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関															
しろな [施設] (茎葉) 2000年度	1	散布： 200 g ai/ha	1	7	3.39	3.32	/	/	/	/	/	/	/	/	
				4	2.39	2.34	/	/	/	/	/	/	/		

作物名 【栽培形態】 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
大山そだち 【施設】 (茎葉) 2004年度	1	散布： 300 g ai/ha	2	7	4.12	4.12									
				14	2.10	2.10									
				21	0.79	0.76									
	1		2	7	5.51	5.34									
				14	3.32	3.28									
				21	2.23	2.19									
公的分析機関															
さがみグリーン 【施設】 (茎葉) 2004年度	1	散布： 300 g ai/ha	2	7	4.22	4.18									
				14	2.61	2.50									
				21	0.88	0.86									
	1		2	7	4.12	4.12									
				14	2.20	2.13									
				21	0.94	0.92									
公的分析機関															
エンダイブ 【施設】 (茎葉) 2004年度	1	散布： 200 g ai/ha	1	7	<0.05	<0.05									
				14	<0.05	<0.05									
				21	<0.05	<0.05									
	1		1	7	1.20	1.18									
				14	0.27	0.26									
				21	<0.05	<0.05									
公的分析機関															
レタス 【施設】 (茎葉) 2000年度	1	散布： 200~300 g ai/ha	4	7	1.11	1.08									
				14	0.67	0.67									
				21	0.02	0.02									
	1		4	7	2.69	2.68									
				14	2.95	2.94									
				21	0.33	0.33									
社内分析機関															
	1	散布： 200~300 g ai/ha	4	7	1.54	1.52									
				14	0.72	0.70									
				21	0.20	0.20									
	1		4	7	2.80	2.77									
				14	1.42	1.40									
				21	0.22	0.21									

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
レタス [施設] (茎葉) 2005年度	1	土壌灌注: 3,000 g ai/ha 散布: 200~300 g ai/ha	4	7 14	2.4 0.2	2.4 0.2	/	/	/	/	/	/	/	/	
	1		4	7 14	2.5 0.6	2.5 0.6	/	/	/	/	/	/	/		
	社内分析機関														
	1	土壌灌注: 3,000 g ai/ha 散布: 200~300 g ai/ha	4	7 14	2.4 0.4	2.4 0.4	/	/	/	/	/	/	/	/	
1	4		7 14	2.4 0.6	2.4 0.6	/	/	/	/	/	/	/			
公的分析機関															
サラダ菜 [施設] (茎葉) 2005年度	1	散布: 150~200 g ai/ha	4	7 14 21	14.5 7.2 1.5	14.0 7.2 1.5	/	/	/	/	/	/	/	/	
	1		4	7 14 21	15.9 9.4 1.5	15.9 9.2 1.4	/	/	/	/	/	/	/		
公的分析機関															
リーフレタス [露地] (茎葉) 2005年度	1	散布: 100~245 g ai/ha	4	7 14 21	21.6 12.1 5.1	21.0 11.6 5.0	/	/	/	/	/	/	/	/	
	1		4	7 14 21	5.2 0.5 <0.1	5.0 0.4 <0.1	/	/	/	/	/	/	/		
公的分析機関															
葉ごぼう [施設] (全体) 2005,2006年度	1	散布: 200 g ai/ha	1	21 28	1.6 0.4	1.6 0.4	/	/	/	/	/	/	/	/	
	1		1	21 28	2.3 1.0	2.2 1.0	/	/	/	/	/	/	/		

作物名 【栽培形態】 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										合計
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
こおこたびらこ 【施設】 (茎葉) 2006年度	1	散布： 150 g ai/ha	1	30	0.87	0.86	/	/	/	/	/	/	/	/	/
				45	0.47	0.47	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1		1	30	1.37	1.29	/	/	/	/	/	/	/	/	
				45	0.40	0.40	/	/	/	/	/	/	/	/	
				60	0.06	0.06	/	/	/	/	/	/	/	/	
				60	0.33	0.33	/	/	/	/	/	/	/	/	
公的分析機関															
ははこぐさ 【施設】 (茎葉) 2006年度	1	散布： 100~150 g ai/ha	1	30	0.36	0.36	/	/	/	/	/	/	/	/	
				45	0.08	0.08	/	/	/	/	/	/	/	/	
	1		1	30	0.77	0.77	/	/	/	/	/	/	/		
				45	0.28	0.28	/	/	/	/	/	/	/	/	
				60	0.06	0.06	/	/	/	/	/	/	/		
				60	0.04	0.04	/	/	/	/	/	/	/	/	
公的分析機関															
たまねぎ 【露地】 (鱗茎) 2000年度	1	散布： 266 g ai/ha	4	1	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
	1		4	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
				1	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
				7	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
				14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関															
根深ねぎ 【露地】 (茎葉) 1995年度	1	散布： 180~300 g ai/ha	4	3	0.96	0.96	0.02	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<1.03
				7	0.32	0.32	0.02	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.38
	1		4	14	0.19	0.18	0.01	0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.01	0.01	0.01	<0.23
				3	0.20	0.20	<0.01	<0.01	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.03	0.03	<0.23
				7	0.12	0.12	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.03	<0.19
				14	0.05	0.04	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.09

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											合計
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
葉ねぎ [露地] (茎葉) 1995年度	公的分析機関															
	1	散布： 300 g ai/ha	4	3	1.23	1.22	0.08	0.08	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.09	0.08	<1.44	
				7	1.43	1.42	0.12	0.12	0.03	0.03	0.01	0.01	0.11	0.11	1.70	
				14	0.35	0.34	0.04	0.04	0.03	0.02	<0.01	<0.01	0.05	0.05	<0.48	
	1	散布： 300 g ai/ha	4	3	1.22	1.20	0.06	0.06	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.08	0.08	<1.41	
				7	0.28	0.27	0.02	0.02	0.04	0.04	0.01	0.01	0.07	0.07	0.42	
				14	0.09	0.08	<0.01	<0.01	0.03	0.02	<0.01	<0.01	0.04	0.04	<0.18	
	社内分析機関															
1	散布： 300 g ai/ha	4	3	1.00	1.00	0.06	0.06	0.03	0.03	0.01	<0.01	0.06	0.06	1.16		
			7	1.08	1.02	0.09	0.08	0.04	0.04	0.01	0.01	0.07	0.07	1.29		
			14	0.61	0.61	0.07	0.07	0.03	0.03	0.01	0.01	0.05	0.05	0.78		
1	散布： 300 g ai/ha	4	3	1.09	1.08	0.05	0.05	0.03	0.03	<0.01	<0.01	0.03	0.03	<1.21		
			7	0.22	0.22	0.01	0.01	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.04	0.04	<0.32		
			14	0.07	0.07	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.13		
にんにく [露地] (鱗茎) 1998年度	公的分析機関															
	1	散布： 150~300 g ai/ha	3	7	<0.01	<0.01										
				14	<0.01	<0.01										
				21	<0.01	<0.01										
	1	散布： 150~300 g ai/ha	3	7	<0.01	<0.01										
				14	<0.01	<0.01										
				21	<0.01	<0.01										
	社内分析機関															
1	散布： 150~300 g ai/ha	3	7	<0.01	<0.01											
			14	<0.01	<0.01											
			21	<0.01	<0.01											
にら [施設] (茎葉) 1999年度 2000年度	公的分析機関															
	1	散布： 150~200 g ai/ha	2	14	1.11	1.10										
				14	2.42	2.42										
	社内分析機関															
	1	散布： 150~200 g ai/ha	2	14	0.50	0.49										
				14	2.15	2.14										

作物名 【栽培形態】 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アノキシストロビン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
アスパラガス 【施設】 (茎) 2001年度	1	散布： 250~300 g ai/ha	4	1	0.74	0.72	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.11	0.10									
	7	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/				
	1	0.08	0.08												
1	3	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/				
6	<0.01	<0.01													
社内分析機関															
アスパラガス 【施設】 (茎) 2001年度	1	散布： 250~300 g ai/ha	4	1	0.84	0.83	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.23	0.22									
	7	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/				
	1	0.13	0.13												
1	3	0.03	0.01	/	/	/	/	/	/	/	/				
6	<0.01	<0.01													
社内分析機関															
わけぎ 【露地】 (茎葉) 2004年度	1	散布： 150~400 g ai/ha	4	7	0.1	0.1	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	<0.1	<0.1									
	7	0.4	0.4	/	/	/	/	/	/	/	/				
	14	0.3	0.2												
公的分析機関															
葉たまねぎ 【施設】 (根部) 2007年度	1	散布： 150 g ai/ha	3	3	2.03	2.02	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	2.21	2.19									
	14	1.65	1.64	/	/	/	/	/	/	/					
	3	1.05	1.04												
1	7	1.11	1.11	/	/	/	/	/	/	/					
14	1.10	1.08													
公的分析機関															
らっきょう 【露地】 (鱗茎) 2003年度 2004年度	1	散布： 150 g ai/ha	3	3	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.02	0.02									
	14	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/					
	3	0.02	0.02												
1	7	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/	/					
14	<0.01	<0.01													

作物名 【栽培形態】 (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
にんじん 【露地】 (根部) 2003年度	公的分析機関														
	1	散布： 96~192 g ai/ha	2	21	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	
	28			0.02	0.02										
	1	散布： 96~192 g ai/ha	2	21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
	28			<0.01	<0.01										
	社内分析機関														
1	散布： 96~192 g ai/ha	2	21	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/		
28			0.02	0.02											
1	散布： 96~192 g ai/ha	2	21	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/		
28			<0.01	<0.01											
パセリ 【施設】 (茎葉) 2003年度	公的分析機関														
	1	散布： 250 g ai/ha	1	45	<0.05	<0.05	/	/	/	/	/	/	/	/	
	60			0.05	0.05										
	1	散布： 250 g ai/ha	1	45	0.33	0.33	/	/	/	/	/	/	/	/	
60	0.13			0.13											
セルリー 【施設】 (茎葉) 2004年度	公的分析機関														
	1	散布： 100~150 g ai/ha	4	3	8.9	8.8	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	6.1	6.0									
	14		5.8	5.8	/	/	/	/	/	/	/				
	3		5.05	5.02											
	1	散布： 100~150 g ai/ha	4	7	4.24	4.20	/	/	/	/	/	/	/	/	
				14	2.93	2.88									
	社内分析機関														
	1		散布： 100~150 g ai/ha	4	3	9.38	9.36	/	/	/	/	/	/	/	/
		7			7.26	7.22									
14	5.76	5.74		/	/	/	/	/	/	/					
3	4.1	4.0													
1	散布： 100~150 g ai/ha	4	7	6.1	6.1	/	/	/	/	/	/	/	/		
			14	2.5	2.4										
みつば 【施設】 (茎葉) 2004年度		公的分析機関													
		1	散布： 100 g ai/ha	1	14	1.6	1.6	/	/	/	/	/	/	/	/
	21				<0.5	<0.5									
	1	散布： 100 g ai/ha		1	14	1.7	1.7	/	/	/	/	/	/	/	/
21					<0.5	<0.5									

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
社内分析機関																
せり [露地] (茎葉) 2004年度	1	散布： 200 g ai/ha	4	7	0.5	0.4										
				14	0.7	0.7										
	.1		4	7	0.8	0.8										
				12	0.5	0.5										
20	<0.4	<0.4														
公的分析機関																
トマト [施設] (果実) 1998年度	1	散布： 400 g ai/ha	4	1	0.31	0.30										
				3	0.36	0.36										
				7	0.26	0.26										
	1		4	1	0.03	0.03										
				3	0.05	0.05										
				8	0.05	0.05										
	社内分析機関															
	1		4	1	4	1	0.40	0.40								
3		0.37				0.36										
7		0.26				0.26										
1		0.08				0.08										
1	4	3	8	0.04	0.04											
				0.09	0.09											
				0.09	0.09											
公的分析機関																
ミニトマト [施設] (果実) 2008年度	1	散布： 144 g ai/ha	2	7	0.1	0.1										
				14	0.1	0.1										
	1		2	7	<0.1	<0.1										
				14	<0.1	<0.1										
	社内分析機関															
	1		2	7	14	0.2	0.2									
0.1		0.1														
1	2	7	14	0.1	0.1											
				<0.1	<0.1											

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											合計
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
ピーマン [施設] (果実) 2000年	公的分析機関															
	1	散布: 200 g ai/ha	4	1	1.20	1.18										
				3	0.98	0.95										
				7	0.78	0.74										
	1	散布: 200 g ai/ha	4	1	1.29	1.28										
				3	1.28	1.26										
7				0.90	0.88											
社内分析機関																
1	散布: 200 g ai/ha	4	1	1.20	1.17											
			3	0.91	0.91											
			7	0.61	0.60											
1	散布: 200 g ai/ha	4	1	1.30	1.27											
			3	1.11	1.08											
			7	0.76	0.74											
なす [施設] (果実) 1995年度	公的分析機関															
	1	散布: 300 g ai/ha	4	1	0.22	0.22	<0.01	<0.01	0.03	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.28	
				3	0.12	0.12	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.17	
				7	0.05	0.04	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.09	
	1	散布: 300 g ai/ha	4	1	0.58	0.58	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.62	
				3	0.34	0.34	<0.01	<0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.38	
				7	0.06	0.06	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.10	
	社内分析機関															
	1	散布: 300 g ai/ha	4	1	0.27	0.26	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.32	
				3	0.10	0.10	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.01	<0.01	<0.15	
7				0.05	0.05	<0.01	<0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.09		
1	散布: 300 g ai/ha	4	1	0.59	0.58	<0.01	<0.01	0.03	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.66		
			3	0.29	0.29	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.35		
			7	0.05	0.04	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.10		

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										合計																	
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M																			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値																		
公的分析機関																																
きゅうり [施設] (果実) 1994年度	1	株元灌注:	1	46	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05																	
	1	0.02 g ai/株	1	85	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05																	
	1	散布: 200~400 g ai/ha	4	1	0.18	0.18	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.22																	
				3	0.08	0.08	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.12																		
				7	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.06																		
	1	株元灌注: 0.02 g ai/株	灌注 1 散布 4	1	0.16	0.16	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.20																	
				3	0.09	0.08	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.13																		
	1	散布: 200~400 g ai/ha	灌注 1 散布 4	1	0.25	0.25	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.29																	
				3	0.10	0.10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.14																		
	かぼちゃ [施設] (果実) 2003年度	1	散布: 293~300 g ai/ha	4	7 14 7 14 7 14 7 14	0.1 <0.1 0.1 <0.1 0.1 <0.1 0.1 <0.1	0.1 <0.1 0.1 <0.1 0.1 <0.1 0.1 <0.1	/	/	/	/	/	/	/	/	/																
																	公的分析機関															
																	社内分析機関															
公的分析機関																																
社内分析機関																																

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											合計
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
公的分析機関																
ズッキーニ [施設・無袋] (果実) 2005年度	1	散布： 250 g ai/ha	4	1 3 7	0.2 0.1 <0.1	0.2 0.1 <0.1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	1		4	1 3 7	0.2 0.1 <0.1	0.2 0.1 <0.1	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
公的分析機関																
すいか [施設] (果実) 1995年度	1	散布： 168~300 g ai/ha	4	1 3 7	<0.01 <0.01 0.01	<0.01 <0.01 0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.05 <0.05 <0.05	
	1		4	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.05 <0.05 <0.05	
	社内分析機関															
	1	散布： 168~300 g ai/ha	4	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.05 <0.05 <0.05
	1		4	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	0.01 <0.01 <0.01	0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.05 <0.05 <0.05
	公的分析機関															
メロン [施設] (果実) 1995年度	1	散布： 300 g ai/ha	4	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.05 <0.05 <0.05	
	1		4	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.05 <0.05 <0.05	
	社内分析機関															
	1	散布： 300 g ai/ha	4	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.05 <0.05 <0.05
	1		4	1 3 7	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.05 <0.05 <0.05

作物名 【栽培形態】 (分析部位) 実施年度	試験 圃場数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
社内分析機関																
にがうり 【施設】 (果実) 2007年度	1	散布： 150-300 g ai/ha	3	7	0.11	0.11	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
	1		3	7	0.41	0.40	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
社内分析機関																
オクラ 【施設】 (果実) 2004年度	1	散布： 180~250 g ai/ha	2	1	1.24	1.22	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.55	0.54	/	/	/	/	/	/	/	/		
	1		2	1	1.07	1.06	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.58	0.58	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
公的分析機関																
しょうが (塊茎) 2009年度	1	散布： 3,600 g ai/ha ^G	3	30	0.013	0.013	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				40	0.007	0.007	/	/	/	/	/	/	/	/		
	1		3	30	0.059	0.058	/	/	/	/	/	/	/	/		
				40	0.052	0.052	/	/	/	/	/	/	/	/		
	社内分析機関															
	1		3	30	0.013	0.012	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
40		0.013		0.013	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
1	3	30	0.033	0.033	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
		40	0.035	0.034	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
社内分析機関																
さやえんどう 【施設】 (さや) 2004年度 2005年度	1	散布： 200 g ai/ha	3	1	0.25	0.24	/	/	/	/	/	/	/	/		
				3	0.29	0.28	/	/	/	/	/	/	/			
	1		3	1	1.32	1.30	/	/	/	/	/	/	/	/		
				3	0.92	0.90	/	/	/	/	/	/	/	/		
1	3	1	0.54	0.54	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
		3	0.54	0.54	/	/	/	/	/	/	/	/	/			

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
さやいんげん [施設] (さや) 2004年度	1	散布： 200 g ai/ha	3	1	0.71	0.68	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.51	0.50									
	1	3	7	1	1.00	1.00	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.88	0.86									
社内分析機関															
2004年度	1	散布： 200 g ai/ha	3	1	0.78	0.77	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.55	0.54									
	1	3	7	1	1.14	1.12	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.92	0.92									
公的分析機関															
えだまめ [露地] (さや) 2004年度 2005年度	1	散布： 200 g ai/ha	3	1	2.36	2.32	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	2.28	2.22									
	1	3	7	1	0.46	0.46	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.37	0.37									
社内分析機関															
2005年度	1	散布： 200 g ai/ha	3	1	2.13	2.12	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	1.72	1.71									
	1	3	7	1	1.63	1.61	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.42	0.42									
公的分析機関															
みょうが [施設] (花穂) 2004年度	1	土壌灌注： 3,000 g ai/ha	4	3	0.51	0.50	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.14	0.14									
	1	4	14	3	0.08	0.08	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.35	0.34									
公的分析機関															
社内分析機関															
公的分析機関															
社内分析機関															

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
社内分析機関															
みょうが [施設] (花穂) 2007年度	1	散布： 3,600 g ai/ha ^a 土壌灌注： 3,000 g ai/ha	4	3	2.2	2.2	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.6	0.6									
				14	<0.5	<0.5									
	1		4	3	1.1	1.0									
				7	<0.5	<0.5									
				14	<0.5	<0.5									
公的分析機関															
しそ [施設] (葉) 2002年度	1	散布： 200 g ai/ha	2	1	0.11	0.10	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	<0.04	<0.04									
				7	<0.04	<0.04									
	1		2	1	0.04	0.04									
				3	<0.04	<0.04									
				7	<0.04	<0.04									
社内分析機関															
未成熟そらまめ (豆) 2006年度	1	散布： 250~286 g ai/ha	3 (露地)	3	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	<0.01	<0.01									
				14	<0.01	<0.01									
	1		3 (施設)	3	0.02	0.02									
				7	0.01	0.01									
				14	<0.01	<0.01									
公的分析機関															
りんご [無袋] (果実) 1994年度	1	散布： 500 g ai/ha	5	42	0.98	0.98	0.04	0.04	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.03	<1.08
				42	0.15	0.14	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.21
				社内分析機関											
	1		5	42	0.68	0.68	0.04	0.04	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.77
				42	0.11	0.10	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.15

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											合計
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
公的分析機関																
日本なし [無袋] (果実) 1995年度	1	散布： 500 g ai/ha	5	14	0.60	0.60	0.04	0.04	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.78	
				28	0.46	0.45	0.03	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.53	
				42	0.22	0.22	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	0.01	<0.27	
	1	散布： 500 g ai/ha	5	14	0.37	0.36	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.68	
				28	0.22	0.22	0.03	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.53	
				42	0.03	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.27	
社内分析機関																
1	散布： 500 g ai/ha	5	14	0.57	0.56	0.04	0.04	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.04	0.04	<0.68		
			28	0.40	0.38	0.04	0.04	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.03	0.03	<0.50		
			42	0.24	0.23	0.02	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.31		
1	散布： 500 g ai/ha	5	14	0.30	0.30	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.36		
			28	0.16	0.15	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.22		
			42	0.03	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.01	0.01	<0.07		
公的分析機関																
日本なし [無袋] (果実) 1998年度	1	散布： 500 g ai/ha	5	1	0.68	0.68										
				3	0.49	0.48										
				7	0.57	0.57										
	1	散布： 500 g ai/ha	5	1	0.36	0.35										
				3	0.19	0.18										
				7	0.13	0.12										
社内分析機関																
1	散布： 500 g ai/ha	5	1	0.63	0.62											
			3	0.37	0.36											
			7	0.41	0.40											
1	散布： 500 g ai/ha	5	1	0.25	0.24											
			3	0.09	0.08											
			7	0.11	0.10											
公的分析機関																
びわ [施設] (果実) 2000年度 2002年度	1	散布： 400 g ai/ha	2	7	0.014	0.014										
				14	0.012	0.012										
				21	0.011	0.011										
	1	散布： 400 g ai/ha	3	7	0.017	0.017										
				14	0.013	0.013										
				21	0.011	0.011										
	1	散布： 400 g ai/ha	3	7	0.008	0.008										
				14	0.007	0.006										
				21	0.007	0.006										

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
もも [無袋] (果肉) 1997年度	公的分析機関														
	1	散布： 500 g ai/ha	3	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
				7	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/		
	1		3	1	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/	/		
				3	3	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/		
			7	7	0.01	0.01	/	/	/	/	/	/			
社内分析機関															
1	散布： 500 g ai/ha	3	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/	/		
			3	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/			
			7	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/			
1		3	1	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/	/			
			3	3	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/			
			7	7	<0.01	<0.01	/	/	/	/	/	/			
もも [無袋] (果皮) 1997年度	公的分析機関														
	1	散布： 500 g ai/ha	3	1	2.57	2.57	/	/	/	/	/	/	/		
				3	2.09	2.09	/	/	/	/	/	/			
				7	1.94	1.91	/	/	/	/	/	/			
	1		3	1	6.10	6.04	/	/	/	/	/	/			
				3	3	6.48	6.42	/	/	/	/	/			
			7	7	3.46	3.35	/	/	/	/	/				
社内分析機関															
1	散布： 500 g ai/ha	3	1	1.78	1.71	/	/	/	/	/	/	/			
			3	1.26	1.23	/	/	/	/	/	/				
			7	1.91	1.76	/	/	/	/	/	/				
1		3	1	4.37	4.26	/	/	/	/	/	/				
			3	3	4.81	4.64	/	/	/	/	/				
			7	7	3.12	3.02	/	/	/	/	/				
ネクタリン [露地] (果実) 2005年度	社内分析機関														
	1	散布： 400 g ai/ha	3	1	0.4	0.4	/	/	/	/	/	/			
				3	0.5	0.5	/	/	/	/	/				
				7	0.3	0.3	/	/	/	/	/				
				14	0.2	0.2	/	/	/	/	/				
	1		3	1	1.4	1.4	/	/	/	/	/	/			
			3	3	1.2	1.2	/	/	/	/	/				
			7	7	1.0	1.0	/	/	/	/	/				

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
すもも [露地・無袋] (果実) 2001年度	1	散布： 300~400 g ai/ha	3	1	0.13	0.12	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.11	0.11									
	1	3	1	0.06	0.06	/	/	/	/	/	/	/	/		
				3	0.06									0.06	
社内分析機関															
すもも [露地・無袋] (果実) 2001年度	1	散布： 300~400 g ai/ha	3	1	0.10	0.10	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.11	0.10									
	1	3	1	0.09	0.09	/	/	/	/	/	/	/	/		
				3	0.06									0.06	
公的分析機関															
うめ [露地] (果実) 2005年度	1	散布： 166~200 g ai/ha	3	1	0.4	0.4	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.6	0.6									
	1	3	1	0.5	0.5	/	/	/	/	/	/	/	/		
				7	0.3									0.2	
社内分析機関															
うめ [露地] (果実) 2005年度	1	散布： 166~200 g ai/ha	3	1	0.5	0.5	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.5	0.5									
	1	3	1	0.7	0.7	/	/	/	/	/	/	/	/		
				7	0.2									0.2	
公的分析機関															
うめ [露地] (果実) 2005年度	1	散布： 166~200 g ai/ha	3	1	0.1	0.1	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.2	0.2									

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										合計
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
おうとう [施設] (果実) 1996年度	1	散布： 500 g ai/ha	3	1	0.82	0.81									
				3	1.30	1.30									
	1	散布： 500 g ai/ha	3	7	0.74	0.74									
				1	0.47	0.47									
社内分析機関															
1996年度	1	散布： 500 g ai/ha	3	1	0.89	0.88									
				3	1.16	1.10									
	1	散布： 500 g ai/ha	3	7	0.63	0.62									
				1	0.43	0.42									
公的分析機関															
いちご [施設] (果実) 1994年度	1	定植前散布： 300 g ai/ha	5	217	0.01	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.05
				1	1.19	1.18	0.01	0.01	0.03	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<1.23
	1	定植前散布： 300g ai/ha 収穫前散布： 400 g ai/ha	定植前5 収穫前3	4	0.38	0.38	<0.01	<0.01	0.03	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.42
				8	0.40	0.38	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.44
社内分析機関															
1994年度	1	定植前散布： 300 g ai/ha	5	217	0.03	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.07
				1	0.87	0.82	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.91
	1	定植前散布： 300g ai/ha 収穫前散布： 400 g ai/ha	定植前5 収穫前3	4	0.55	0.54	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.59
				8	0.27	0.27	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.81

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験圃場数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										合計	
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
公的分析機関																
いちご [施設] (果実) 1995年度	1	定植前散布： 300 g ai/ha 定植時土壌灌注： 0.02g ai/株	定植前4 定植時1	89	0.11	0.11	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.15	
	1	定植前散布： 300 g ai/ha 定植時土壌灌注： 0.02 g ai/株 収穫前散布： 400 g ai/ha	定植前4 定植時1 収穫前3	1 3 7	0.97 0.75 0.60	0.94 0.75 0.60	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.0	0.03 0.03 0.02	0.03 0.03 0.02	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<1.03 <0.81 <0.65	
	社内分析機関															
	1	定植前散布： 300 g ai/ha 定植時土壌灌注： 0.02 g ai/株	定植前4 定植時1	89	0.11	0.11	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.15	
1	定植前散布： 300 g ai/ha 定植時土壌灌注： 0.02 g ai/株 収穫前散布： 400 g ai/ha	定植前4 定植時1 収穫前3	1 3 7	1.21 0.82 0.58	1.20 0.82 0.58	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<0.01 <0.01 <0.01	<1.25 <0.90 <0.62		

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											合計
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M			
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
公的分析機関																
ぶどう [施設・無袋] (果実) 1994年度	1	散布： 139~222 g ai/ha	4	45	3.31	3.24	0.02	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<3.38	
				60	1.17	1.17	0.01	0.01	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.01	0.01	<1.22	
				75	0.22	0.21	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.26	
	1	散布： 139~222 g ai/ha	4	45	1.28	1.28	0.02	0.02	0.02	0.02	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<1.35	
				59	0.99	0.98	0.03	0.03	0.03	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<1.07	
				75	1.05	1.04	0.05	0.04	0.02	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<1.14	
社内分析機関																
ぶどう [施設・無袋] (果実) 1994年度	1	散布： 139~222 g ai/ha	4	45	4.35	4.22	0.03	0.03	0.08	0.08	0.01	<0.01	0.03	0.03	4.50	
				60	1.42	1.40	0.01	0.01	0.04	0.04	<0.01	<0.01	0.01	0.01	<1.49	
				75	0.22	0.22	<0.01	<0.01	0.03	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.30	
	1	散布： 139~222 g ai/ha	4	45	1.69	1.68	0.02	0.02	0.02	0.07	<0.01	<0.01	0.03	0.03	<1.82	
				59	1.25	1.22	0.04	0.04	0.04	0.06	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<1.38	
				75	1.36	1.28	0.05	0.05	0.05	0.03	<0.01	<0.01	0.02	0.02	<1.47	
公的分析機関																
かき [露地] (果実) 1998年度	1	散布： 300 g ai/ha	3	7	0.04	0.04	/	/	/	/	/	/	/	/		
				14	0.03	0.03	/	/	/	/	/	/	/	/		
				21	0.03	0.03	/	/	/	/	/	/	/	/		
	1	散布： 400 g ai/ha	3	7	0.31	0.30	/	/	/	/	/	/	/	/		
				14	0.29	0.26	/	/	/	/	/	/	/	/		
				21	0.09	0.19	/	/	/	/	/	/	/	/		
社内分析機関																
かき [露地] (果実) 1998年度	1	散布： 300 g ai/ha	3	7	0.05	0.05	/	/	/	/	/	/	/	/		
				14	0.05	0.04	/	/	/	/	/	/	/	/		
				21	0.04	0.04	/	/	/	/	/	/	/	/		
	1	散布： 400 g ai/ha	3	7	0.37	0.36	/	/	/	/	/	/	/	/		
				14	0.33	0.32	/	/	/	/	/	/	/	/		
				21	0.23	0.22	/	/	/	/	/	/	/	/		
公的分析機関																
バナナ [露地] (果実) 2004年	1	散布： 200 g ai/ha	3	7	1.34	1.33	/	/	/	/	/	/	/	/		
				14	1.21	1.18	/	/	/	/	/	/	/	/		
				21	1.18	1.15	/	/	/	/	/	/	/	/		
	1	散布： 200 g ai/ha	3	7	0.72	0.72	/	/	/	/	/	/	/	/		
				14	0.60	0.58	/	/	/	/	/	/	/	/		
				21	0.64	0.63	/	/	/	/	/	/	/	/		

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)										
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	
公的分析機関															
グアバ [露地] (果実) 2005年度	1	散布: 139~222 g ai/ha	3	14	0.03	0.03	/	/	/	/	/	/	/	/	/
				21	0.02	0.02	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.09	0.08	/	/	/	/	/	/	/	/	
1	3	14	0.06	0.06	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
					21	0.04	0.04	/	/	/	/	/	/	/	
					7	0.09	0.08	/	/	/	/	/	/	/	
公的分析機関															
マンゴー [施設・無袋] (果実) 2004年度	1	散布: 200 g ai/ha	1	1	0.5	0.5	/	/	/	/	/	/	/	/	
				3	0.4	0.4	/	/	/	/	/	/	/		
				7	0.4	0.4	/	/	/	/	/	/	/		
1	1	3	0.4	0.4	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
					7	0.4	0.4	/	/	/	/	/	/	/	
					7	0.4	0.4	/	/	/	/	/	/	/	
公的分析機関															
パッション フルーツ [露地] (果実) 2000年度	1	散布: 300 g ai/ha	3	1	0.36	0.33	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.29	0.27	/	/	/	/	/	/	/		
				14	0.09	0.09	/	/	/	/	/	/	/		
1	3	1	0.25	0.25	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
					7	0.30	0.28	/	/	/	/	/	/	/	
					14	0.17	0.15	/	/	/	/	/	/	/	
社内分析機関															
1	3	1	0.31	0.30	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
					7	0.21	0.20	/	/	/	/	/	/	/	
					14	0.12	0.12	/	/	/	/	/	/	/	
1	3	1	0.32	0.30	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
					7	0.21	0.20	/	/	/	/	/	/	/	
					14	0.12	0.12	/	/	/	/	/	/	/	

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験 圃場 数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											
					アゾキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
公的分析機関																
いちじく [露地・無袋] (果実) 2001年度	1	散布： 230~300 g ai/ha	3	1	0.25	0.25	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.24	0.24										
	1	3	1	0.58	0.58	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.28											0.28
	社内分析機関															
	1	散布： 230~300 g ai/ha	3	1	0.22	0.22	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
7				0.17	0.17											
1	3	1	0.48	0.48	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			7	0.22												0.22
公的分析機関																
ピタヤ [露地] (果実) 2005年度	1	散布： 188~200 g ai/ha	3	1	1.44	1.42	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.53	0.52										
	1	3	1	0.26	0.26	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				7	0.40											0.37
公的分析機関																
茶 [露地] (荒茶) 1998年度	1	散布： 200 g ai/ha	3	14	4.77	4.75	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	1.52	1.51										
	1	3	14	2.64	2.62	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	1.18											1.17
	1	3	14	0.80	0.80	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	0.27											0.26
	1	3	14	3.54	3.46	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	0.67											0.66
	社内分析機関															
	1	散布： 200 g ai/ha	3	14	4.57	4.56	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
				21	1.40	1.38										
	1	3	14	2.03	2.02	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
21				0.96	0.95											
1	3	14	0.59	0.58	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			21	0.20												0.20
1	3	14	3.30	3.09	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
			21	0.54												0.53

作物名 [栽培形態] (分析部位) 実施年度	試験圃 場数	使用量	回数 (回)	PHI (日)	残留値(mg/kg)											
					アノキシストロピン		代謝物 D		代謝物 F		代謝物 L		代謝物 M		合計	
					最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値	最高値	平均値		
社内分析機関																
茶 [露地] (浸出液) 1998年度	1	散布： 200 g ai/ha	3	14	2.52	2.50	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
				21	0.57	0.57	/	/	/	/	/	/	/	/		
			3	14	1.35	1.34	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
				21	0.65	0.64	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1	3	14	0.42	0.42	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
		21	0.17	0.17	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
1	3	14	14	1.31	1.28	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
			21	0.29	0.28	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
社内分析機関																
あさつき [露地] (茎葉) 2004年度	1	散布： 150~200 g ai/ha	4	3	1.5	1.5	/	/	/	/	/	/	/	/		
				7	0.2	0.2	/	/	/	/	/	/	/	/		
	4		14	<0.1	<0.1	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
			3	0.8	0.8	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
1	4	7	0.4	0.4	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
		14	0.2	0.2	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
公的分析機関																
しそ [施設] (葉) 2002年度	1	散布： 200 g ai/ha	2	1	0.11	0.10	/	/	/	/	/	/	/	/		
				3	<0.04	<0.04	/	/	/	/	/	/	/	/		
	2		7	<0.04	<0.04	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
			1	0.04	0.04	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
1	2	3	<0.04	<0.04	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
		7	<0.04	<0.04	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
公的分析機関																
こんにゃく [露地] (球茎) 2007年度	1	散布： 1,800 ^G g ai/ha	1	123	0.007	0.007	/	/	/	/	/	/	/	/		
				137	0.009	0.008	/	/	/	/	/	/	/	/		
	1		151	0.007	0.007	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
			100	0.005	0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
1	1	114	0.007	0.006	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
		128	<0.005	<0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
社内分析機関																
1	1	散布： 1,800 ^G g ai/ha	1	123	<0.005	<0.005	/	/	/	/	/	/	/	/		
				137	0.006	0.006	/	/	/	/	/	/	/	/		
	1		151	<0.005	<0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
			100	<0.005	<0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
1	1	114	0.005	0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	/			
		128	<0.005	<0.005	/	/	/	/	/	/	/	/	/			

注) ー：使用量不明 (500倍希釈液に浸漬)

- ・使用量欄にG印は粒剤、P印は粉剤、それ以外はフロアブル剤を用いた。
- ・すべてのデータが定量限界未満の場合は定量限界の平均に<を付して記載した。
- ・キャベツ、ねぎ、ピーマン、きゅうり及びネクタリンで代謝物Bが測定されたが、いずれも定量限界未満 (<0.01 mg/kg) であった。

<別紙 4 : 作物残留試験成績 (添加物としての使用) >

作物名 (品種) 試験年	作物の収穫場所	使用回数	圃場処理量及び 処理後処理量	分析結果 (mg/kg) ²⁾	
				最大値	最小値
グレープフルーツ (マーシュ) 2001年	米国 カルフォルニア州	2	0.056g ai/m ²	0.288	0.251
	米国 テキサス州			0.101	0.098
	米国 カルフォルニア州	2 +	0.056g ai/m ² +	5.427	2.938
	米国 テキサス州			2.096	1.562
	米国 カルフォルニア州	1	0.004g ai/kg 果実 梱包工程 Spray 処理 (含ワックス)	0.986	0.915
				0.056g ai/m ² +	1.443
	米国 テキサス州		1.19g ai/L 水 Dip 処理 (無ワックス)	1.675	1.517
	米国 カルフォルニア州	2 +	0.056g ai/m ² +	0.554	0.414
				0.004g ai/kg 果実 梱包工程 Spray 処理 (無ワックス) +	
	米国 テキサス州	2 +	0.056g ai/m ² +	2.682	2.077
1.19g ai/L 水 Dip 処理 (含ワックス) +					
		1.19g ai/L 水 Dip 処理 (無ワックス)	2.870	2.603	
米国 カルフォルニア州	2 +	2	0.056g ai/m ² +	0.865	0.734
		0.004g ai/kg 果実 梱包工程 Spray 処理 (含ワックス) +			
			0.004g ai/kg 果実 梱包工程 Spray 処理 (無ワックス) +		
			輸送用ワックス処理		

作物名 (品種) 試験年	作物の収穫場所	使用回数	圃場処理量及び 処理後処理量	分析結果 (mg/kg) ²⁾	
				最大値	最小値
オレンジ (パレンシア) 2001年	米国 カルフォルニア州	2	0.056g ai/m ²	0.285	0.171
	米国 フロリダ州			0.087	0.075
	米国 カルフォルニア州	2 + 1	0.056g ai/m ² + 1.19g ai/L 水 Dip 処理 (含ワックス)	3.994	2.385
	米国 フロリダ州			1.632	1.213
	米国 カルフォルニア州			1.082	0.822
	米国 フロリダ州			1.982	1.509
	米国 フロリダ州			1.468	1.309
米国 カルフォルニア州	0.467	0.365			

作物名 (品種) 試験年	作物の収穫場所	使用 回数	圃場処理量及び 処理後処理量	分析結果 (mg/kg) ²⁾	
				最大値	最小値
オレンジ (バレンシア) 2001年	米国 カルフォルニア州	2 + 2	0.056g ai/m ² + 1.19g ai/L 水 Dip 処理 (含ワックス) + 1.08g ai/L 水 Dip 処理 (無ワックス)	2.150	1.512
	米国 フロリダ州		0.056g ai/m ² + 1.08g ai/L 水 Dip 処理 (含ワックス) + 1.19g ai/L 水 Dip 処理 (無ワックス)	2.087	1.784
	米国 カルフォルニア州		0.056g ai/m ² + 0.004g ai/kg 果実 梱包工程 Spray 処理 (含ワックス) + 0.004g ai/kg 果実 梱包工程 Spray 処理 (無ワックス) + 輸送用ワックス処理	0.584	0.578

作物名 (品種) 試験年	作物の収穫場所	使用 回数	圃場処理量及び 処理後処理量	分析結果 (mg/kg) ²⁾	
				最大値	最小値
レモン (ユウレカ) 2001年	米国 カルフォルニア州	2	0.056g ai/m ²	0.515	0.289
				0.693	0.466
			0.056g ai/m ² +	3.577	2.711
			1.19g ai/L 水 Dip 処理 (含ワックス)	6.643	5.050
			0.056g ai/m ² +		
			0.004g ai/kg 果実 梱包工程 Spray 処理 (含ワックス)	1.565	1.179
		2 +	0.056g ai/m ² +	2.451	1.941
		1	1.19g ai/L 水 Dip 処理 (無ワックス)	1.952	1.466
			0.056g ai/m ² +		
			0.004g ai/kg 果実 梱包工程 Spray 処理 (無ワックス) +	0.808	0.715
	輸送用ワックス処理				
		0.056g ai/m ² +	5.478	3.604	
	1.19g ai/L 水 Dip 処理 (含ワックス)				
2 +	1.19g ai/L 水 Dip 処理 (無ワックス)	9.182	8.152		
2					
	0.056g ai/m ² +				
	0.004g ai/kg 果実 梱包工程 Spray 処理 (含ワックス) +				
	0.004g ai/kg 果実 梱包工程 Spray 処理 (無ワックス) +	0.880	0.775		
	輸送用ワックス処理				

<別紙5：推定摂取量>

作物名	残留値 (mg/kg)	国民平均		小児(1~6歳)		妊婦		高齢者(65歳以上)	
		ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)	ff (g/人/日)	摂取量 (μg/人/日)
米	0.03	185.1	5.55	97.7	2.93	139.7	4.19	188.8	5.66
小麦	0.06	116.8	7.01	82.3	4.94	123.4	7.40	83.4	5.00
大豆	0.02	56.1	1.12	33.7	0.67	45.5	0.91	58.8	1.18
小豆	0.01	1.4	0.01	0.5	0.01	0.1	0.00	2.7	0.03
こんにゃくいも	0.008	12.9	0.1	5.7	0.05	11	0.09	13.4	0.11
だいこん(葉)	0.26	2.2	0.57	0.5	0.13	0.9	0.23	3.4	0.88
かぶ(根)	0.02	2.6	0.05	0.7	0.01	0.7	0.01	4.2	0.08
かぶ(葉)	5.16	0.5	2.58	0.1	0.52	0.3	1.55	1.1	5.68
クレソン	0.23	0.1	0.02	0.1	0.02	0.1	0.02	0.1	0.02
はくさい	0.04	29.4	1.18	10.3	0.41	21.9	0.88	29.9	1.20
キャベツ	0.03	22.8	0.68	9.8	0.29	22.9	0.69	23.1	0.69
こまつな	4.6	4.3	19.78	2	9.20	1.6	7.36	5.9	27.14
きょうな	16.6	0.3	4.98	0.1	1.66	0.1	1.66	0.3	4.98
その他の アブラナ科野菜	8.83	2.1	18.54	0.3	2.65	0.2	1.77	3.1	27.37
エンダイブ	0.62	0.1	0.06	0.1	0.06	0.1	0.06	0.1	0.06
レタス	15	6.1	94.50	2.5	37.50	6.4	96.00	4.2	63.00
その他の きく科野菜	1.9	0.4	0.76	0.1	0.19	0.5	0.95	0.7	1.33
たまねぎ	0.02	30.3	0.61	13.5	0.37	33.1	0.66	22.6	0.45
ねぎ	1.13	11.3	12.77	4.5	5.09	8.2	9.27	13.5	15.3
にら	1.54	1.6	2.46	0.7	1.08	0.7	1.08	1.6	2.46
アスパラガス	0.44	0.9	0.40	0.3	0.13	0.4	0.18	0.9	0.40
ワケギ	0.2	0.2	0.04	0.1	0.02	0.1	0.02	0.3	0.06
その他の ゆり科野菜	1.65	0.9	1.49	0.1	0.17	0.1	0.17	1.8	2.97
にんじん	0.02	24.6	0.49	16.3	0.33	25.1	0.50	22.3	0.45
パセリ	0.19	0.1	0.02	0.1	0.02	0.1	0.02	0.1	0.02
セロリ	6.8	0.4	2.72	0.1	0.68	0.3	2.04	0.4	2.72
みつば	1.6	0.2	0.32	0.1	0.16	0.1	0.16	0.2	0.32
その他の せり科野菜	0.6	0.1	0.06	0.1	0.06	0.1	0.06	0.3	0.18
トマト	0.20	24.3	4.86	16.3	3.26	25.1	5.02	25.0	5.00
ピーマン	1.23	4.4	5.41	2.0	2.46	1.9	2.34	3.7	4.55
ナス	0.41	4.0	1.64	0.9	0.37	3.3	1.35	5.7	2.34
きゅうり	0.32	16.3	5.22	8.2	2.62	10.1	3.23	16.6	5.31
かぼちゃ	0.2	9.4	1.88	5.8	1.16	6.9	1.38	11.5	2.3
スイカ	0.01	0.1	0.00	0.1	0.00	0.1	0.00	0.1	0.00
その他のうり科 野菜	0.26	0.5	0.13	0.1	0.03	2.3	0.60	0.7	0.18
おくら	1.14	0.3	0.34	0.2	0.23	0.2	0.23	0.3	0.34
しょうが	0.029	0.6	0.02	0.2	0.01	0.7	0.02	0.7	0.02
未成熟えんどう	0.77	0.6	0.46	0.2	0.15	0.7	0.54	0.6	0.46
未成熟インゲン	0.89	1.9	1.69	1.2	1.07	1.8	1.60	1.8	1.60
えだまめ	1.33	0.1	0.13	0.1	0.13	0.1	0.13	0.1	0.13
その他の野菜	1.6	12.6	20.16	9.7	15.52	9.6	15.36	12.2	19.52

なつみかんの 果実全体	9.182	0.1	1.00	0.92	1.00	0.92	1.00	0.1	0.92
レモン	9.182	0.3	2.75	0.2	1.84	0.3	2.75	0.3	2.75
オレンジ(含ネー ブルオレンジ)	3.994	0.4	1.60	0.6	2.40	0.8	3.20	0.2	0.80
グレープ フルーツ	5.247	1.2	6.30	0.4	2.10	2.1	11.02	0.8	4.20
ライム	9.182	0.1	1.00	0.92	1.00	0.92	1.00	0.1	0.92
その他の かんきつ	9.182	0.4	3.67	0.1	0.92	0.1	0.92	0.6	5.51
りんご	0.48	35.3	16.94	36.2	17.38	30.0	14.4	35.6	17.09
日本なし	0.47	5.1	2.40	4.4	2.07	5.3	2.49	5.1	2.40
びわ	0.014	0.1	0.001	0.1	0.001	0.1	0.001	0.1	0.001
もも	0.01	0.5	0.01	0.7	0.01	4.0	0.04	0.1	0.00
ネクタリン	0.9	0.1	0.09	0.1	0.09	0.1	0.09	0.1	0.09
スモモ	0.09	0.2	0.02	0.1	0.01	1.4	0.13	0.2	0.02
ウメ	0.5	1.1	0.55	0.3	0.15	1.4	0.7	1.6	0.8
おうとう	0.76	0.1	0.08	0.1	0.08	0.1	0.08	0.1	0.08
イチゴ	1.05	0.3	0.32	0.4	0.42	0.1	0.11	0.3	0.32
ブドウ	2.61	5.8	15.14	4.4	11.48	1.6	4.18	3.8	9.92
かき	0.19	31.4	5.97	8.0	1.52	21.5	4.09	49.6	9.42
バナナ	1.02	12.6	12.85	11.3	11.53	8.7	8.87	17.7	18.05
グアバ	0.08	0.1	0.008	0.1	0.008	0.1	0.008	0.1	0.008
マンゴー	0.4	0.1	0.04	0.1	0.04	0.1	0.04	0.1	0.04
パッションフルーツ	0.30	0.1	0.03	0.1	0.03	0.1	0.03	0.1	0.03
その他の 果実	0.82	3.9	3.20	5.9	4.84	1.4	1.15	1.7	1.39
茶	2.74	3.0	8.22	1.4	3.84	3.5	9.59	4.3	11.78
その他のハーブ	1.2	0.1	0.12	0.1	0.12	0.1	0.12	0.1	0.12
魚介類	0.071	94.1	6.68	42.8	3.04	94.1	6.97	94.1	6.79
合計			306.6		162.2		242.1		303.3

- 注) ・農薬として使用した場合の残留値は、申請されている使用時期・使用回数の内、最大の残留を示す試験区の平均残留値を用いた(参照 別紙3)。
・添加物として使用した場合の残留値は、最大値を用いた(参照 別紙4)。
・「 \bar{x} 」：平成10~12年の国民栄養調査(参照67~69)の結果に基づく農産物摂取量(g/人/日)妊婦及び高齢者の魚介類の \bar{x} は国民平均の \bar{x} を用いた。
・「摂取量」：残留値及び農産物摂取量から求めたアゾキシストロビンの推定摂取量($\mu\text{g}/\text{人}/\text{日}$)
・小豆類はあずき、その他のアブラナ科野菜は畑わさび、レタスはサラダ菜、その他のきく科野菜は葉ごぼう、その他のゆり科野菜は葉たまねぎ、その他のせり科野菜はせり、かぼちゃはズッキーニ、その他のうり科野菜はにがうり、その他の野菜はみょうが、その他の果実はピタヤ、その他のハーブはあさつき、なつみかんの果実全体、ライム、その他のかんきつはレモンの残留値を用いた。
・ばれいしょ、やまのいも、てんさい、大根(根部)、にんにく及びメロンは全データが定量限界未満であったため摂取量の計算はしていない。

<参照>

- 1 食品安全委員会に対し意見を求められた案件/清涼飲料水
- 2 7月1日に厚生労働省より意見の聴取要請のあった、清涼飲料水の規格基準の改正について：食品安全委員会農薬専門調査会第1回会合資料6
- 3 農薬抄録アゾキシストロビン（殺菌剤）（平成16年10月28日改訂）：シンジェンタジャパン株式会社、2004年、一部公表
(URL : <http://www.acis.famic.go.jp/syouroku/azoxystrobin/index.htm>)
- 4 アゾキシストロビンのラットにおける血中濃度および組織内分布（GLP 対応）：Central Toxicology Laboratory Zeneca、1995年、未公表
- 5 アゾキシストロビン（1 mg/kg）を用いたラットにおける排泄および組織内分布（GLP 対応）：Central Toxicology Laboratory Zeneca、1993年、未公表
- 6 アゾキシストロビン（100 mg/kg）を用いたラットにおける排泄および組織内分布（GLP 対応）：Central Toxicology Laboratory ICI、1993年、未公表
- 7 非標識物14日間経口投与後、標識アゾキシストロビン単回投与ラットにおける排泄および組織内分布（GLP 対応）：Central Toxicology Laboratory Zeneca、1993年、未公表
- 8 アゾキシストロビンのラットにおける生体内運命（GLP 対応）：Central Toxicology Laboratory Zeneca、1994年、未公表
- 9 アゾキシストロビンの残留農薬安全性評価委員会からの要望事項に対する回答：シンジェンタジャパン株式会社、2004年、未公表
- 10 アゾキシストロビンの稲における代謝試験（GLP 対応）：Jealott's Hill Research Station Zeneca、1995年、未公表
- 11 アゾキシストロビンの小麦における代謝試験（GLP 対応）：Jealott's Hill Research Station Zeneca、1994年、未公表
- 12 アゾキシストロビンのぶどう樹における代謝試験（GLP 対応）：Jealott's Hill Research Station Zeneca、1994年、未公表
- 13 アゾキシストロビンの落花生における代謝試験（GLP 対応）：Jealott's Hill Research Station Zeneca、1995年、未公表
- 14 好氣的湛水土壤代謝試験（GLP 対応）：Jealott's Hill Research Station Zeneca、1994年、未公表
- 15 好氣のおよび嫌氣的（湛水）条件下における土壤代謝試験（GLP 対応）：Jealott's Hill Research Station Zeneca、1995年、未公表
- 16 裸地圃場（米国）における土壤中分解試験（GLP 対応）：Jealott's Hill Research Station Zeneca、1995年、未公表
- 17 土壤表面における光分解試験（GLP 対応）：Jealott's Hill Research Station Zeneca、1995年、未公表
- 18 日本土壤における土壤吸着試験（GLP 対応）：Jealott's Hill Research Station Zeneca、1995年、未公表
- 19 英国土壤における土壤吸着試験（GLP 対応）：Jealott's Hill Research Station Zeneca、1994

- 年、未公表
- 20 土壌リーチング試験 (GLP 対応) : Jealott's Hill Research Station Zeneca、1994 年、未公表
 - 21 pH5、7 および 9、温度 25 および 50°C における加水分解試験 (GLP 対応) : Jealott's Hill Research Station Zeneca、1994 年、未公表
 - 22 緩衝液 (pH7) 中における光分解試験 (GLP 対応) : Jealott's Hill Research Station Zeneca、1994 年、未公表
 - 23 自然水及び蒸留水中での光分解試験 (GLP 対応) : Jealott's Hill Research Station Zeneca、1995 年、未公表
 - 24 アゾキシストロビンの土壌残留試験成績 : (株) 化学分析コンサルタント、1994 年、未公表
 - 25 アゾキシストロビンの乳牛における残留試験 : Zeneca Agrocheminals、1994 年、未公表
 - 26 アゾキシストロビンの作物残留試験成績 : (財) 日本食品分析センター他、1995-2003 年、未公表
 - 27 アゾキシストロビンの作物残留試験成績 代謝物の作物残留 : (財) 日本食品分析センター他、1995-1997 年、未公表
 - 28 アゾキシストロビンにおける薬理試験 (GLP 対応) : (株) イナリサーチ、1995 年、未公表
 - 29 アゾキシストロビンのラットにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory ICI、1991 年、未公表
 - 30 アゾキシストロビンのラットにおける急性経皮毒性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory ICI、1991 年、未公表
 - 31 ラットにおける急性吸入毒性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory ICI、1992 年、未公表
 - 32 アゾキシストロビンのマウスにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory ICI、1991 年、未公表
 - 33 原体混在物 (Z 異性体、R230310) のマウスにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1995 年、未公表
 - 34 ラットにおける急性神経毒性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1994 年、未公表
 - 35 ウサギを用いた眼刺激性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory ICI、1991 年、未公表
 - 36 ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory ICI、1991 年、未公表
 - 37 モルモットを用いた皮膚感作性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory ICI、1991 年、未公表
 - 38 ラットを用いた混餌投与により 90 日間反復経口投与毒性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory ICI、1992 年、未公表

- 39 イヌを用いた経口投与による 90 日間反復経口毒性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1994 年、未公表
- 40 ラットを用いた 90 日間混餌投与神経毒性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1994 年、未公表
- 41 イヌを用いた経口投与による 1 年間反復投与毒性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1994 年、未公表
- 42 ラットを用いた飼料混入投与による慢性毒性/発癌性併合試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1995 年、未公表
- 43 マウスを用いた飼料混入投与による発癌性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1995 年、未公表
- 44 ラットを用いた二世代繁殖毒性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1994 年、未公表
- 45 ラットにおける催奇形性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1994 年、未公表
- 46 ウサギにおける催奇形性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1995 年、未公表
- 47 妊娠ウサギにおける母毒性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1997 年、未公表
- 48 細菌を用いた DNA 修復試験 (GLP 対応) : (財) 残留農薬研究所、1995 年、未公表
- 49 細菌を用いた復帰変異試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory ICI、1992 年、未公表
- 50 マウスリンパ腫細胞 (L5178Y) を用いた *in vitro* 変異原性試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1993 年、未公表
- 51 培養ヒトリンパ球を用いた *in vitro* 染色体異常試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory ICI、1992 年、未公表
- 52 ラット肝細胞を用いた不定期 DNA 合成誘発試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory ICI、1992 年、未公表
- 53 小核試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory ICI、1992 年、未公表
- 54 原体混在物 (Z 異性体、R230310) の細菌を用いた復帰変異試験 (GLP 対応) : Central Toxicology Laboratory Zeneca、1995 年、未公表
- 55 食品健康影響評価について (平成 18 年 7 月 18 日付け厚生労働省発食安第 0718005 号)
- 56 食品、添加物等の規格基準 (昭和 34 年厚生省告示第 370 号) の一部を改正する件 (平成 17 年 11 月 29 日付、厚生労働省告示第 499 号)
- 57 アゾキシストロピンの食品健康影響評価の要求事項に対する回答書: シンジェンタジャパン株式会社、2006 年、未公表
- 58 代謝物 B (R234886) のラットにおける急性経口毒性試験 (GLP 対応) : RCC、2005 年、未公表
- 59 代謝物 B (R234886) の細菌を用いた復帰変異試験 (GLP 対応) : Central Toxicology

Laboratory Syngenta、2005年、未公表

- 60 食品健康影響評価について
- 61 食品健康影響評価の結果の通知について（平成18年12月21日付け府食第1130号）
- 62 食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）の一部を改正する件（平成19年9月21日付け、厚生労働省告示第303号）
- 63 食品健康影響評価について（平成19年10月2日付け厚生労働省発食安第1002002号）
- 64 農薬抄録アゾキシストロビン（殺菌剤）（平成19年7月31日改訂）：シンジェンタジャパン株式会社、2007年、一部公表
- 65 アゾキシストロビンの魚介類における最大推定残留値に係る資料
- 66 食品健康影響評価の結果の通知について（平成19年11月15日付け府食第1129号）
- 67 国民栄養の現状－平成10年国民栄養調査結果－：健康・栄養情報研究会編、2000年
- 68 国民栄養の現状－平成11年国民栄養調査結果－：健康・栄養情報研究会編、2001年
- 69 国民栄養の現状－平成12年国民栄養調査結果－：健康・栄養情報研究会編、2002年
- 70 食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）の一部を改正する件（平成20年6月30日付け、厚生労働省告示第351号）
- 71 食品健康影響評価について（平成21年6月8日付け厚生労働省発食安第0608001号）
- 72 農薬抄録 アゾキシストロビン（殺菌剤）（平成21年4月2日改訂）：シンジェンタジャパン株式会社、2009年、一部公表
- 73 アゾキシストロビンの作物残留試験成績（しょうが、えだまめ、バナナ）：シンジェンタジャパン株式会社、2009年、未公表
- 74 食品健康影響評価の結果の通知について（平成22年1月28日付け府食第64号）
- 75 食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）の一部を改正する件（平成22年12月13日付け、厚生労働省告示第417号）
- 76 食品健康影響評価について（平成23年10月4日付け厚生労働省発食安1004第1号）
- 77 農薬抄録 アゾキシストロビン（殺菌剤）（平成23年7月20日改訂）：シンジェンタジャパン株式会社、2011年、一部公表予定
- 78 アゾキシストロビンの作物残留試験成績（こんにゃく）：シンジェンタジャパン株式会社、2011年、未公表
- 79 アゾキシストロビン 指定要請添付資料概要：シンジェンタジャパン株式会社 未公表

